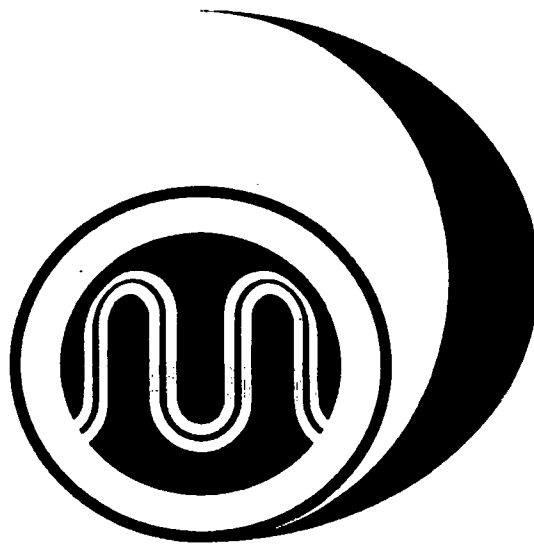


第305回
地震防災対策強化地域判定会

記者レクチャー資料



平成23年9月26日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次

定例資料

1. 地震活動概況 P. 1-8
2. 注目すべき地震活動 P. 9
3. 活動指数 P. 10-14
4. 静穏化・活発化領域の抽出 P. 15-16
5. 領域別地震活動 P. 17-27
6. ひずみ計による地殻変動観測 P. 28-53

平成 23 年 8 月～9 月 20 日の主な地震活動

(平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した地震については $M \geq 5.0$ のみ記述)

○ 想定震源域およびその周辺： $M \geq 3.0$ または震度 1 以上を観測した地震

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
8/1	19:01	駿河湾	21	2.4	1	南北に圧力軸を持つ逆断層型
8/1	23:58	駿河湾	23	6.2	5弱	南北に圧力軸を持つ逆断層型(CMT)
8/2	0:03	駿河湾	22	3.1	1	—
8/2	0:14	駿河湾	23	3.1	1	南北に圧力軸を持つ逆断層型
8/2	0:48	駿河湾	25	2.8	1	北北東—南南西に圧力軸を持つ逆断層型
8/2	1:11	駿河湾	24	3.1	—	—
8/2	4:44	駿河湾	23	3.1	1	北西—南東に張力軸を持つ型
8/5	7:38	駿河湾	24	3.2	1	北西—南東に圧力軸を持つ逆断層型
8/12	4:37	遠州灘	—	5.2	2	北西—南東に圧力軸を持つ逆断層型(CMT)
8/12	21:04	駿河湾	23	3.6	1	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
8/22	17:04	静岡県中部	20	2.8	1	西北西—東南東に張力軸を持つ型
8/29	0:47	駿河湾	22	3.1	1	西北西—東南東に張力軸を持つ型
8/30	9:39	駿河湾	21	2.9	1	—
9/1	12:50	静岡県東部	13	2.5	1	—
9/19	0:53	静岡県東部	12	2.2	1	—

発震機構は 8/1 の駿河湾の地震($M6.2$)と 8/12 の遠州灘の地震($M5.2$)は CMT 解、

それ以外は初動発震機構解による。

8/1 の駿河湾の地震($M6.2$)の M_w は 5.9、8/12 の遠州灘の地震($M5.2$)の M_w は 5.0。

※ 深部低周波地震活動

愛知県で深部低周波地震が観測された。

○ 南関東： $M \geq 4.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
8/2	12:37	千葉県北西部	64	4.1	4.1	—	2	東西に圧力軸を持つ逆断層型
9/4	5:52	埼玉県南部	90	4.7	4.7	5.0	3	東北東—西南西に圧力軸を持つ逆断層型
9/11	19:09	東京湾	73	4.3	4.3	4.5	3	東西に圧力軸を持つ逆断層型

発震機構は初動発震機構解による。

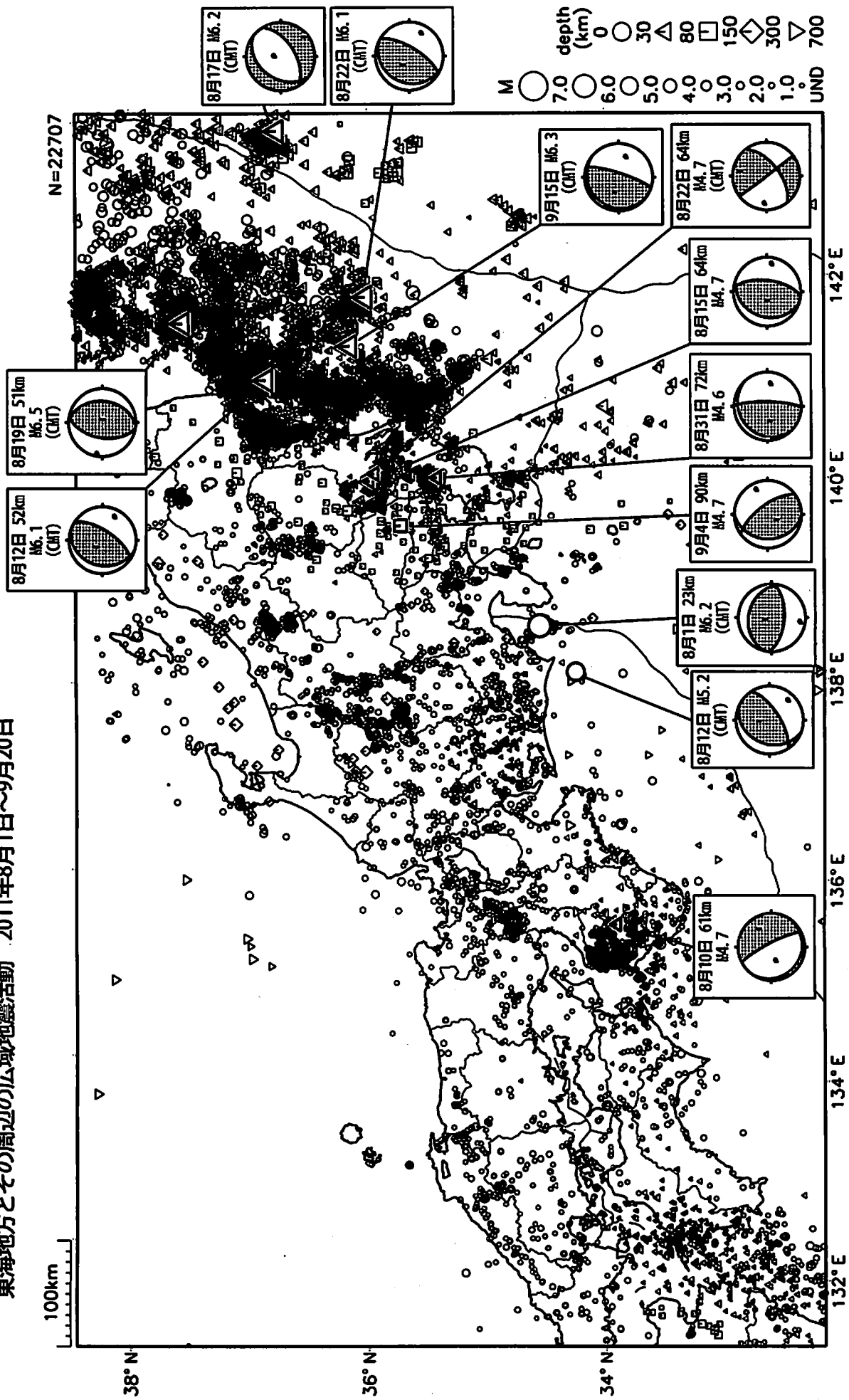
○ その他の地域： $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
8/12	3:22	福島県沖	52	6.1	6.1	5.8	5弱	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
8/17	20:44	関東東方沖	—	6.2	6.2	6.2	2	北西—南東に張力軸を持つ正断層型
8/19	14:36	福島県沖	51	6.5	6.5	6.3	5弱	東西に圧力軸を持つ逆断層型
8/22	20:23	茨城県沖	—	6.1	6.1	5.8	3	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
9/15	17:00	茨城県沖	—	6.3	6.3	6.2	4	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
9/17	4:26	岩手県沖	—	6.6	6.6	6.6	4	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
9/17	6:08	三陸沖	—	6.1	6.1	5.9	3	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型

Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

発震機構は CMT 解による。

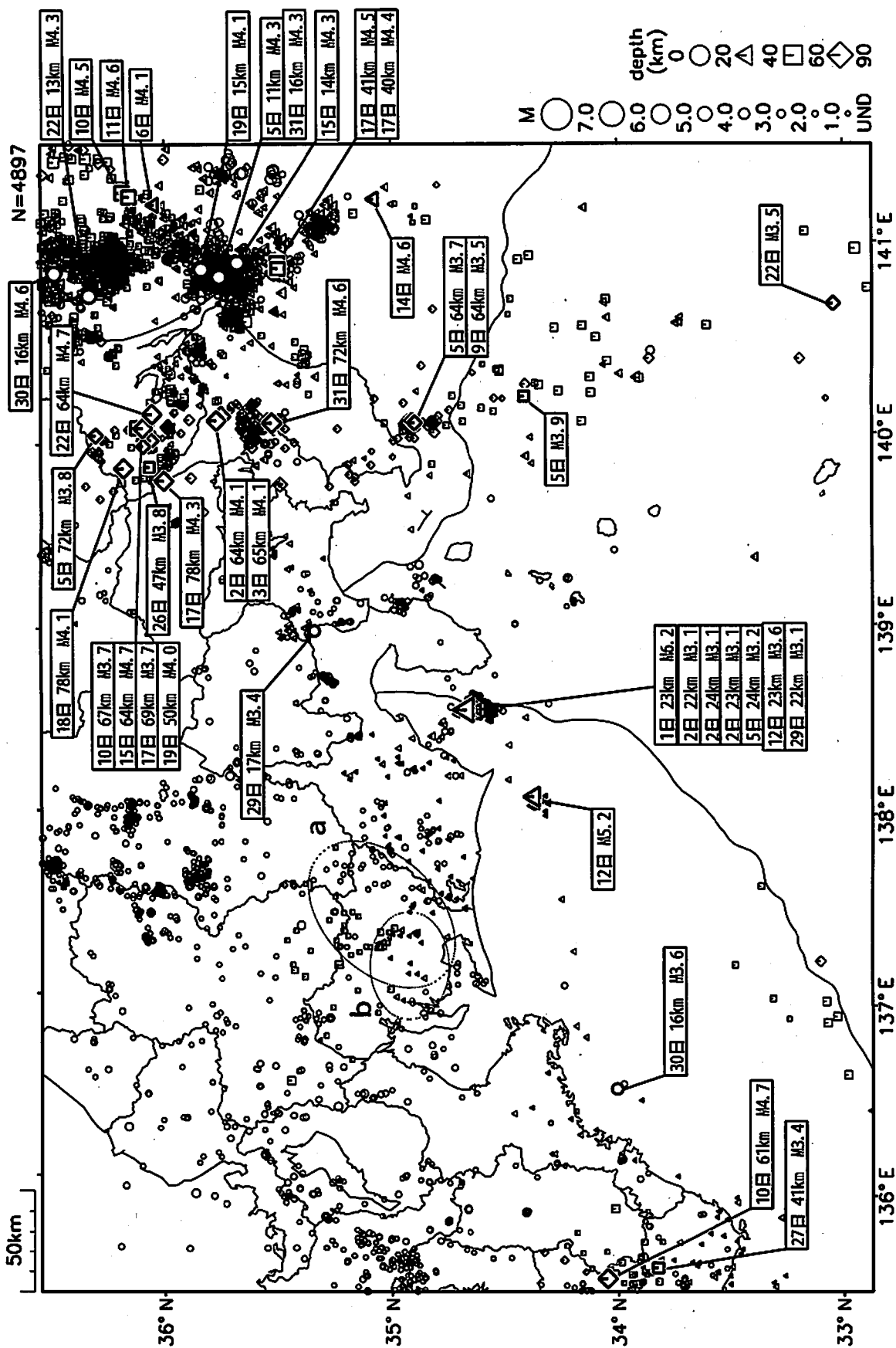
東海地方とその周辺の広域地震活動 2011年8月1日～9月20日



図中の吹き出しは、陸域M5.0以上・海域M5.0以上とその他の主な地震
 ただし、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震域で発生した地震については、M6.0以上の地震

気象庁作成

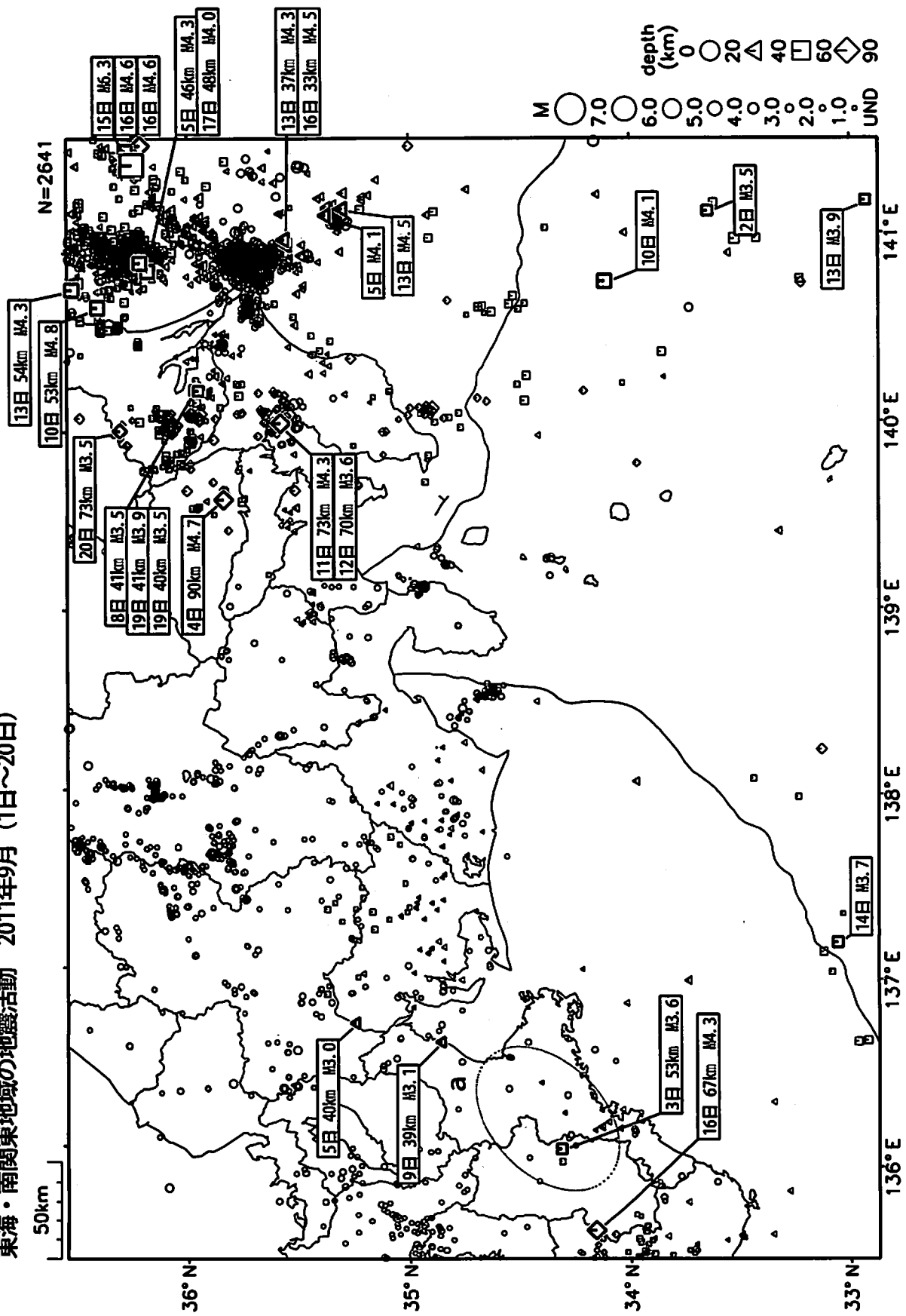
東海・南関東地域の地震活動 2011年8月 (1日～31日)



気象庁作成

精度良く震源決定された地震のみを表示している。
 1. 静岡県～愛知県(破線の領域 a)で7月23日から8月11日まで深部低周波地震が観測された。
 2. 愛知県(破線の領域 b)で8月12日及び8月21日から22日まで深部低周波地震が観測された。

東海・南関東地域の地震活動 2011年9月 (1日~20日)



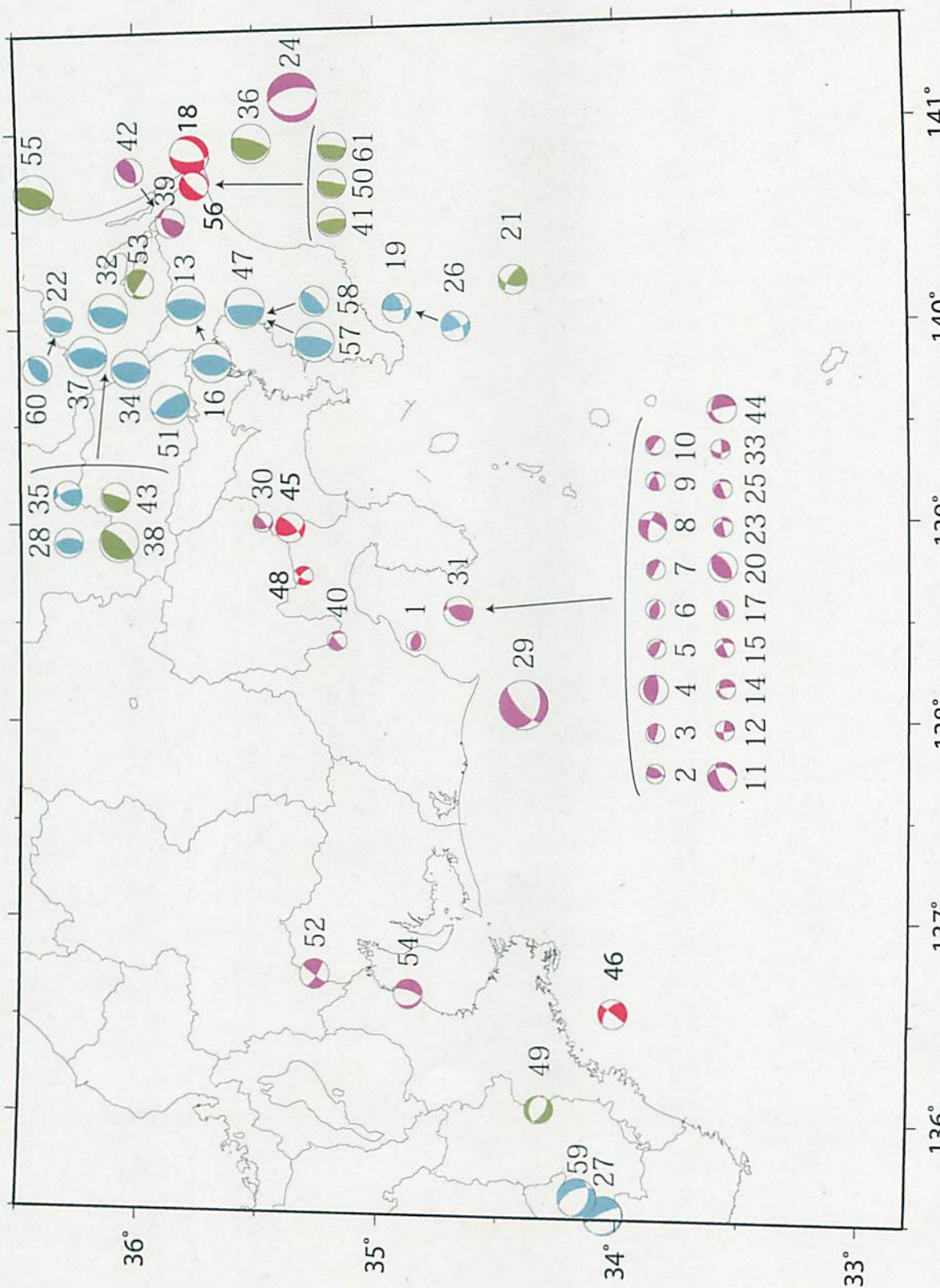
気象庁作成

精度はく震源決定された地震のみを表示している。
三河以中部～奈良以(破線の領域a)で9月12日から16日まで深部低周波地震が頻発された。

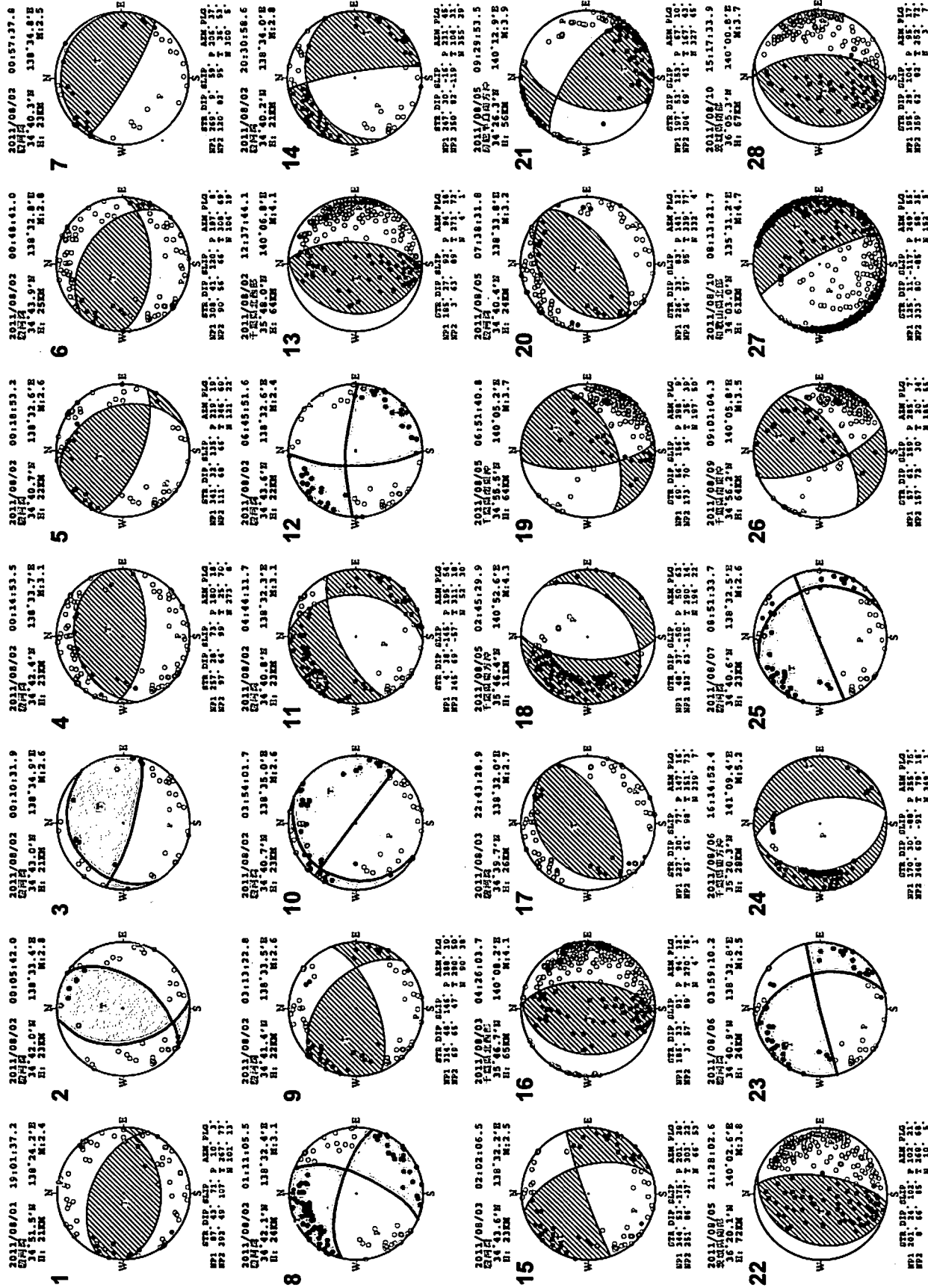
東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period: 2011/08/01 00:00 --- 2011/09/20 24:00

M



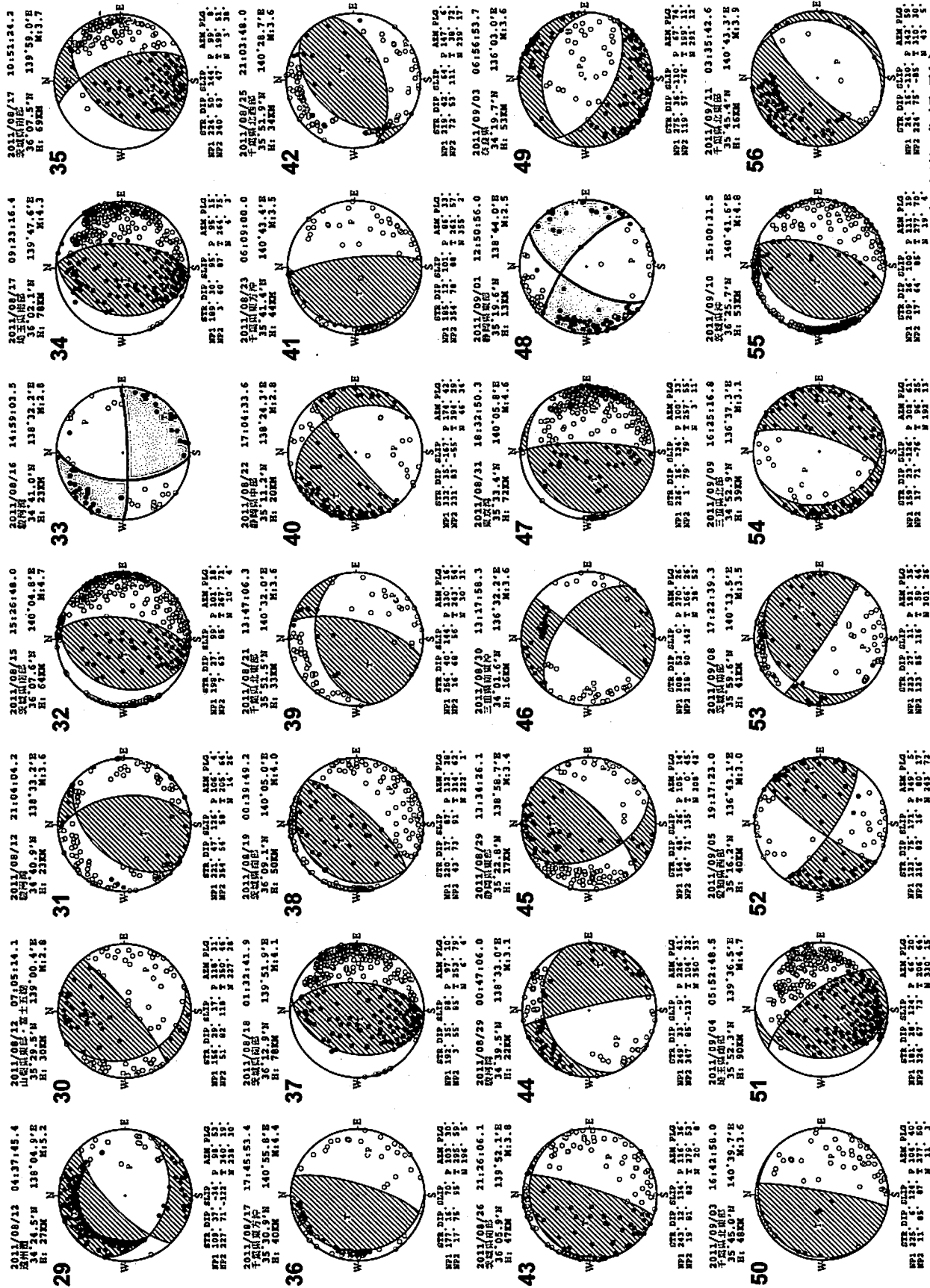
東海・南関東地域の発震機構解 (2)



(下半球投影)
[気象庁作成]

※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。
断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

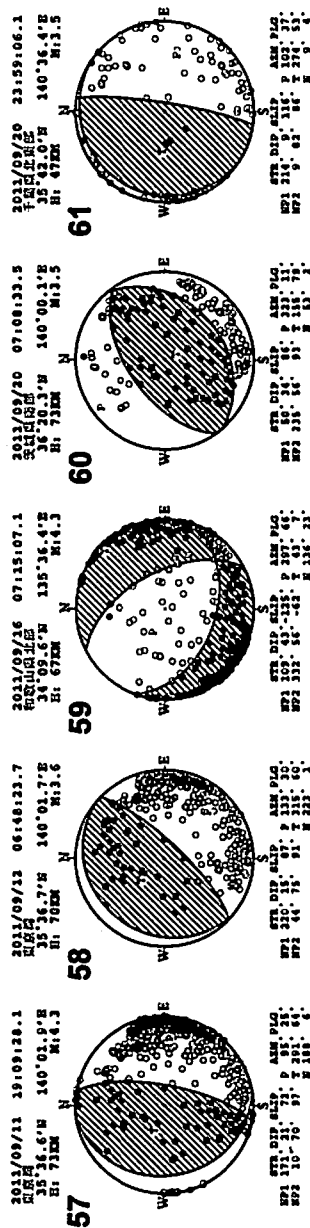
東海・南関東地域の発震機構解 (3)



(下半球投影)
[気象庁作成]

※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。
断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

東海・南関東地域の発震機構解 (4)



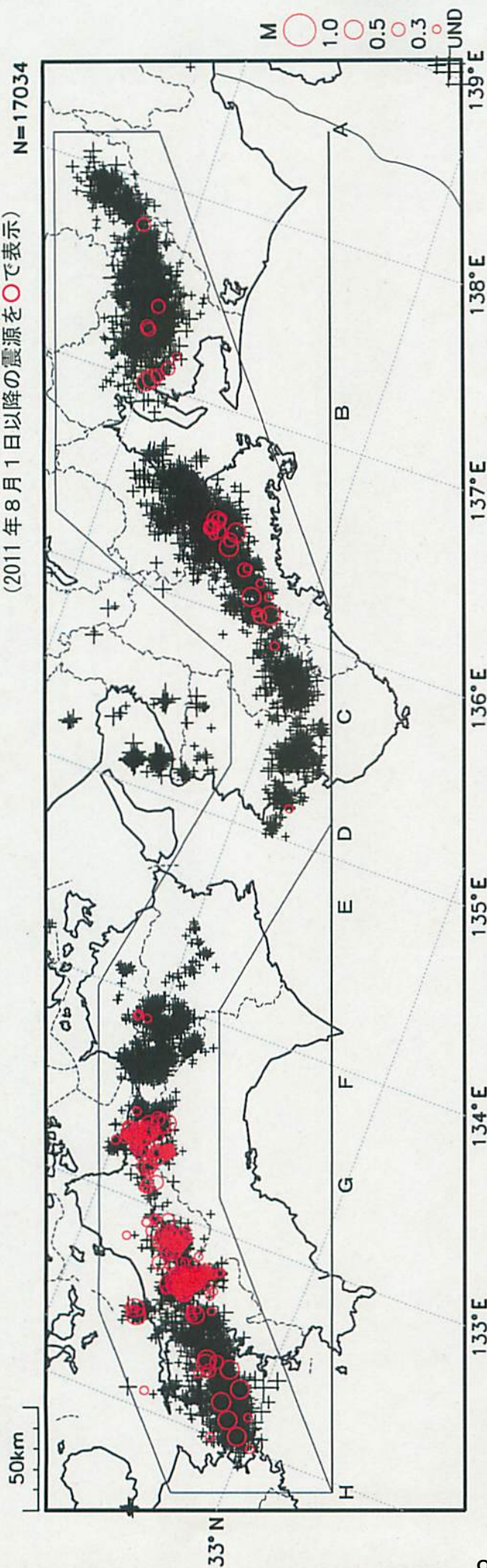
※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。

(下半球投影)
[気象庁作成]

深部低周波地震活動 (2000 年 1 月 1 日 ~ 2011 年 9 月 20 日)

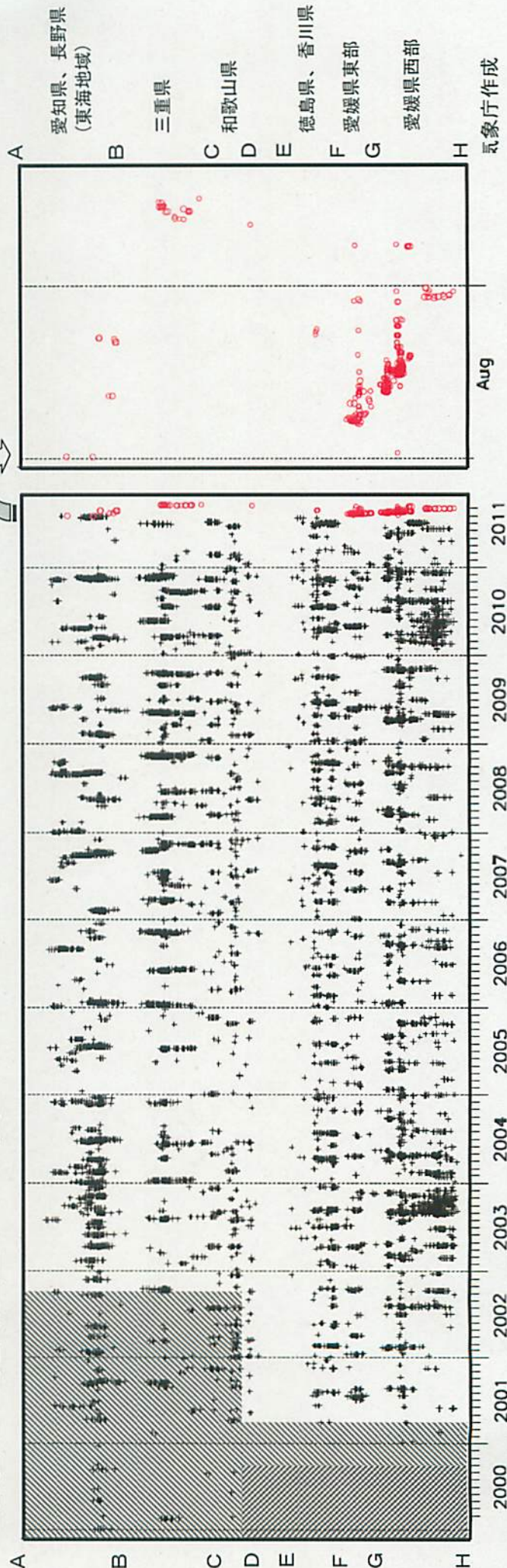
(2011 年 8 月 1 日以降の震源を○で表示)

N=17034



上図矩形内の時空間分布図 (A-H 投影)

(2011 年 8 月 1 日 ~ 9 月 20 日)



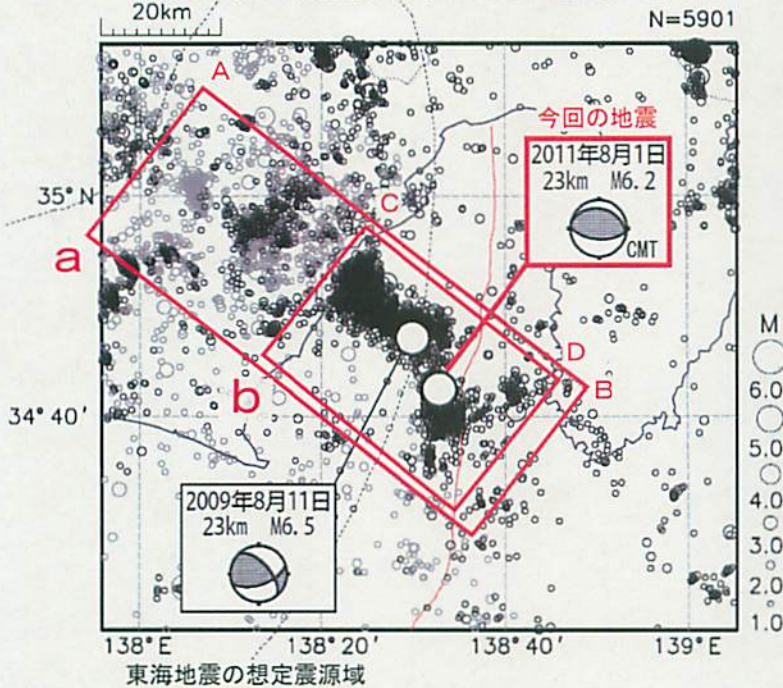
※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

気象庁作成

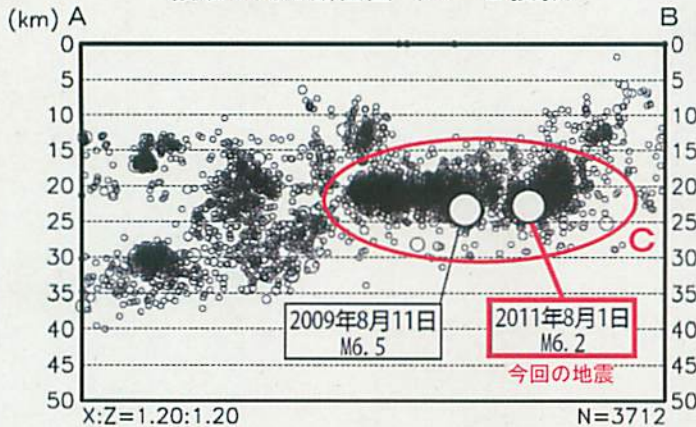
8月1日 駿河湾の地震

震央分布図 (1997年10月1日～2011年9月20日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～50km)

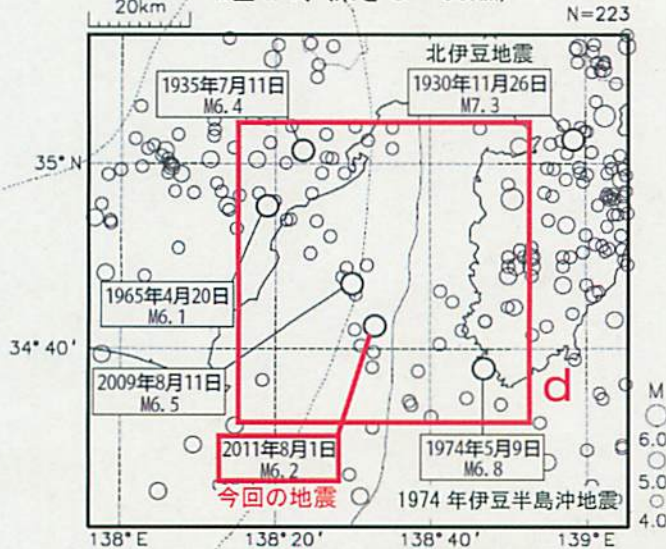
深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示。



領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図 (1923年8月1日～2011年9月20日、 $M \geq 4.0$ 、深さ0～50km)



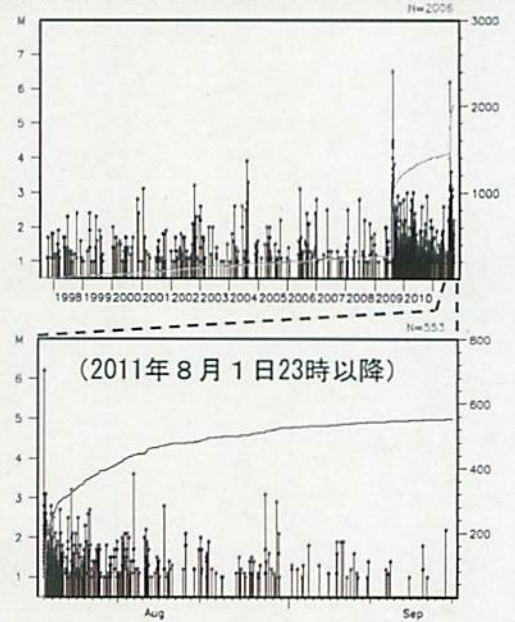
東海地震の想定震源域 ※1965年の $M 6.1$ の地震と1974年の $M 6.8$ の地震については、震源を再精査した。

8月1日23時58分に駿河湾の深さ23kmで $M 6.2$ の地震 (最大震度5弱) が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。この地震により、負傷者13人、住家一部損壊15棟などの被害が生じた (静岡県による)。震度1を観測する余震が8回発生したが、余震活動は次第に減衰している (9月22日現在)。

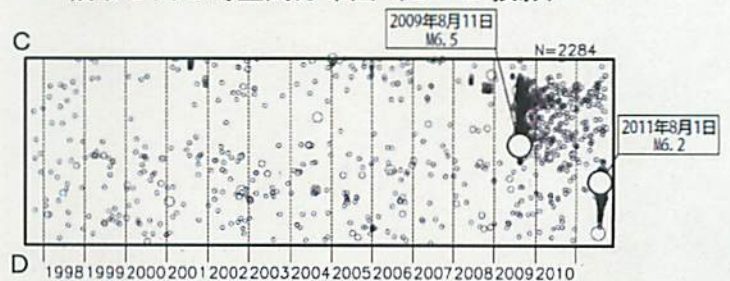
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域c) では、2009年8月11日に $M 6.5$ の地震 (最大震度6弱) が発生し、死者1人、負傷者319人などの被害が生じた (総務省消防庁による)。

1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域d) では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。

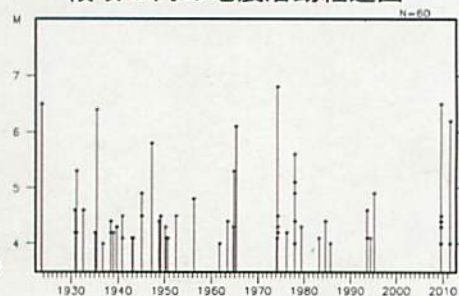
領域c内の地震活動経過図、回数積算図



領域b内の時空間分布図 (C-D投影)



領域d内の地震活動経過図



東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2011年9月20日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内 全域	西側	東側	全域
短期活動指数	8	4	7	3	2	4	2	6
短期地震回数 (平均)	11 (5.29)	5 (7.00)	21 (13.16)	10 (14.15)	3 (6.16)	2 (2.46)	1 (3.70)	9 (6.06)
中期活動指数	8	5	5	5	0	2	0	5
中期地震回数 (平均)	27 (15.87)	25 (21.00)	45 (39.48)	46 (42.44)	3 (12.32)	2 (4.93)	1 (7.39)	14 (12.12)

* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M $\geq$ 1.1、駿河湾：M $\geq$ 1.4

* クラスタ除去：震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$

駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$

* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： おおむね長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

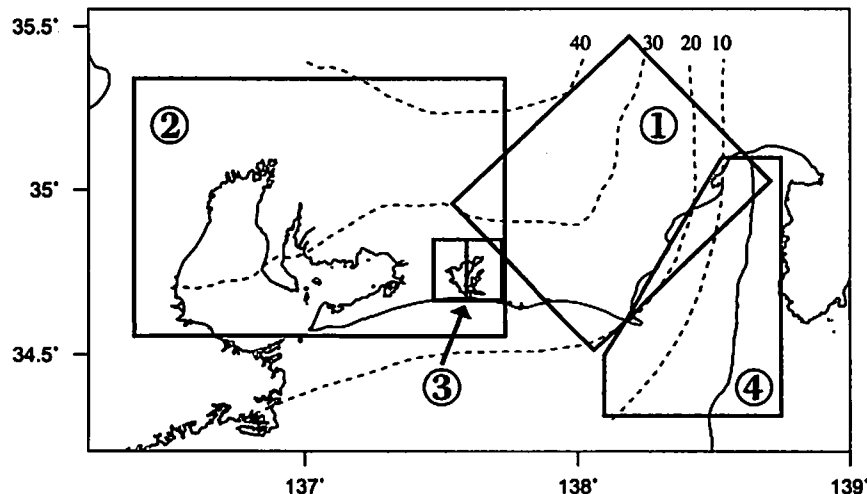
浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

[各領域の説明] ① 静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③ 浜名湖周辺：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。



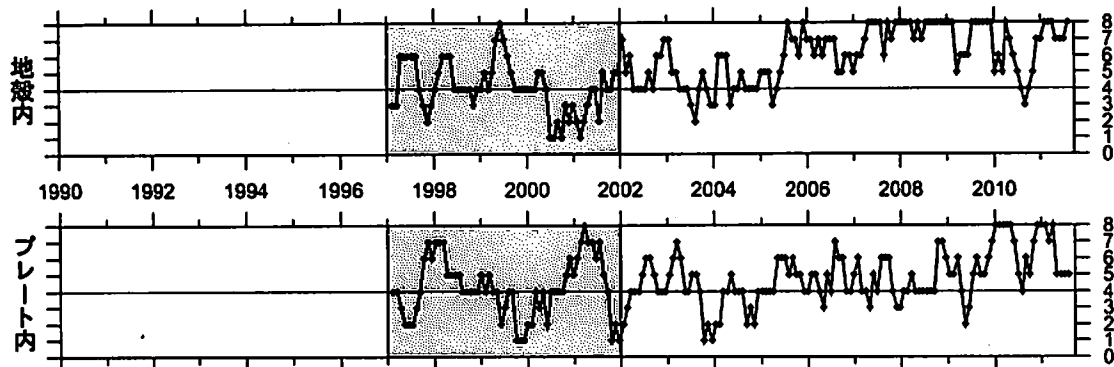
* プレート境界の等深線を破線で示す。

地震回数の指数化		
指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	やや多い
6	10	
5	15	ほぼ平常
4	40	
3	15	やや少ない
2	10	
1	4	少ない
0	1	

地震活動指数の推移（中期活動指数）

① 静岡県中西部（対象期間：90日）

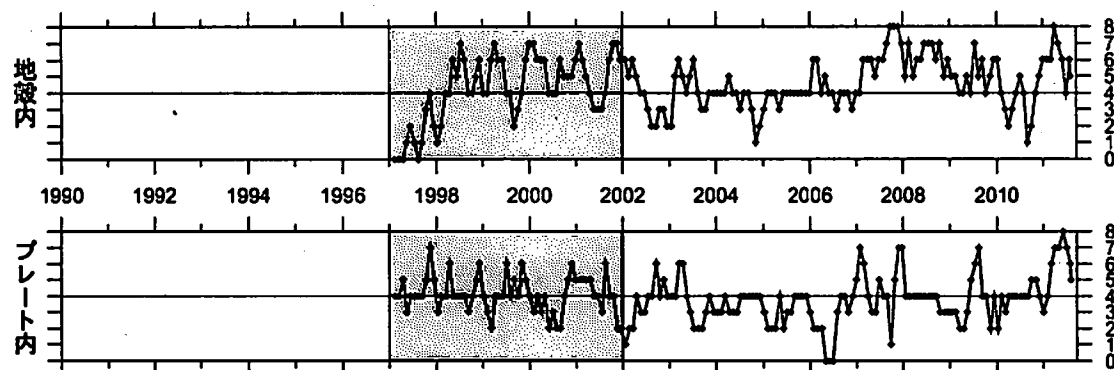
1997/ 1/ 1~2011/ 9/20 M ≥ 1.1



やや多い
(継続中)

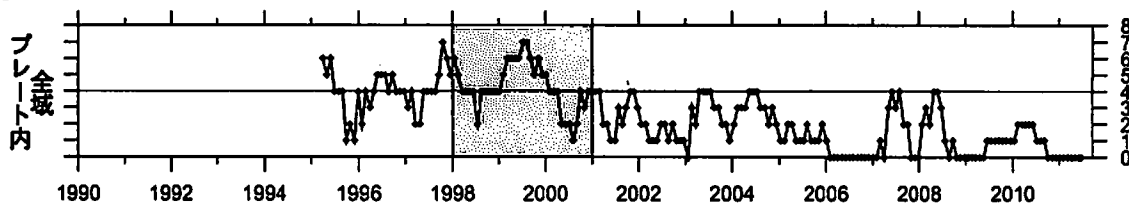
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2011/ 9/20 M ≥ 1.1



③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

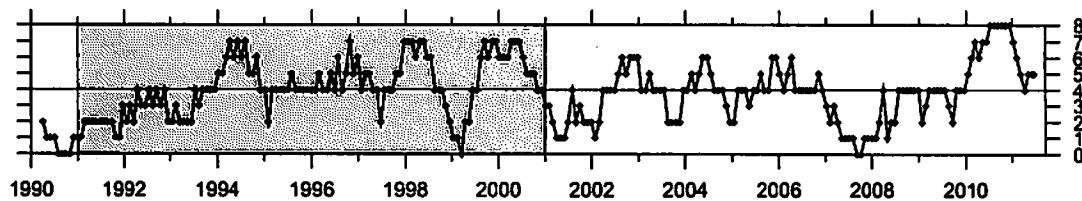
1995/ 1/ 1~2011/ 9/20 M ≥ 1.1



やや少ない
(継続中)

④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/ 1/ 1~2011/ 9/20 M ≥ 1.4



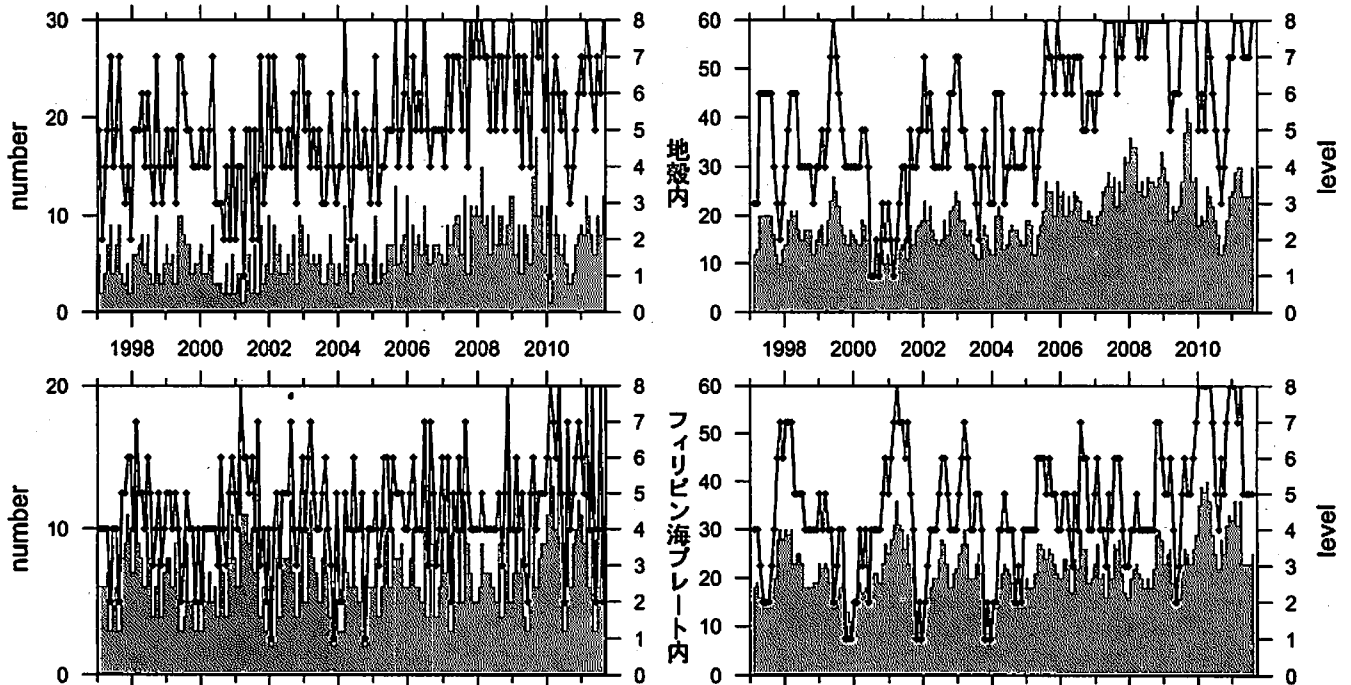
□ : 基準期間

／ : 地震活動指数 (0-8)

地震活動指数の推移

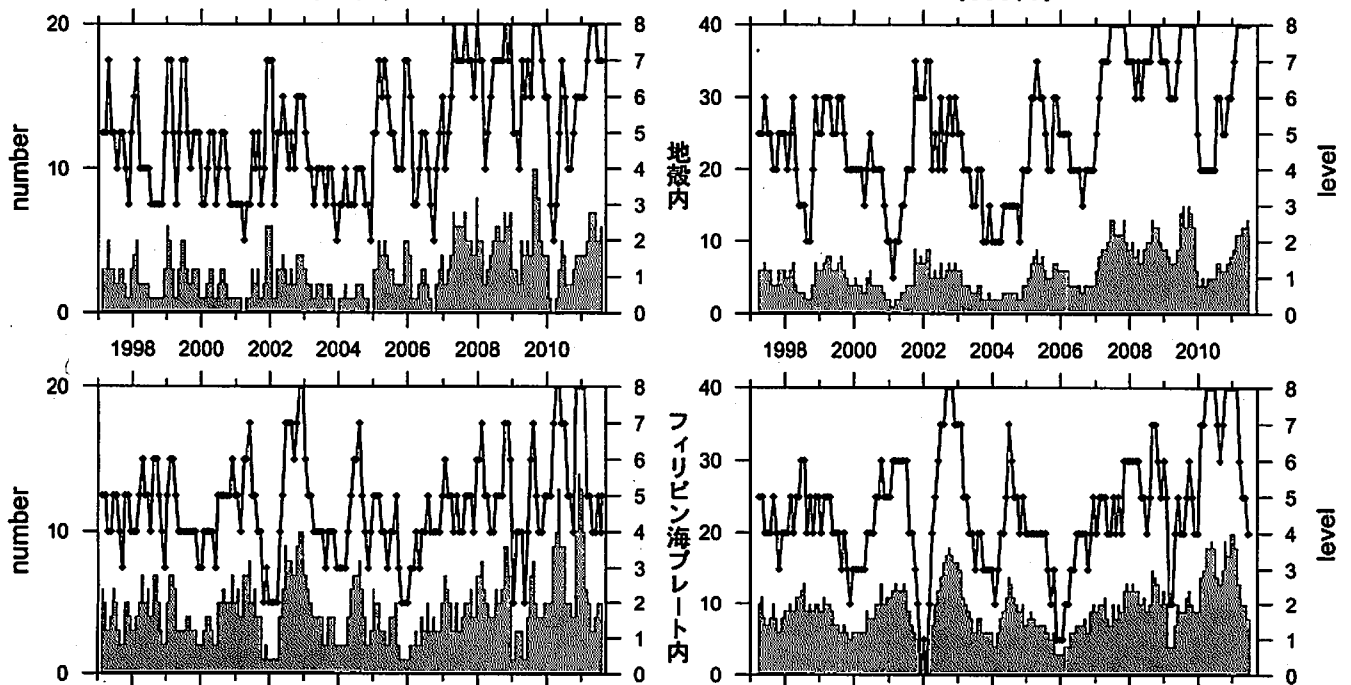
① 静岡県中西部

(30日) 1997/1/1~2011/9/20 M $\geq$ 1.1 (90日)



地殻内は高い(8)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(4から5)。

(90日) 1997/1/1~2011/9/20 M $\geq$ 2.0 (180日)

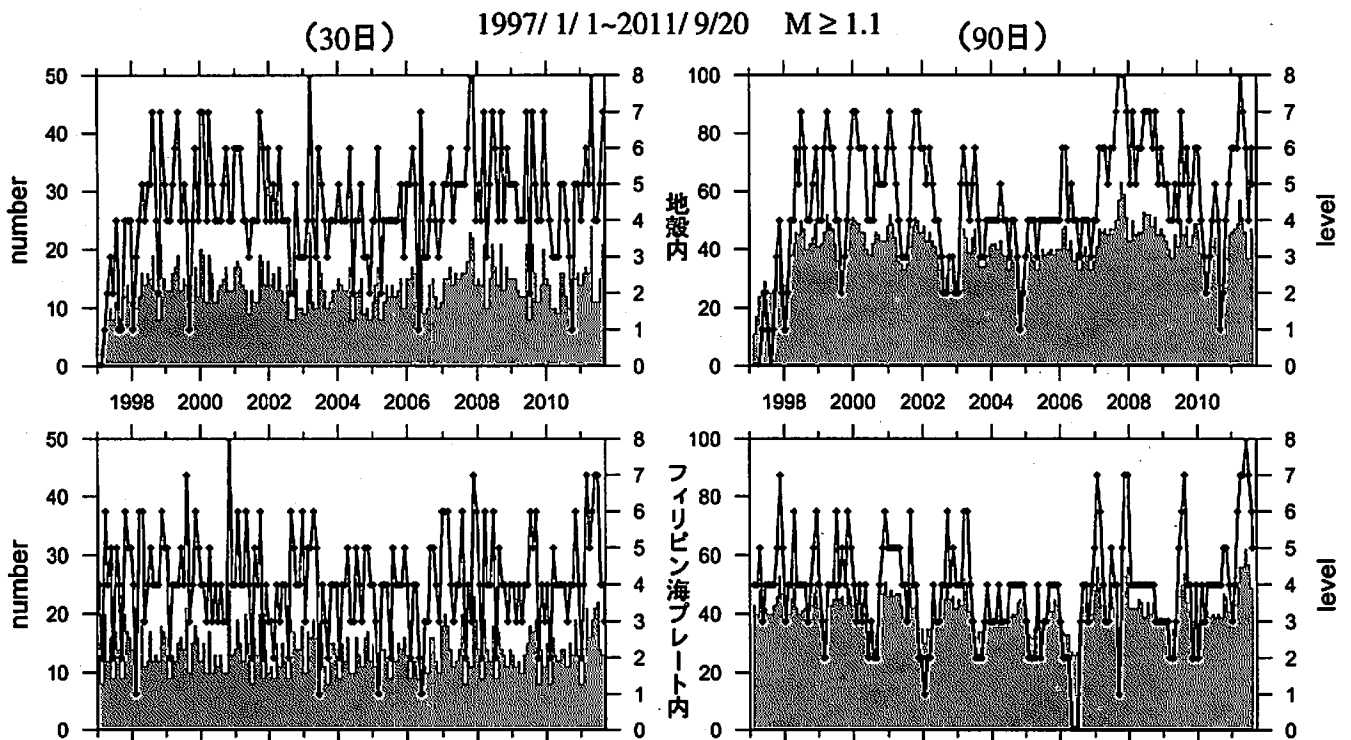


地殻内は高い(7から8)。
フィリピン海プレート内はほぼ平常(4から5)。

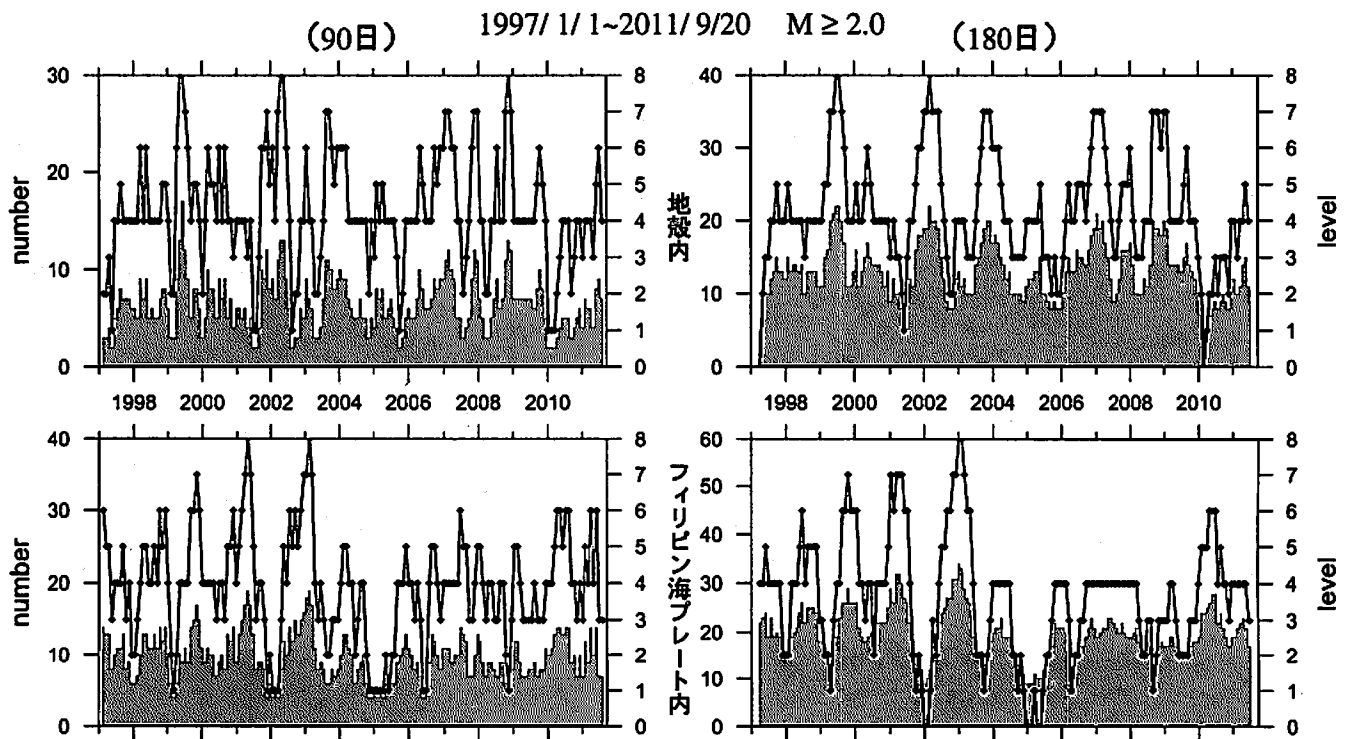
／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

② 愛知県



地殻内はやや高い(5から7)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(5から3)。

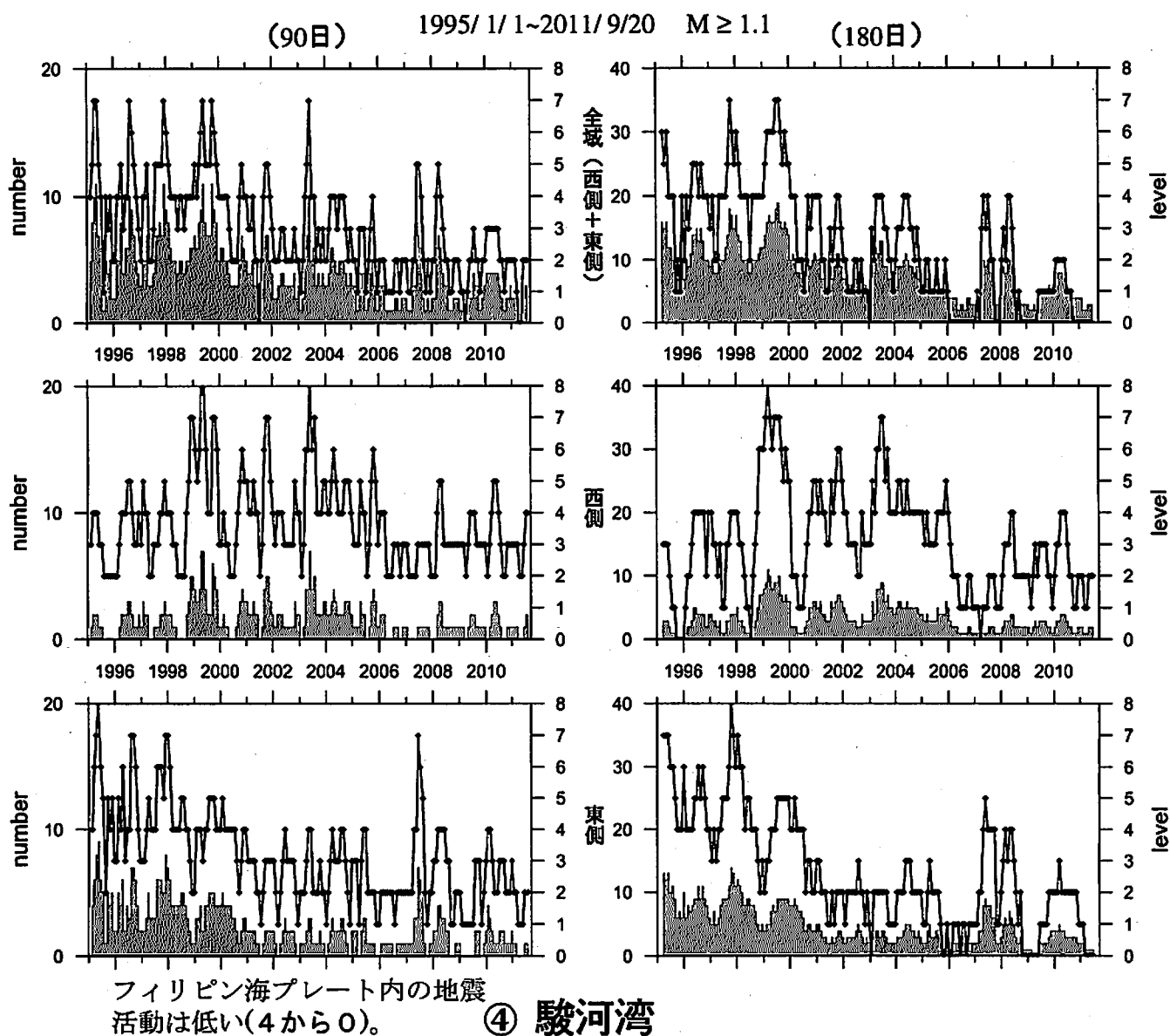


地殻内はほぼ平常(4)。
フィリピン海プレート内もほぼ平常(3)。

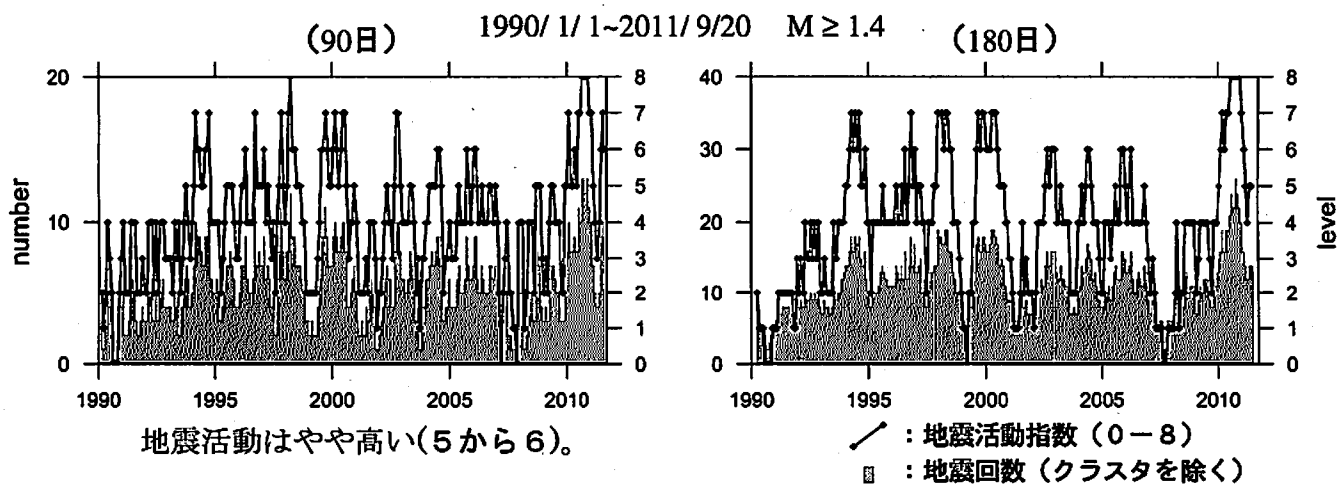
— : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

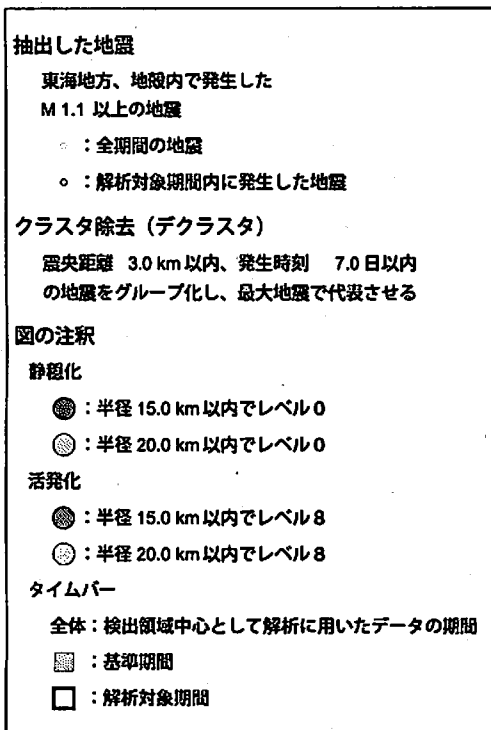
③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）



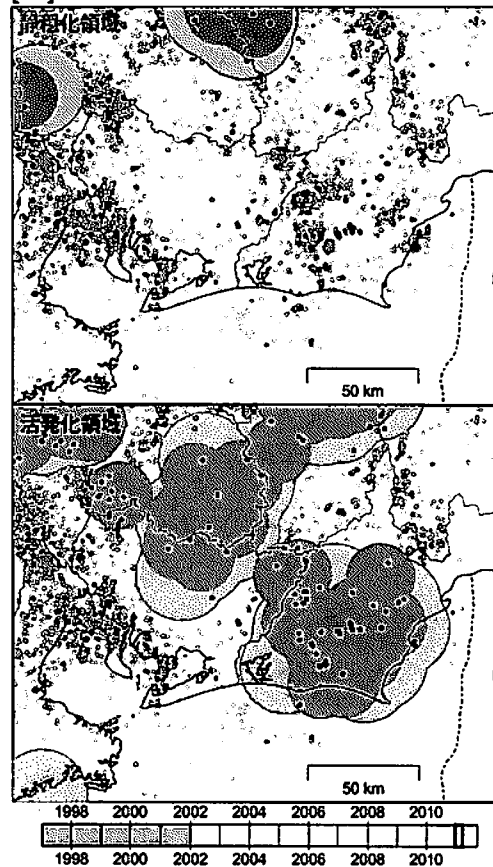
④ 駿河湾



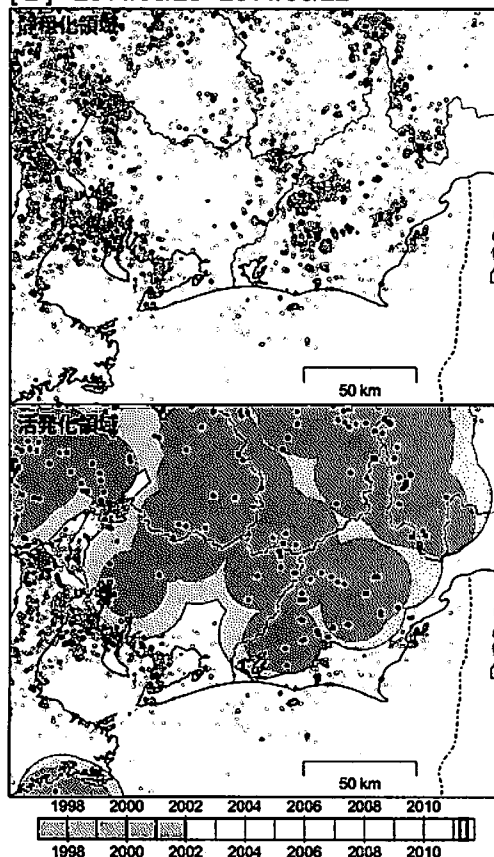
静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）



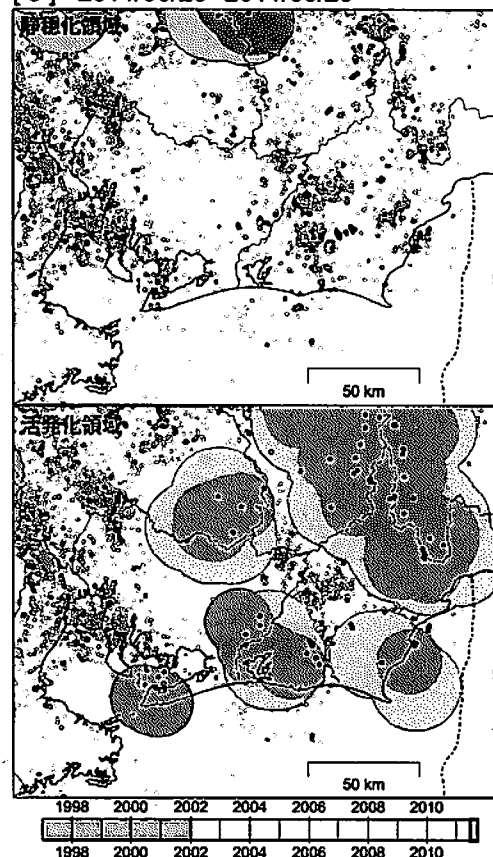
[1] 2010/12/25–2011/03/24



[2] 2011/03/25–2011/06/22

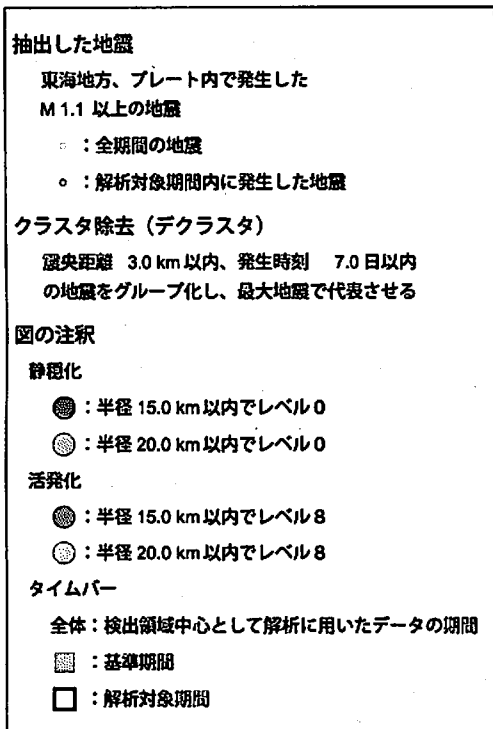


[3] 2011/06/23–2011/09/20

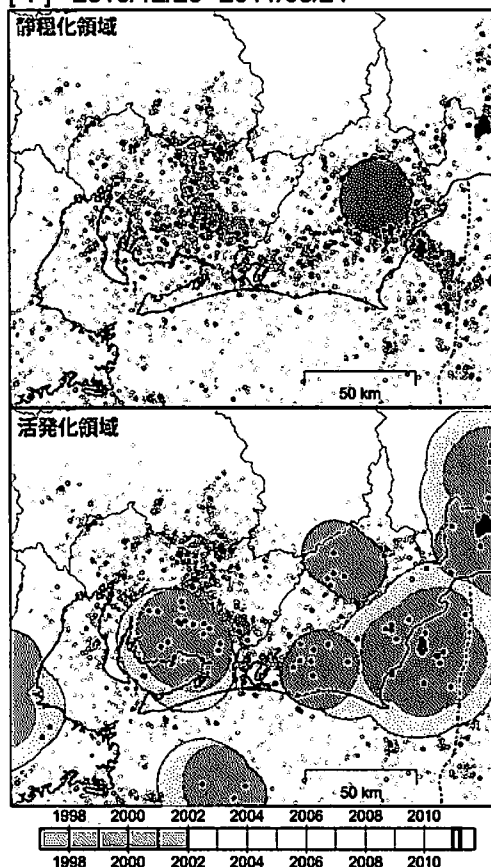


想定震源域周辺では、今期(最新の[3])は静岡県中西部、駿河湾、愛知県東部 気象庁作成
で活発化領域が検出されている。静穏化領域は検出されていない。

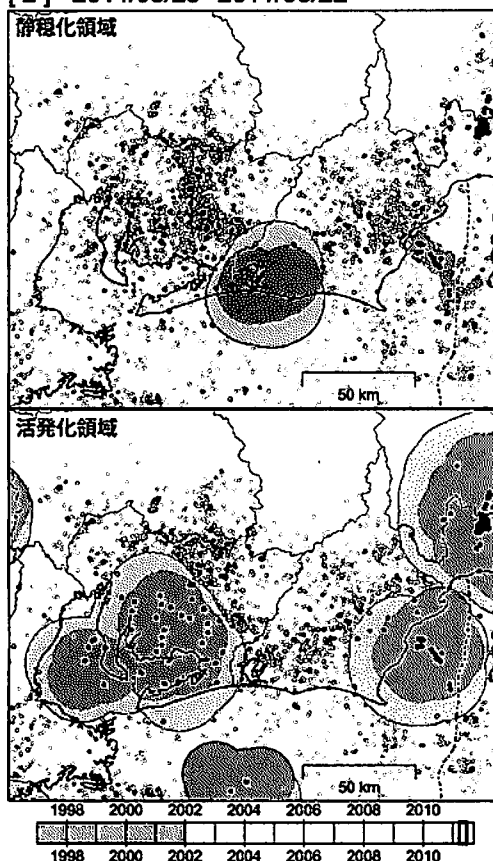
静穏化・活発化領域の検出（東海地方、プレート内）



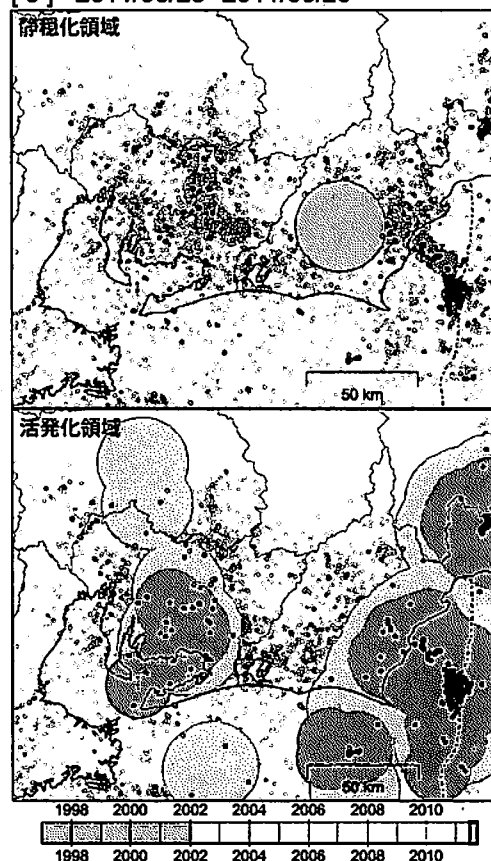
[1] 2010/12/25–2011/03/24



[2] 2011/03/25–2011/06/22



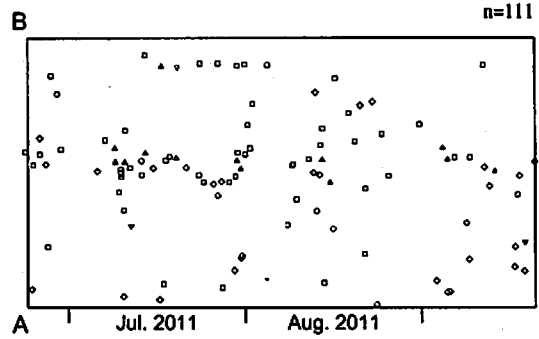
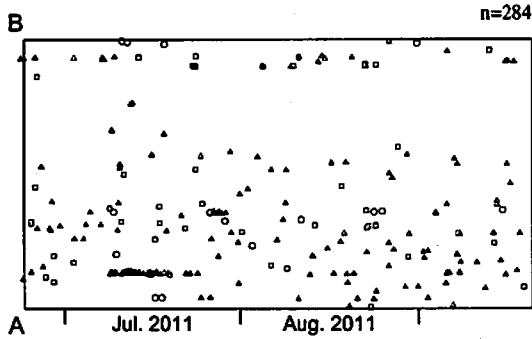
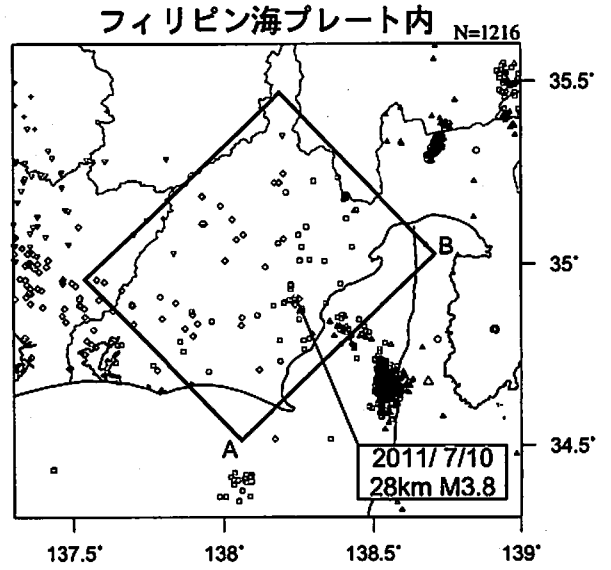
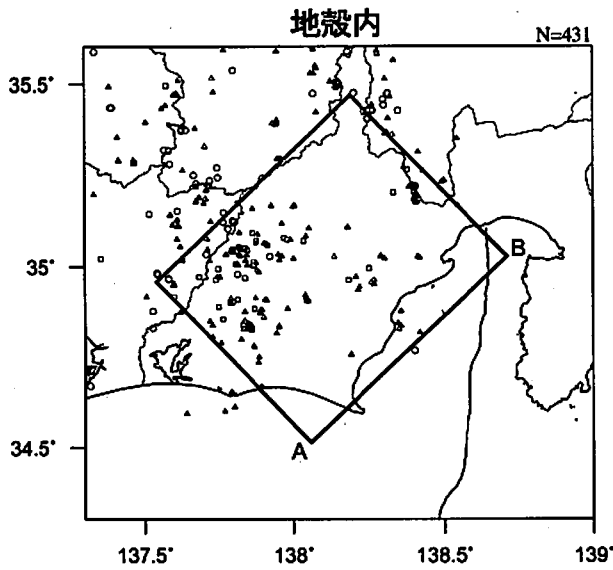
[3] 2011/06/23–2011/09/20



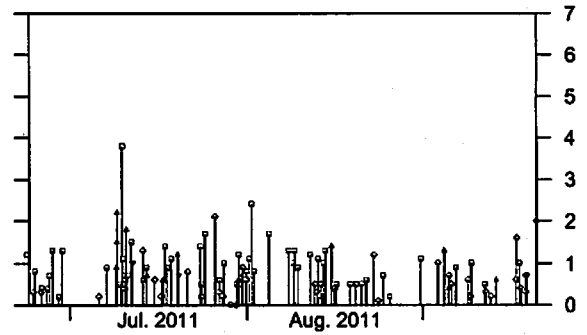
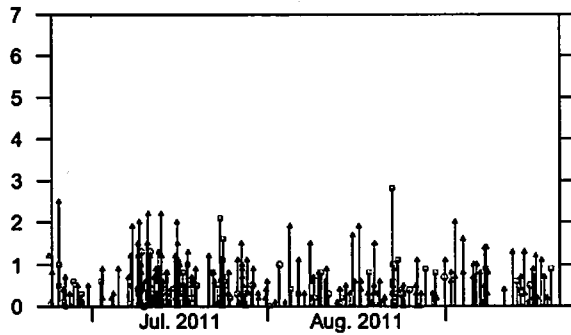
想定震源域周辺では、今期(最新の[3])は静岡県中西部、駿河湾、遠州灘で 気象庁作成
活発化領域が検出されている。

静岡県中西部（最近90日）

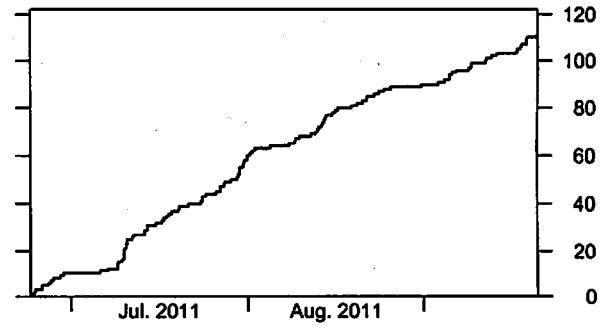
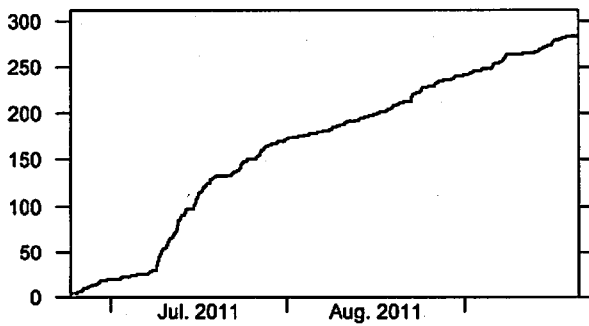
2011/6/23~2011/9/20 M $\geq$ 0.0 0 $\leq$ 深さ(km) $\leq$ 60



時空間分布図（A-B方向）



地震活動経過図（規模別）



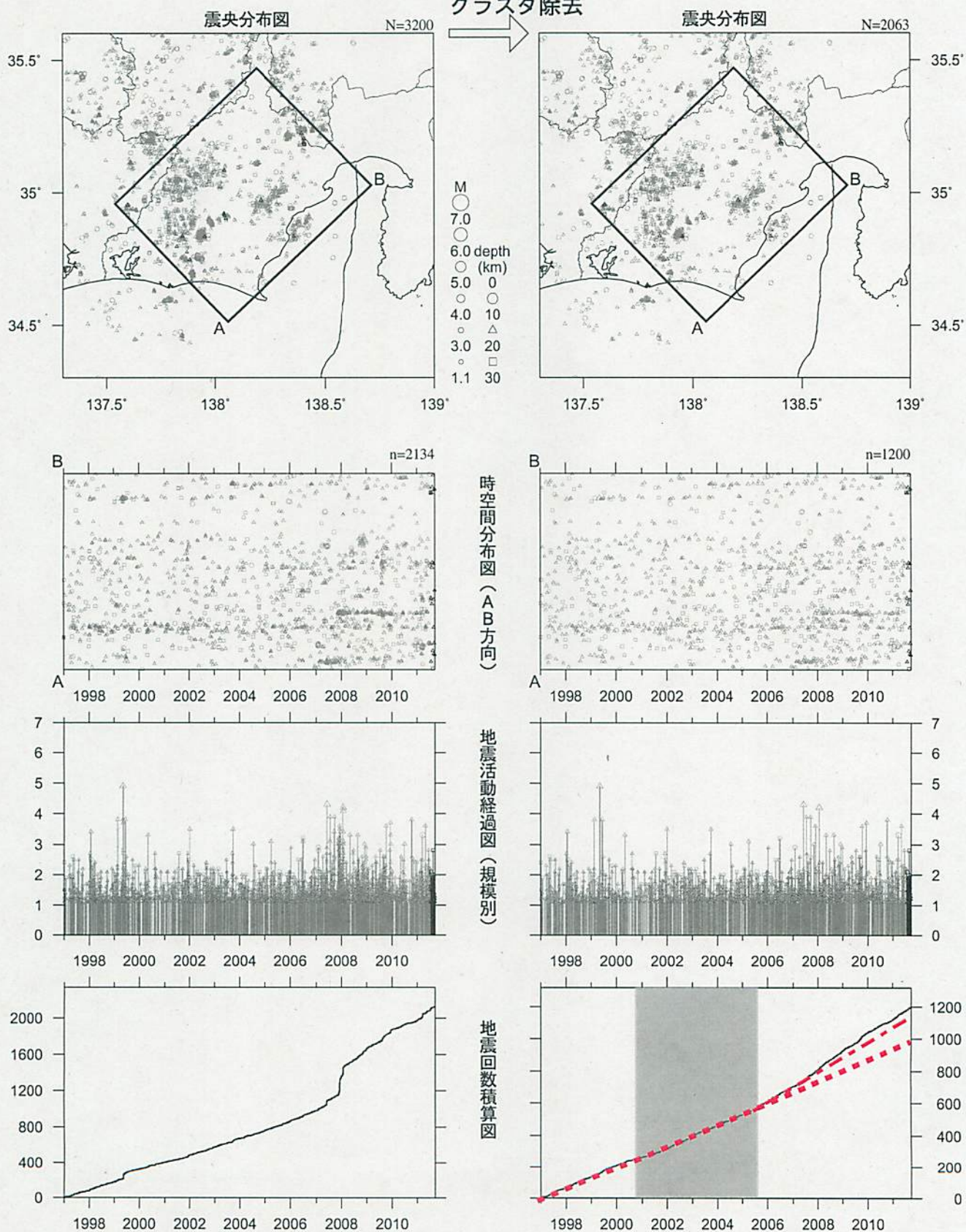
地震回数積算図

* 吹き出しはM $\geq$ 3.0

静岡県中西部（地殻内）

1997/ 1/ 1~2011/ 9/20 M ≥ 1.1

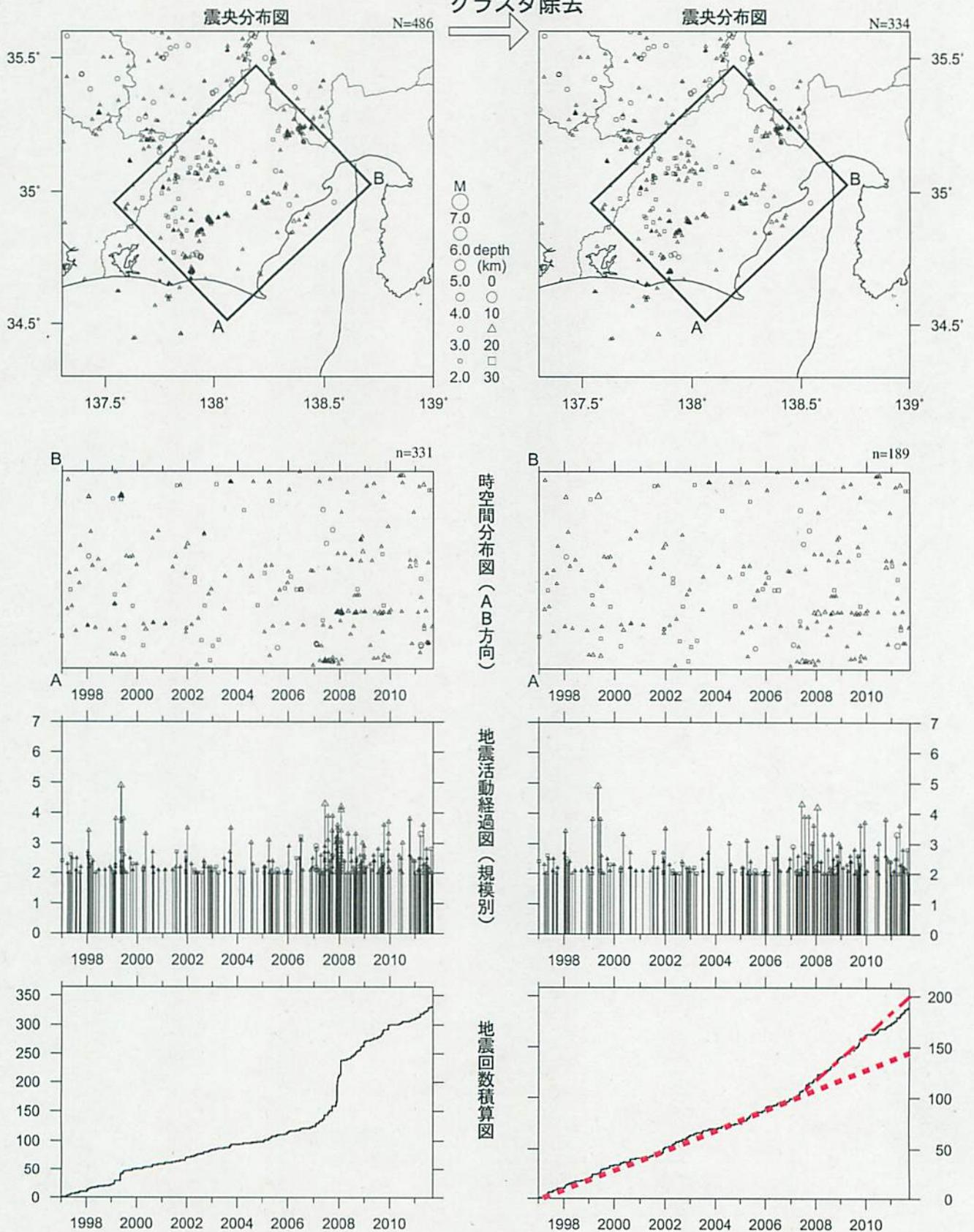
クラスタ除去



クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急でやや活発、その後2005年半ばまでは傾きが緩やかでやや低調、2005年半ば以降はやや活発、という傾向が見られる。この地震活動変化は、概ね長期的スロースリップの進行（右下図網掛け領域）・停滞の時期に対応している。2007年後半以降はさらに活発な傾向が見られていた。2010年の春頃からは一時的にほぼ平常な状態に推移していたが、現在の地震活動指数は再び高い状態である。

静岡県中西部（地殻内） 1997/1/1~2011/9/20 M $\geq$ 2.0

クラスタ除去

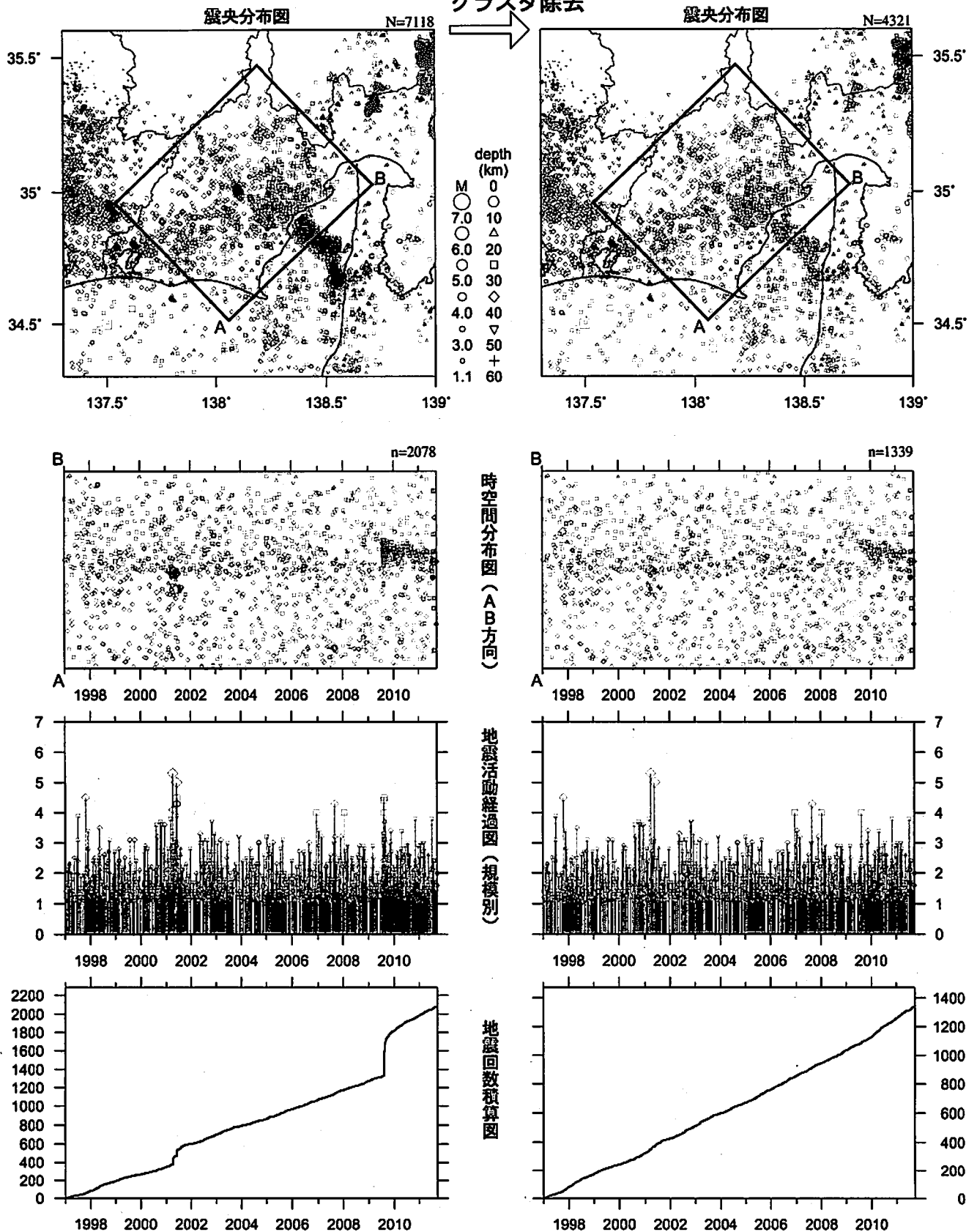


クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2007年に入ってから傾きが急でやや活発な状態を示している。

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/1/1~2011/9/20 M $\geq$ 1.1

クラスタ除去



最近60日以内の地震を濃く表示

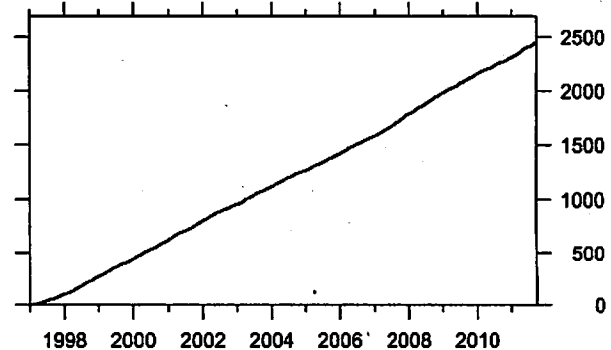
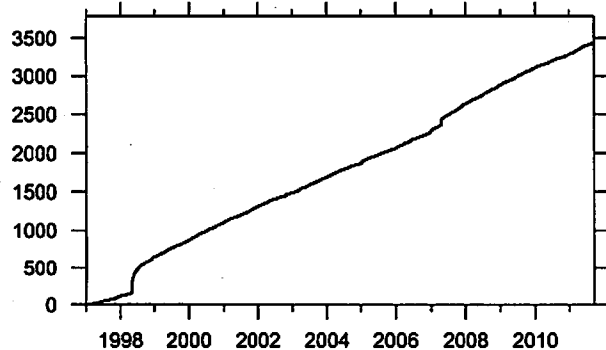
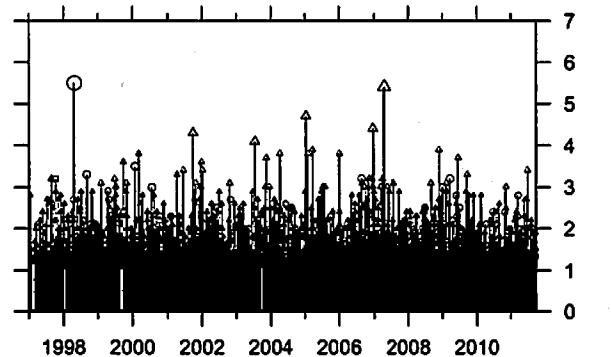
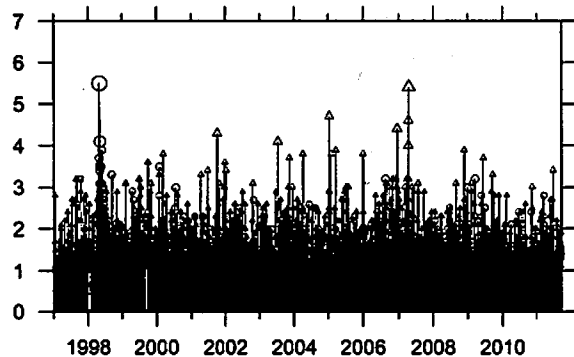
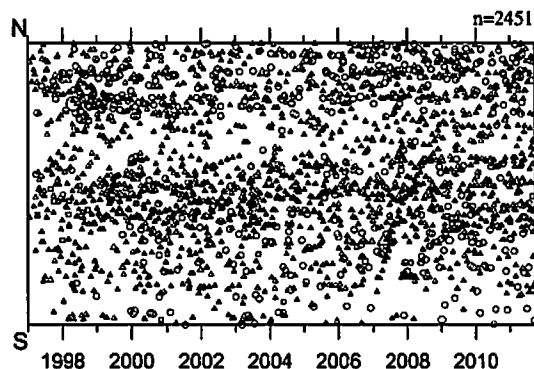
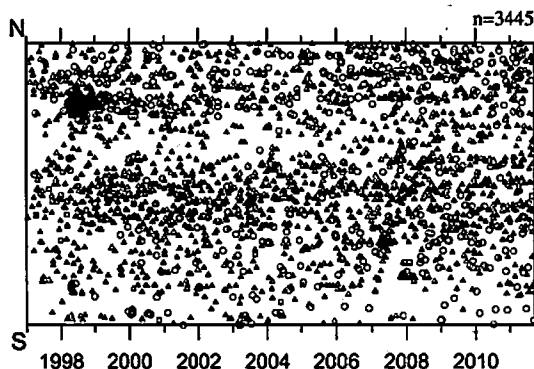
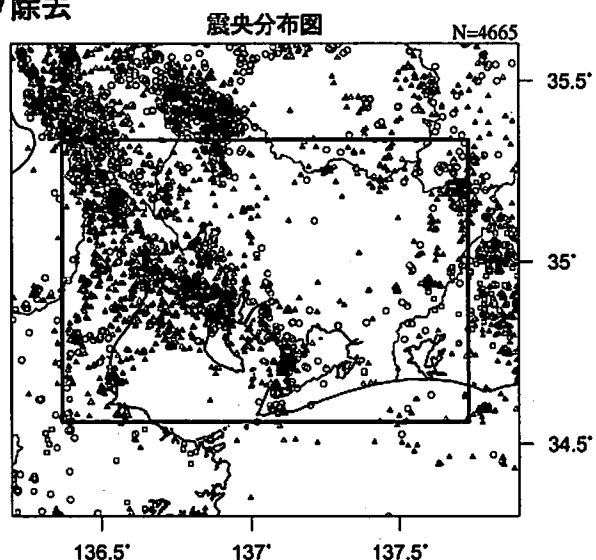
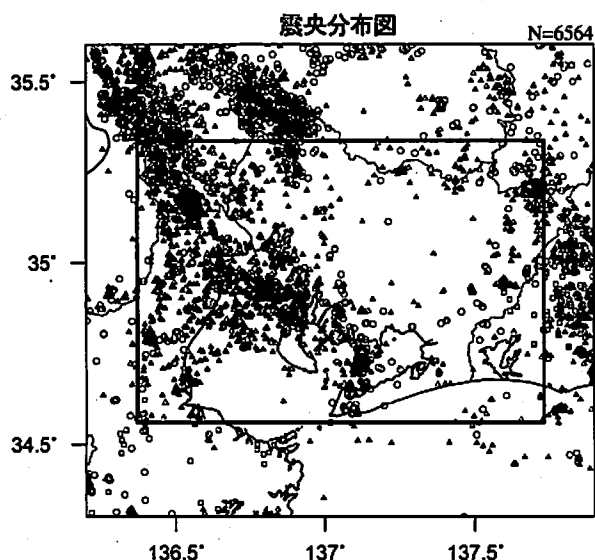
地震活動指数はやや高い状態を示していたが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも2009年後半からやや活発になっている様子が見られていた。

これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の地震活動指数はほぼ平常となっている。

気象庁作成

愛知県（地殻内） 1997/1/1~2011/9/20 M ≥ 1.1

クラスタ除去

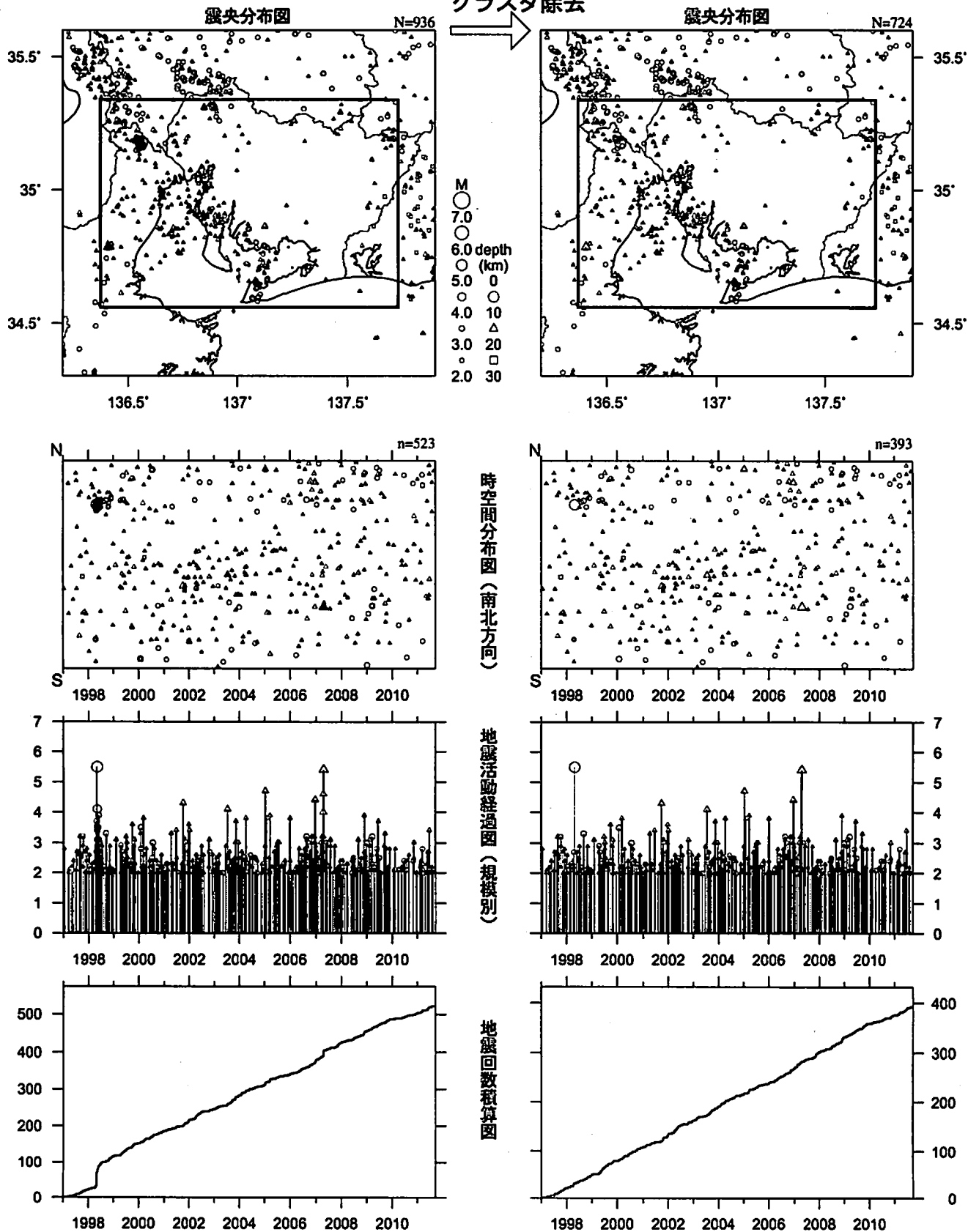


活動指数はやや高い状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）からは顕著な変化は見られない。

愛知県（地殻内）

1997/1/1~2011/9/20 M ≥ 2.0

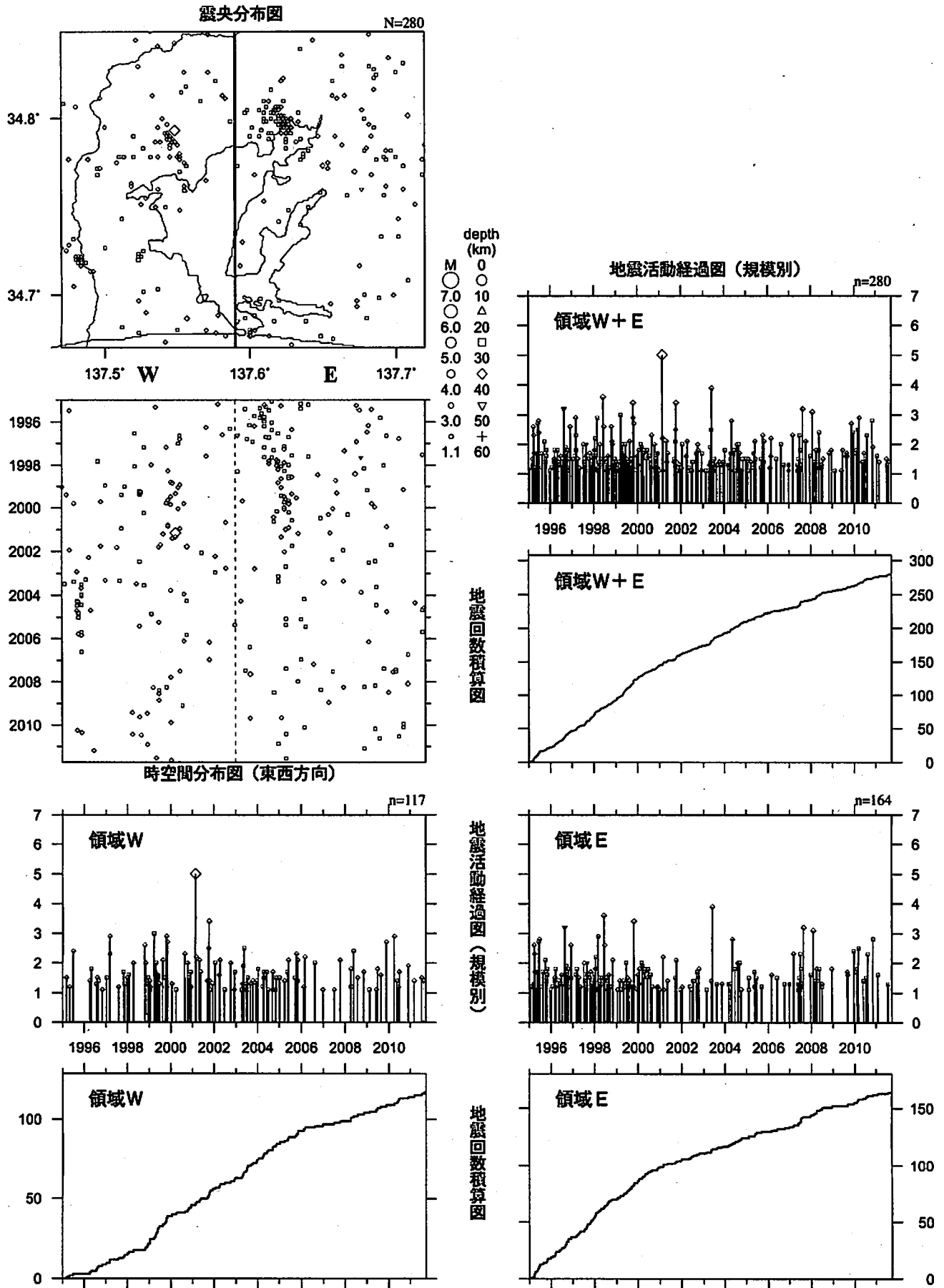
クラスタ除去



活動指数はほぼ平常な状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からは2009年終わり頃から地震活動がやや静穏な状態になっているように見える。

浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2011/ 9/ 20 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ



〔東側〕地震回数積算図（右下図）を見ると、地震活動は2000年以降やや低調。

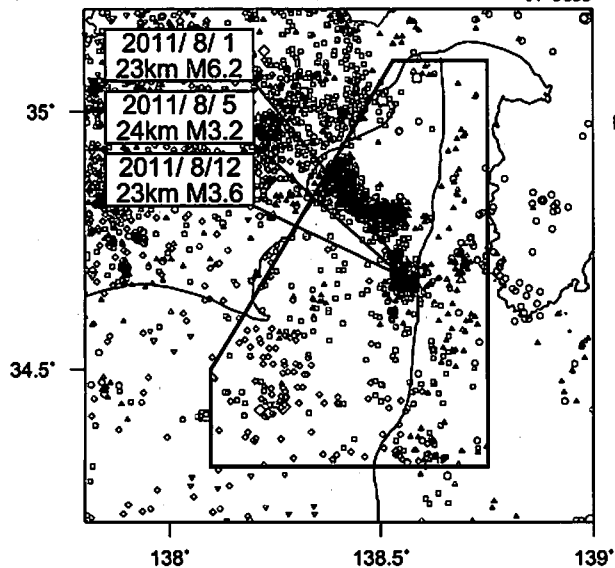
〔西側〕地震回数積算図（左下図）を見ると、2006年以降やや低調。

駿河湾

1990/1/1~2011/9/20 M ≥ 1.4

震央分布図

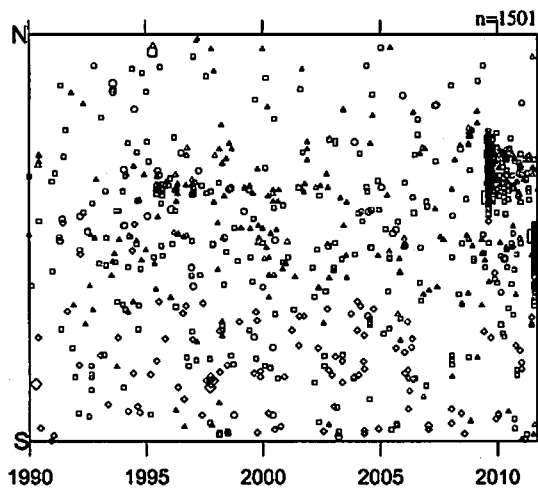
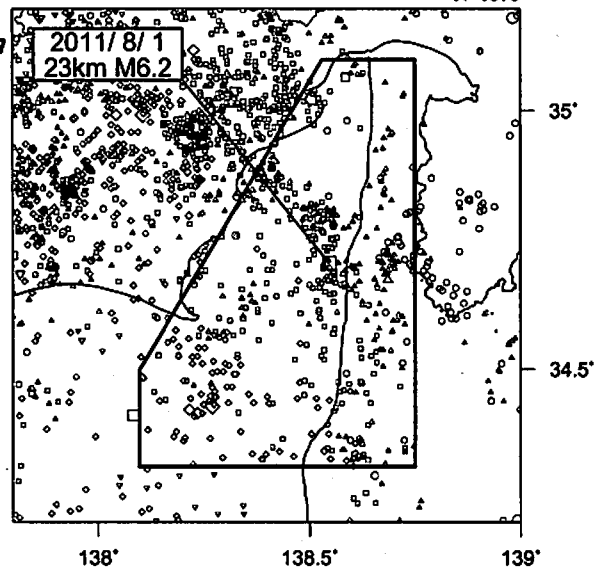
N=3833



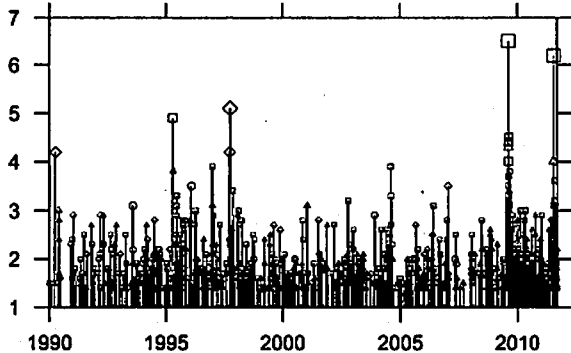
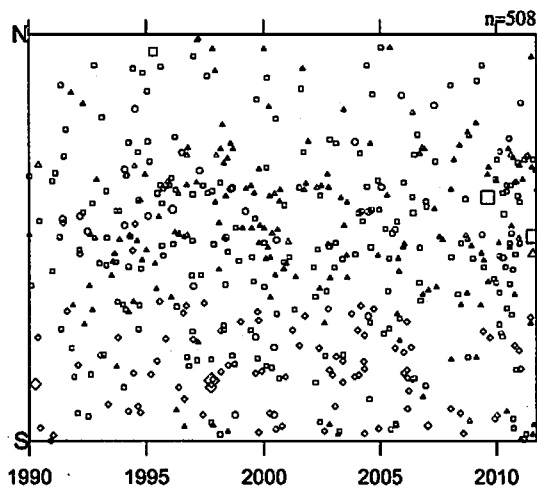
震央分布図

N=1870

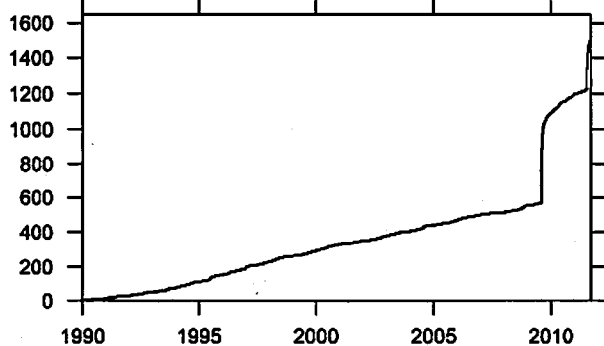
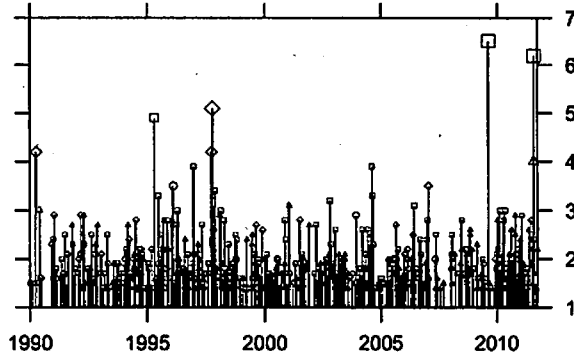
クラスタ
除去



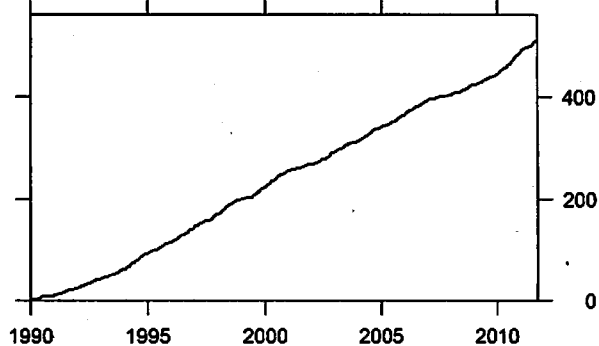
時空間分布図(南北方向)



地震活動経過図(規模別)



地震回数積算図

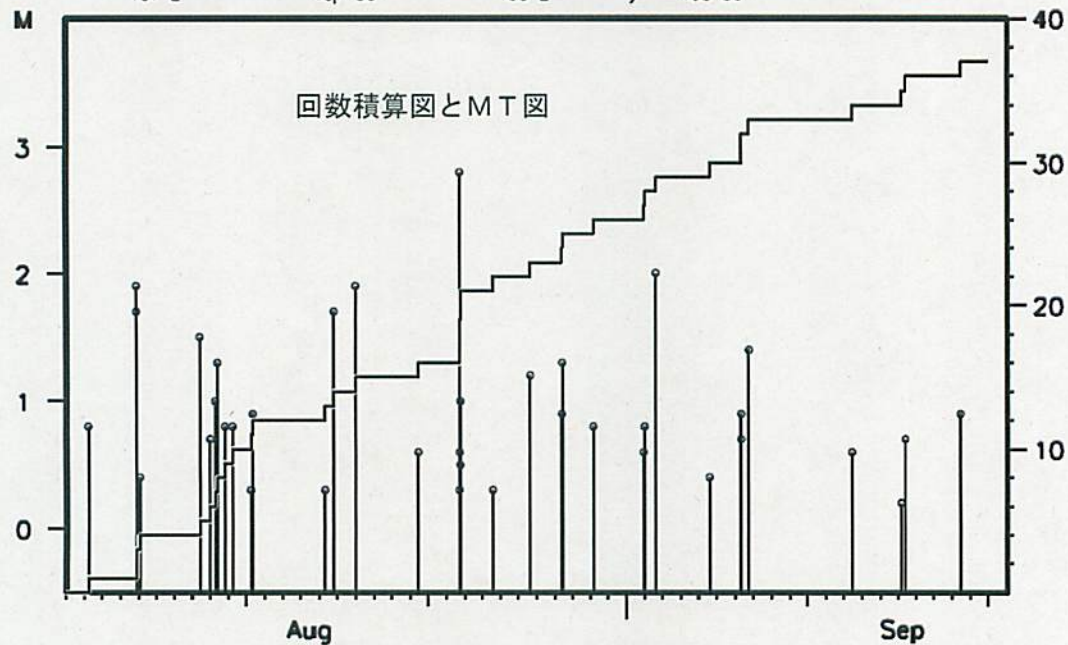
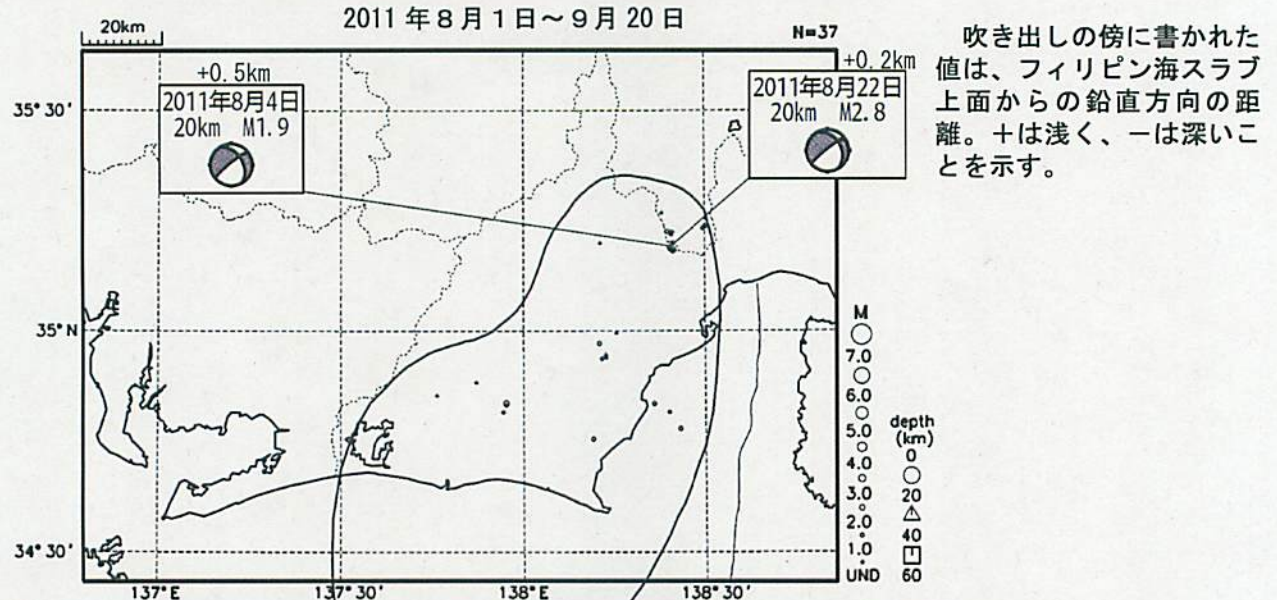


地震活動指数はやや高い状態を示していたが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも2010年頃からやや活発になっていた様子が見られる。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていなかったためである。現在、中期活動指数はほぼ平常な状態である。

プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

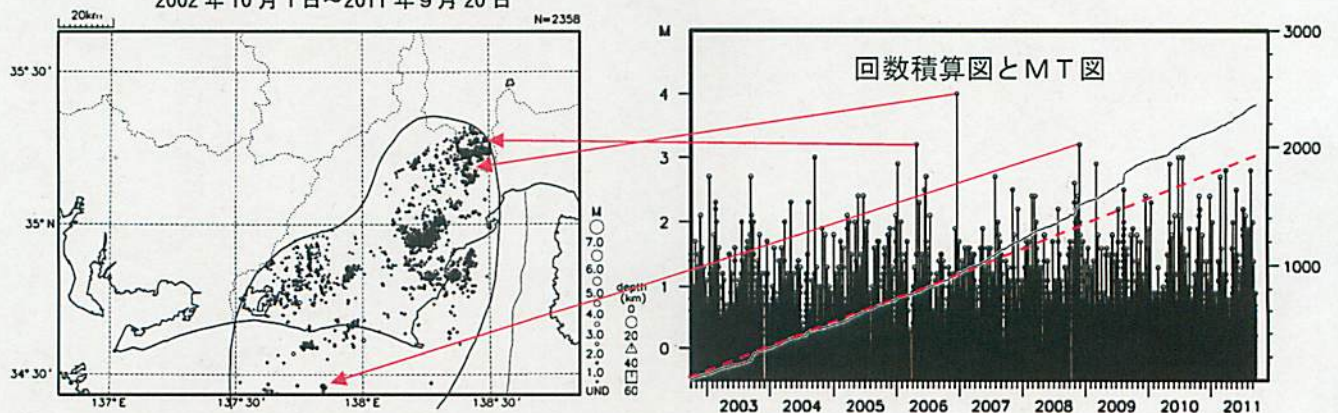
(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海スラブ上面深さの±3kmの地震を抽出)

プレート境界とその周辺の地震の震央分布(最近約1ヶ月半、Mすべて)



プレート境界とその周辺の地震の震央分布(2002年10月以降、Mすべて)

2002年10月1日～2011年9月20日

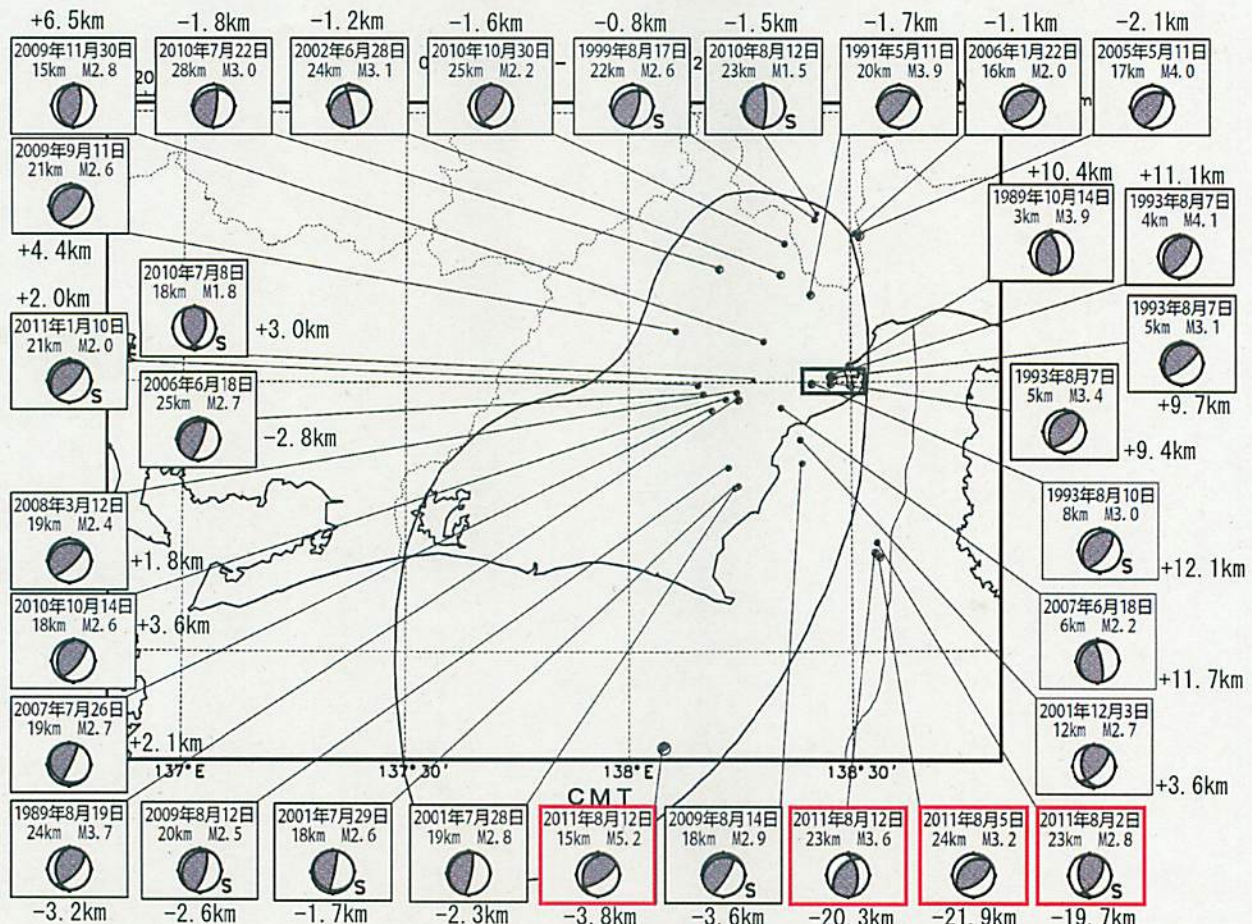


2002年10月以降(Mすべて)で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震(M6.5)の余震活動の一部を抽出している。M3を超える地震については、その震央を矢印で示しているが、これらの地震の発震機構解は想定東海地震のものとは類似の型ではない。

気象庁作成

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

1987年9月1日～2011年9月20日

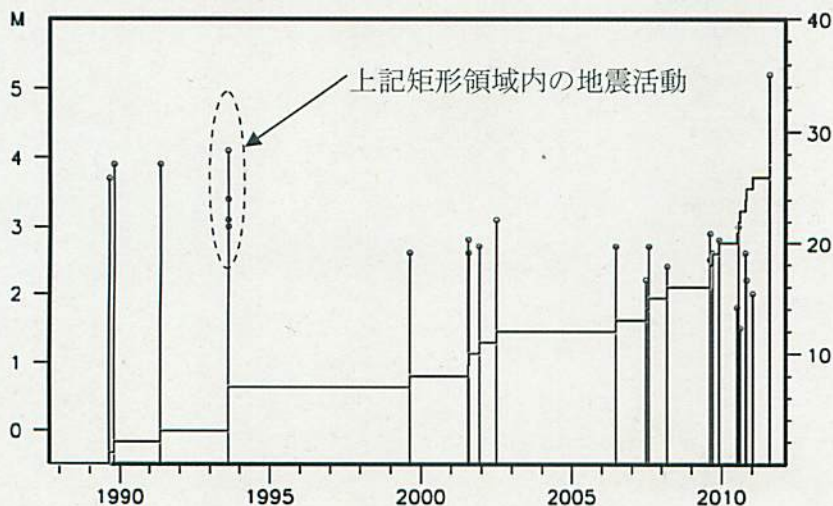


吹き出しの傍に書かれた値は、Hirose et al. (2008)によるプレート境界からの鉛直方向の距離。+はプレート境界より浅く、-は深いことを示す。

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、P軸の傾斜角が45度以下、かつP軸の方位角が65度以上145度以下、かつT軸の傾斜角が45度以上、かつN軸の傾斜角が30度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内またはスラブ内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008)の3次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りにSの表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



上記イベントの、想定震源域内における地震活動経過図と回数積算図。

気象庁作成

8月～9月 伊豆東部※の活動

※ 「伊豆東部の地震活動に関する情報」で対象としている領域

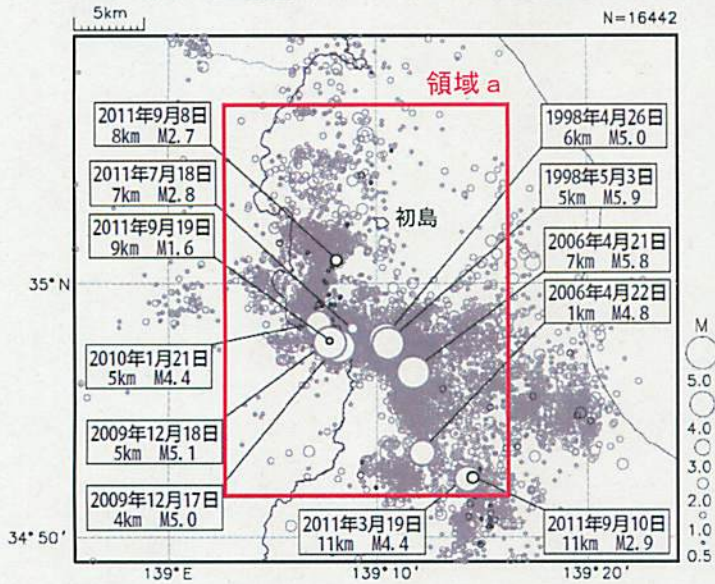
9月18日夜から伊豆東部で地震活動が活発となり、19日04時57分にはM1.6の地震（震度1以上の観測なし）が発生した。20日現在、活動は継続している。

この活動に先行して、9月17日夕方から東伊豆奈良本の体積ひずみ計で縮みの変化が観測されている。また、周辺の傾斜計（伊東猪山、伊東、岡、徳永、吉田）でも同期した変化が観測されている。

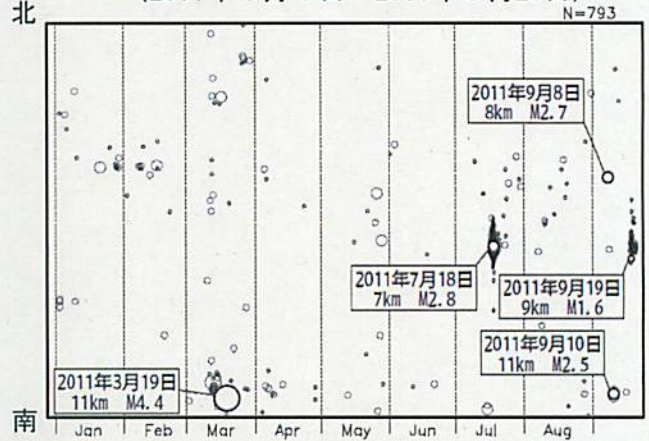
伊豆東部で群発地震活動が観測されたのは、2011年7月の活動以来である。

震央分布図（1997年10月1日～2011年9月20日、 $M \geq 0.5$ 、深さ0～20km）

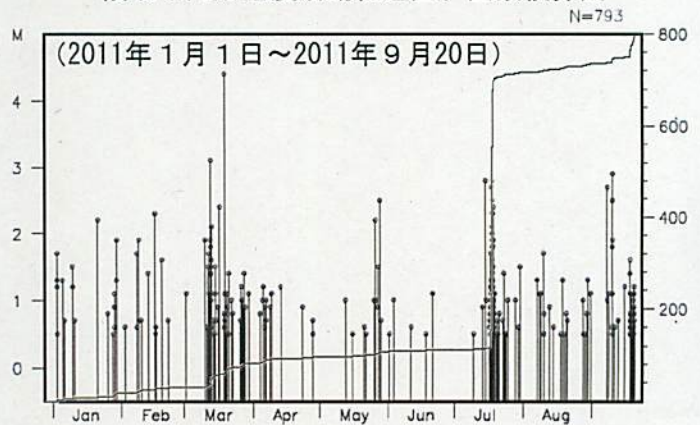
2011年7月までの地震を薄く、2011年8月以降の地震を濃く表示。



領域a内の時空間分布図（南北投影）
（2011年1月1日～2011年9月20日）



領域a内の地震活動経過図、回数積算図



東伊豆地域の体積ひずみ計・傾斜計の記録
（2011年8月20日16時～9月20日16時）

※ 防）は独立行政法人防災科学技術研究所の観測点

体積ひずみ・傾斜（気圧・潮汐補正；時間値）伊豆東部

2011/08/20 16:00 -- 2011/09/20 16:00

東伊豆奈良本
-1.411690E-08/DAY

伊東猪山傾EW
1.131980E-08/DAY
伊東猪山傾NS
2.080170E-08/DAY

防）伊東傾NS
防）伊東傾EW
防）岡傾NS

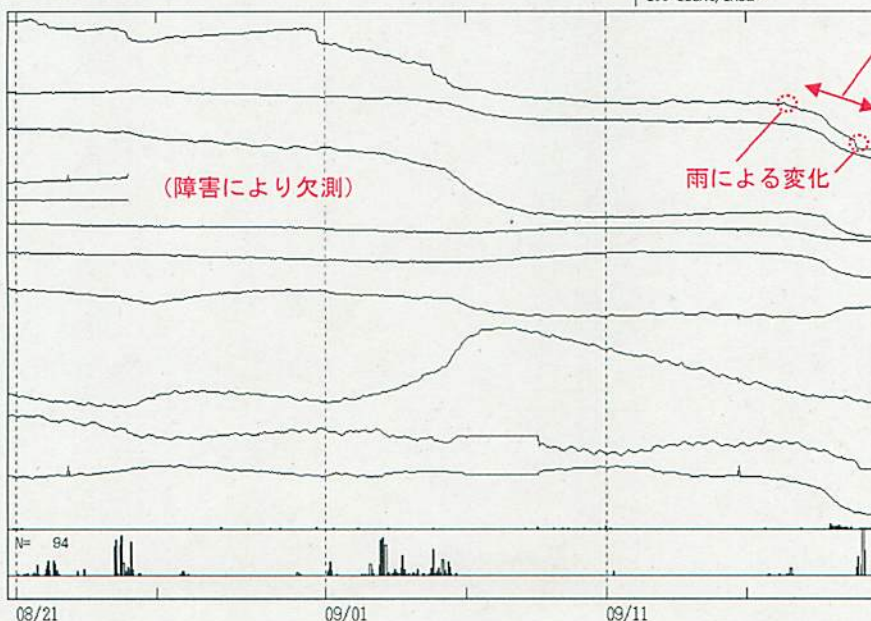
防）岡傾EW
2.364530E-08/DAY
防）徳永傾NS
2.260870E-08/DAY

防）徳永傾EW
防）吉田傾NS

防）吉田傾EW

鎌田地震回数

網代雨



今回の活動による変化

今回（2011年9月）の活動領域



防）は独立行政法人防災科学技術研究所の観測点である。

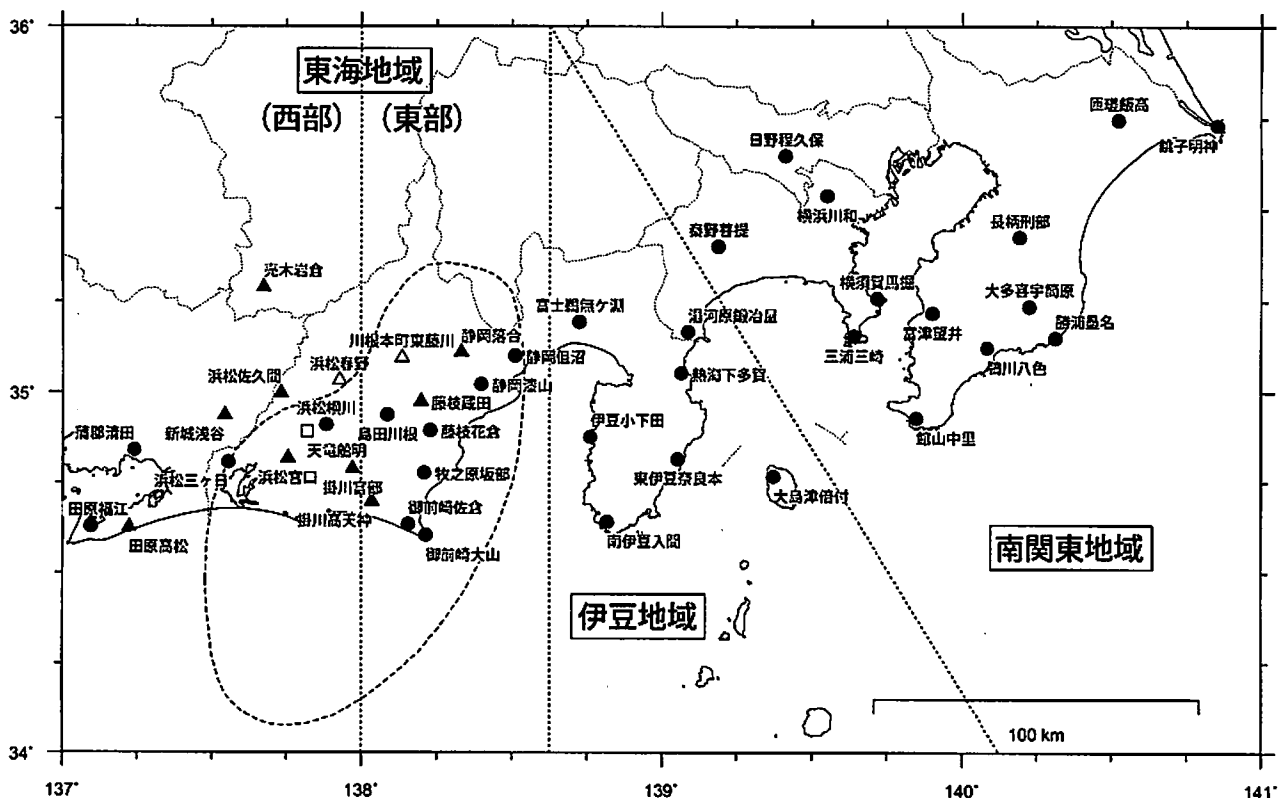
ひずみ計による観測結果 (2011年3月1日～2011年9月21日)

短期的ゆっくり滑りに起因すると見られる次の地殻変動がひずみ計観測網で観測された。

SSE1 : 2011年7月26日頃から8月1日頃にかけて観測された。(第304回地震防災対策強化地域判定会資料参照)

SSE2 : 2011年8月20日頃から22日頃にかけて観測された。(第304回地震防災対策強化地域判定会資料参照)

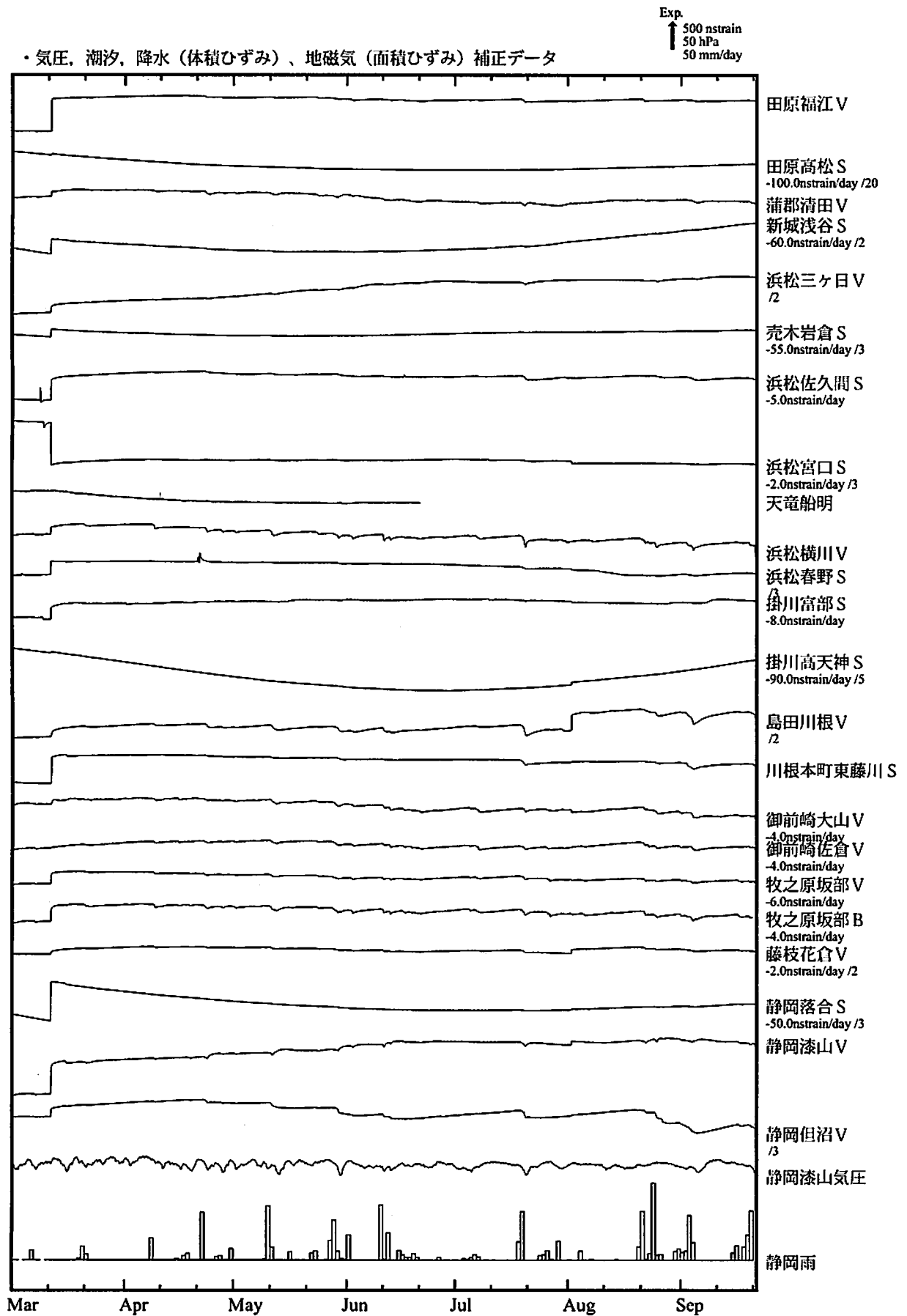
ひずみ計の配置図



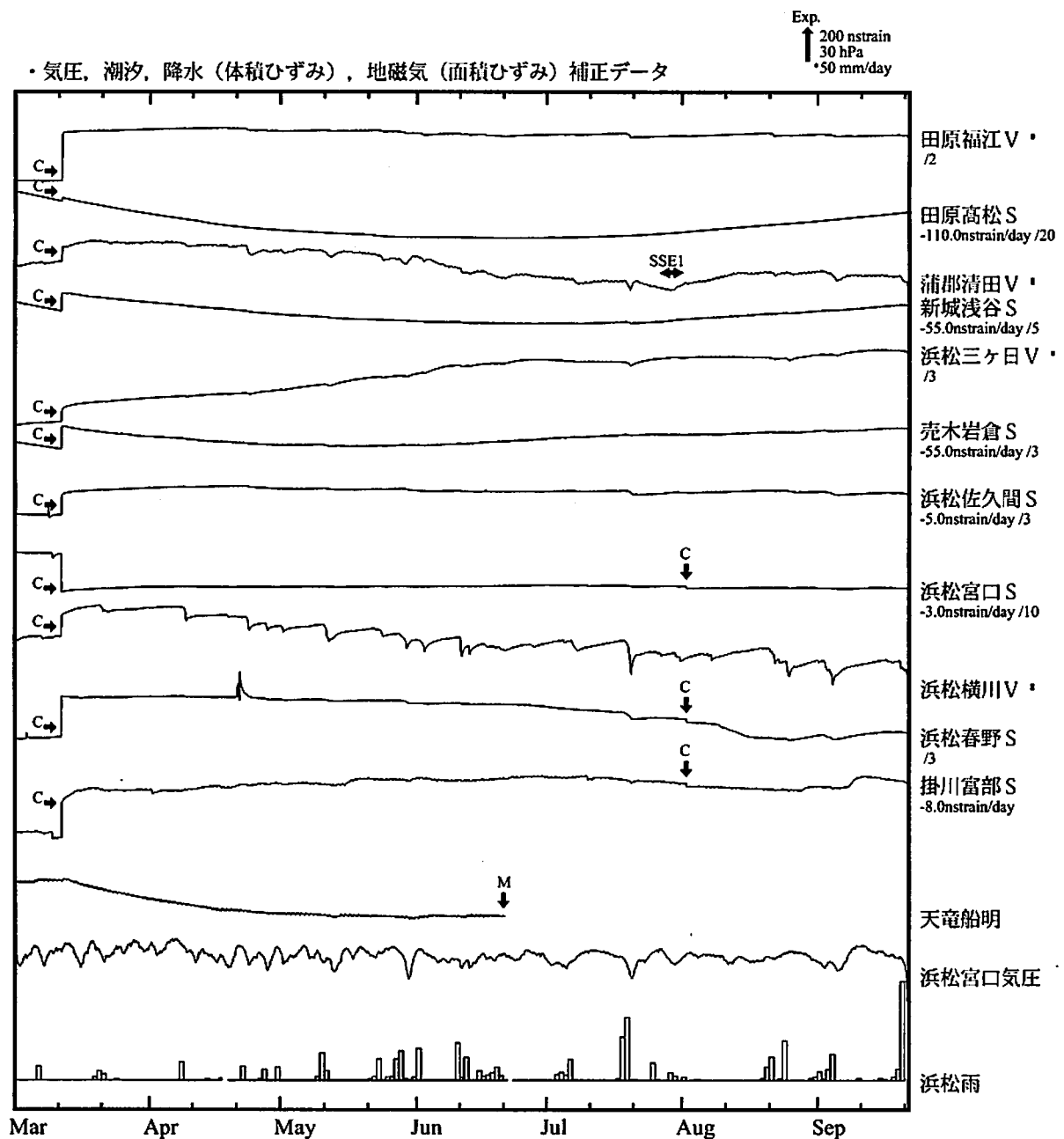
- : 体積ひずみ計
- ▲ : 多成分ひずみ計
- △ : 多成分ひずみ計(静岡県整備)
- : レーザー式変位計(気象研整備)

気象庁作成

ひずみ変化 時間値 (東海地域)



ひずみ変化 時間値（東海地域（西部））



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅（ノイズレベル）を示す。

※記号 V は体積ひずみを、S は多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

※天竜船明（気象研究所整備）は、レーザー式変位計におけるひずみ変化を示す。

SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01

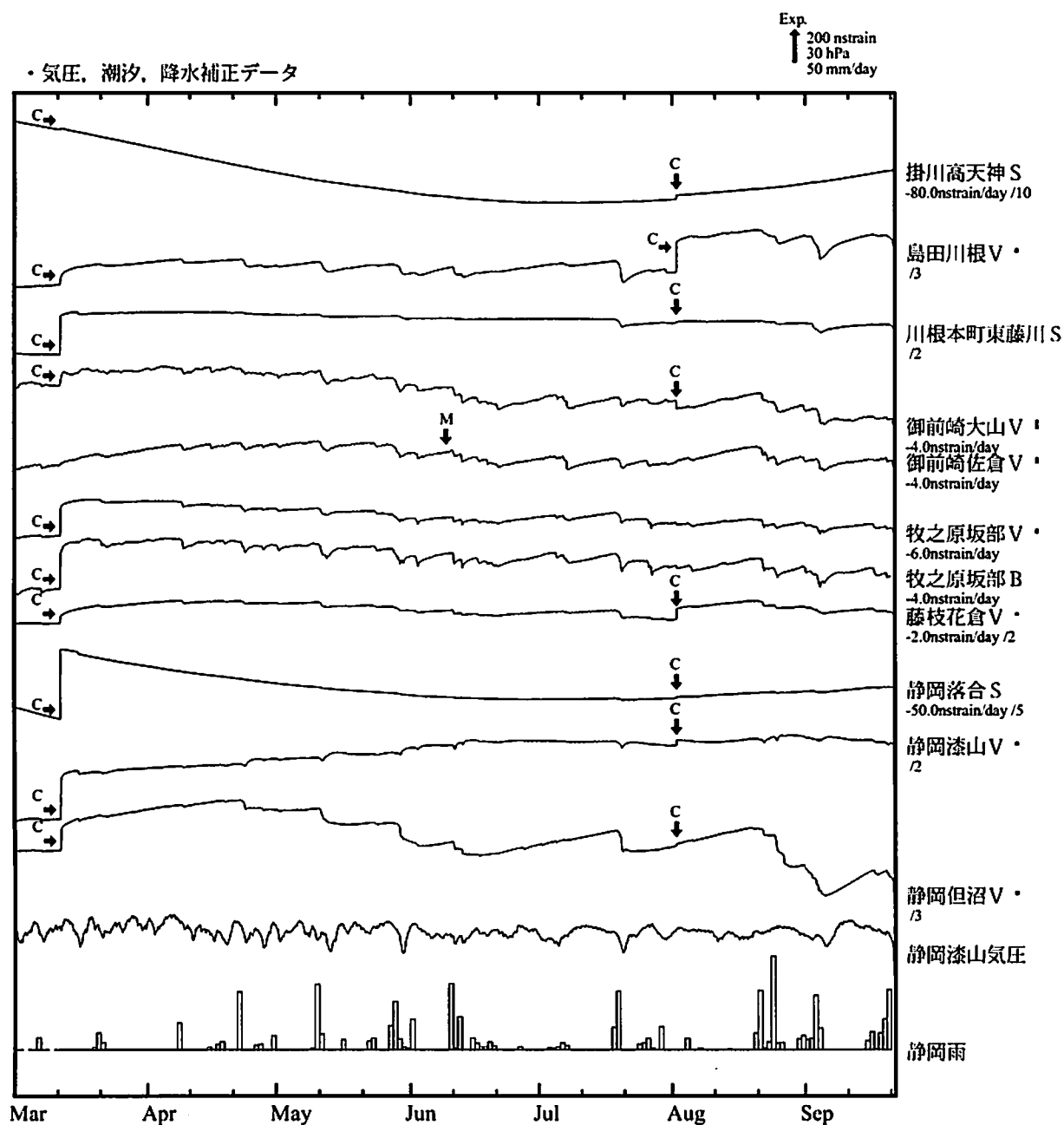
表示観測点の名称

C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

田原福江	たはらふくえ
田原高松	たはらたかまつ
蒲郡清田	がまごおりせいだ
新城浅谷	しんしろあさや
浜松三ヶ日	はまつみっかび
売木岩倉	うるぎいわくら
浜松佐久間	はまつさくま
浜松宮口	はまつみやぐち
浜松横川	はまつよこかわ
浜松春野	はまつはるの
掛川富部	かけがわとんべ
天竜船明	てんりゅうふなぎら

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（東海地域（東部））



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

・特記事項なし。

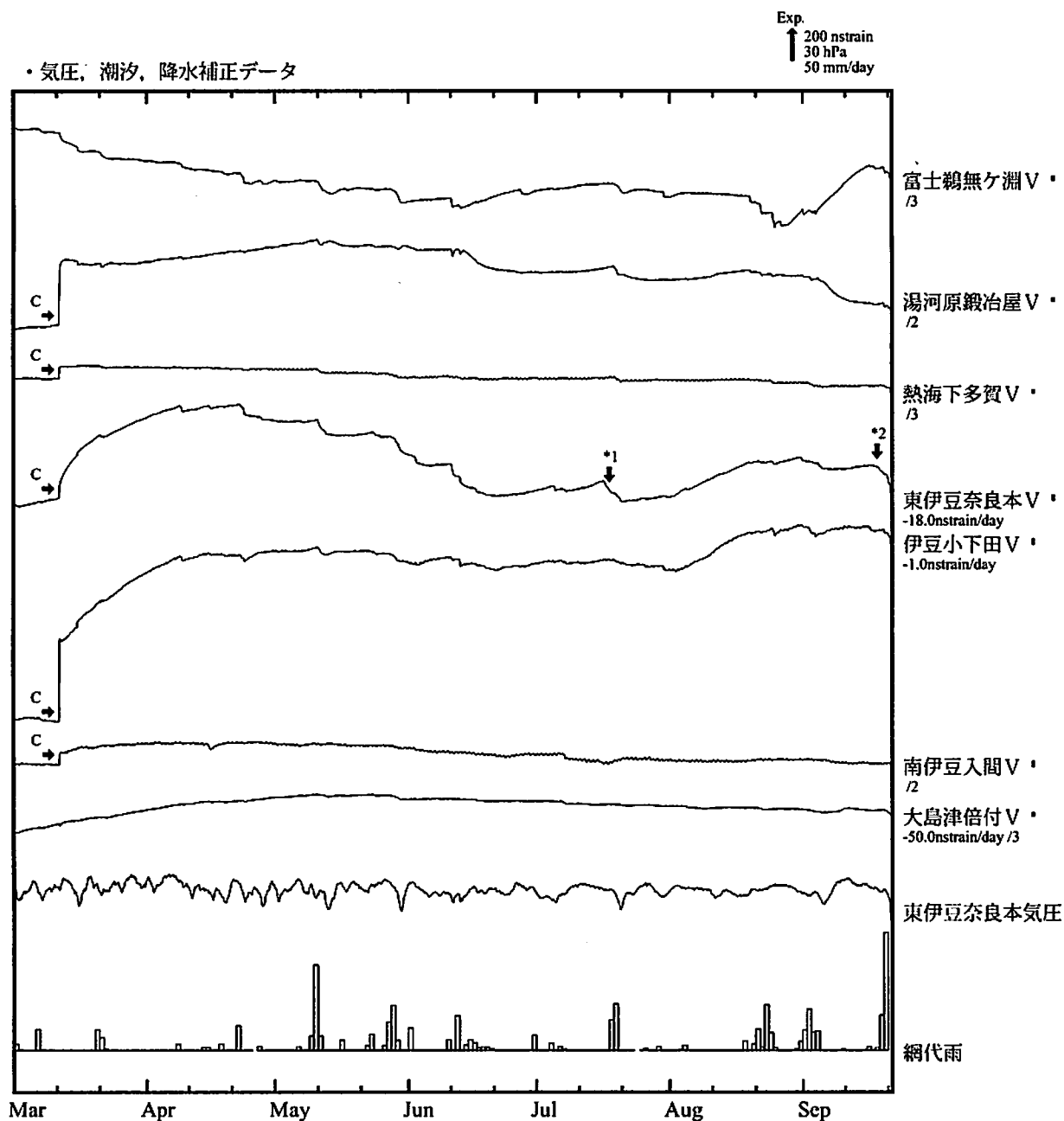
- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

表示観測点の名称

掛川高天神	かけがわとかてんじん
島田川根	しまだかわね
川根本町東藤川	かわねほんちょう
	ひがしふじかわ
御前崎大山	おまえざきおおやま
御前崎佐倉	おまえざきさくら
牧之原坂部	まきのはらさかべ
藤枝花倉	ふじえだはなくら
静岡落合	しずおかおちあい
静岡漆山	しずおかうるしやま
静岡但沼	しずおかただぬま

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（伊豆地域）



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

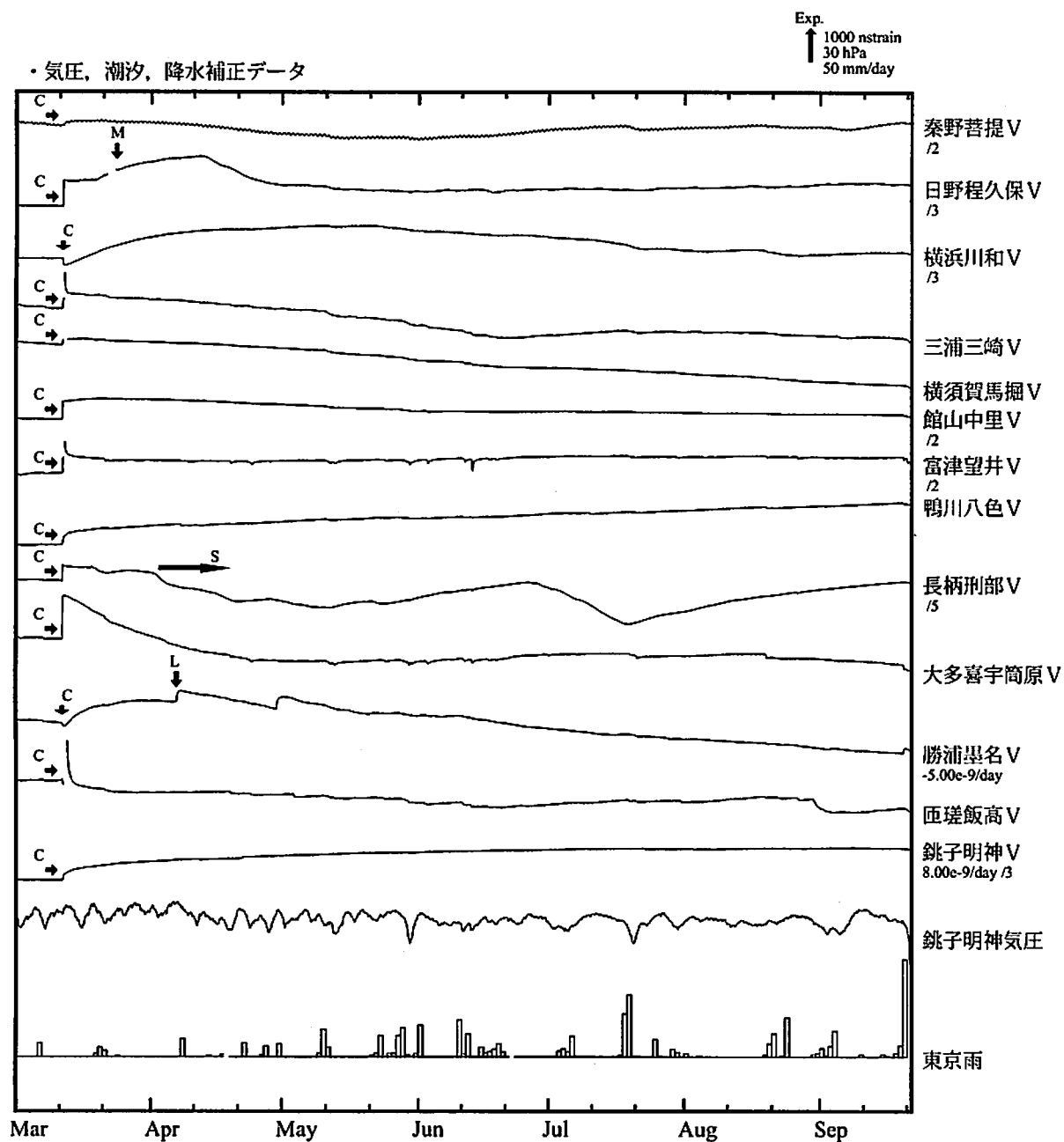
- ・ 7月中旬に伊豆東部の地震活動に伴う変化が見られた(図中*1)。
- ・ 9月中旬に伊豆東部の地震活動に伴う変化が見られた(図中*2)。

表示観測点の名称

- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

富士鶴無ヶ淵	ふじうないがふち
湯河原鍛冶屋	ゆがわらかじや
熱海下多賀	あたみしもたが
東伊豆奈良本	ひがしいずならもと
伊豆小下田	いずこしもだ
南伊豆入間	みなみいずるま
大島津倍付	おおしまつばいつき

ひずみ変化 時間値 (南関東地域)



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

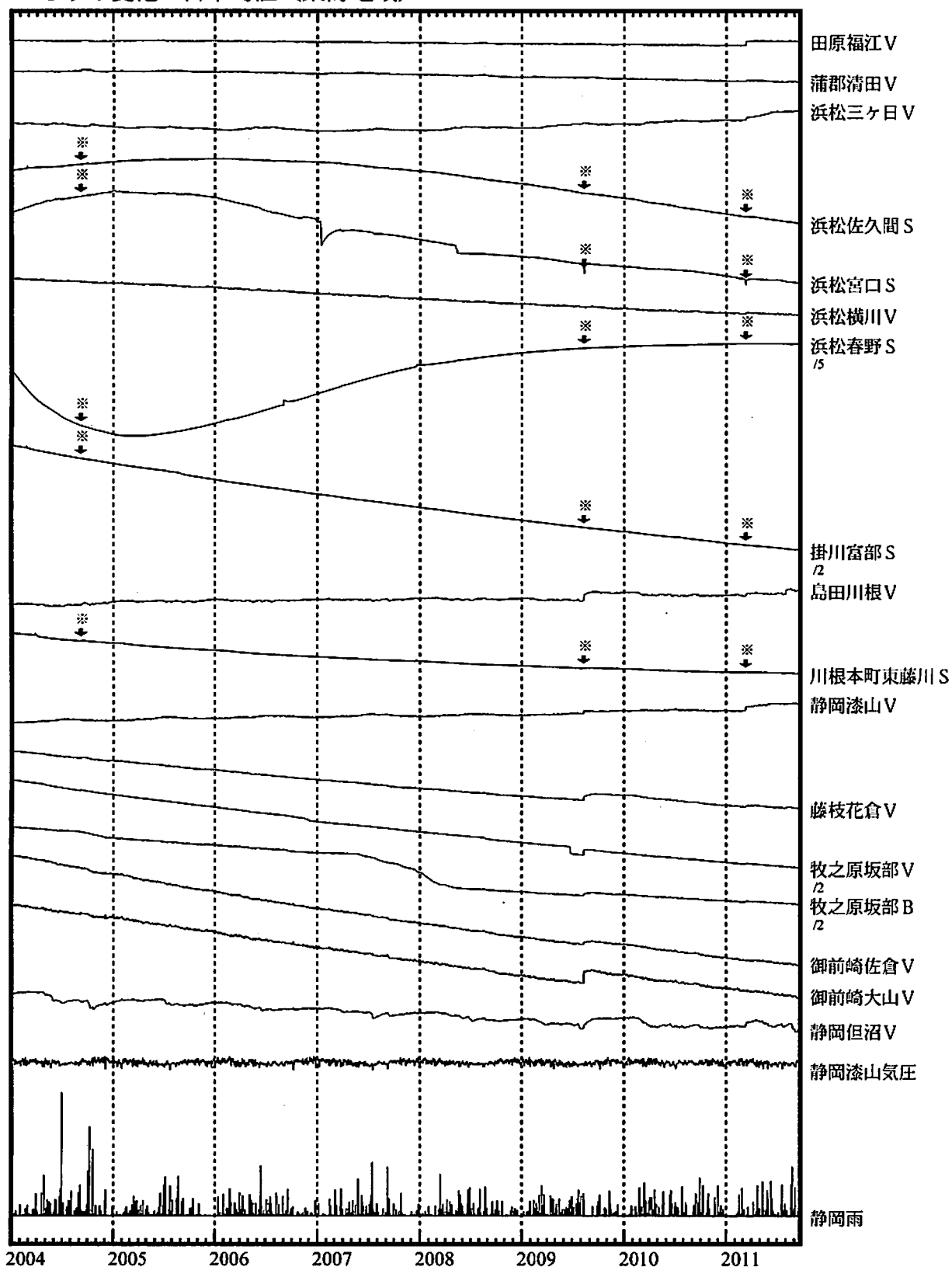
表示観測点の名称

秦野菩提	はだのぼだい
日野程久保	ひのほどくぼ
横浜川和	よこはまかわわ
三浦三崎	みうらみさき
横須賀馬堀	よこすかまぼり
館山中里	たてやまなかざと
富津望井	ふつつもちい
鴨川八色	かもがわやいろ
長柄刑部	ながらおさかべ
大多喜宇筒原	おおたきうとうばら
勝浦墨名	かつうらとな
匝瑳飯高	そうさいいだか
銚子明神	ちょうしみょうじん

気象庁作成

ひずみ変化 日平均値 (東海地域)

↑5000 nstrain
100 hPa
100 mm

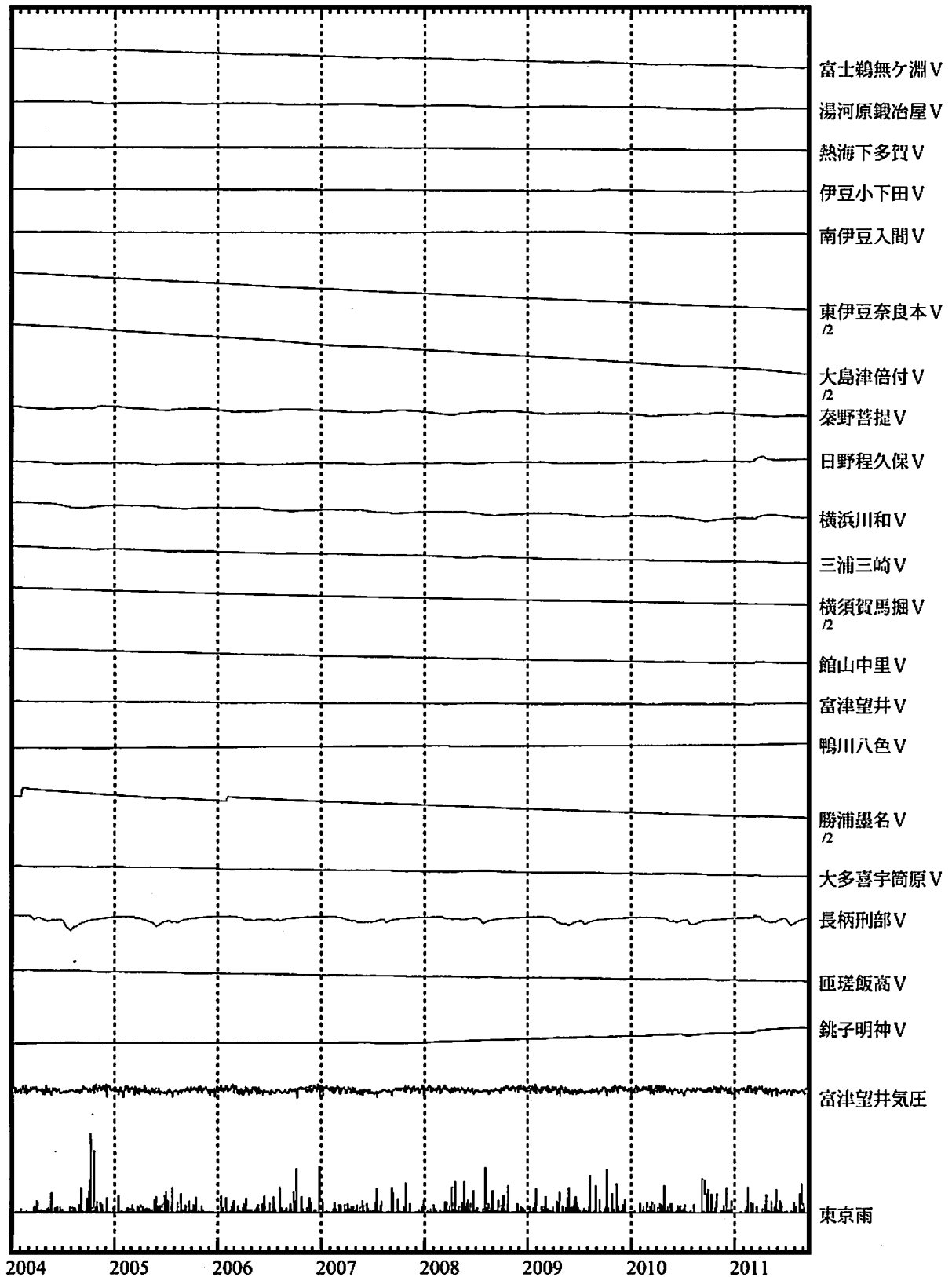


※面積ひずみは、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除外して計算している。

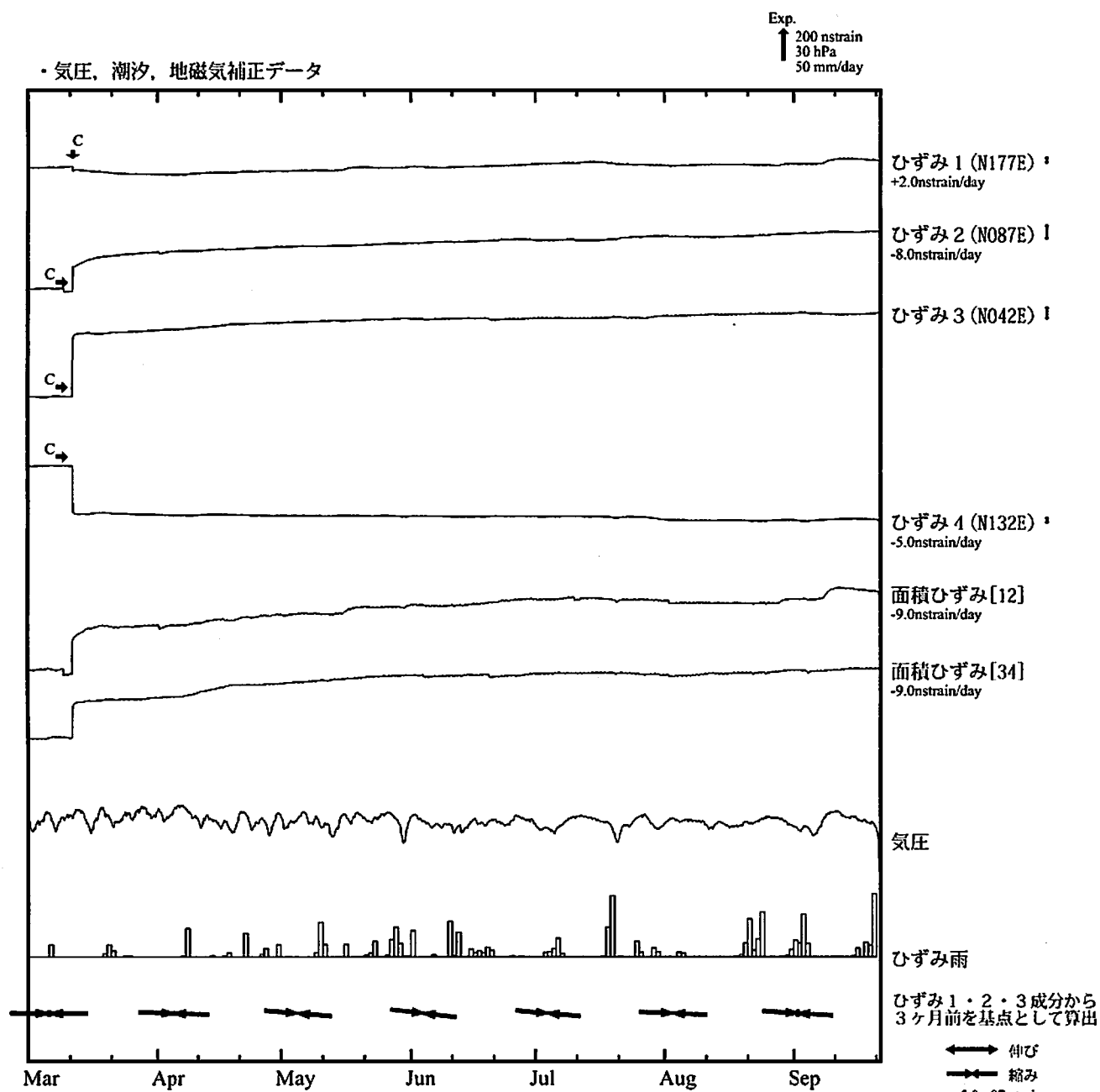
気象庁作成

ひずみ変化 日平均値 (伊豆・南関東)

↑ 30000 nstrain
100 hPa
100 mm

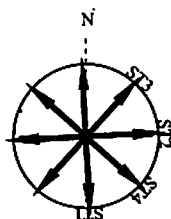


掛川富部（かけがわとんべ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

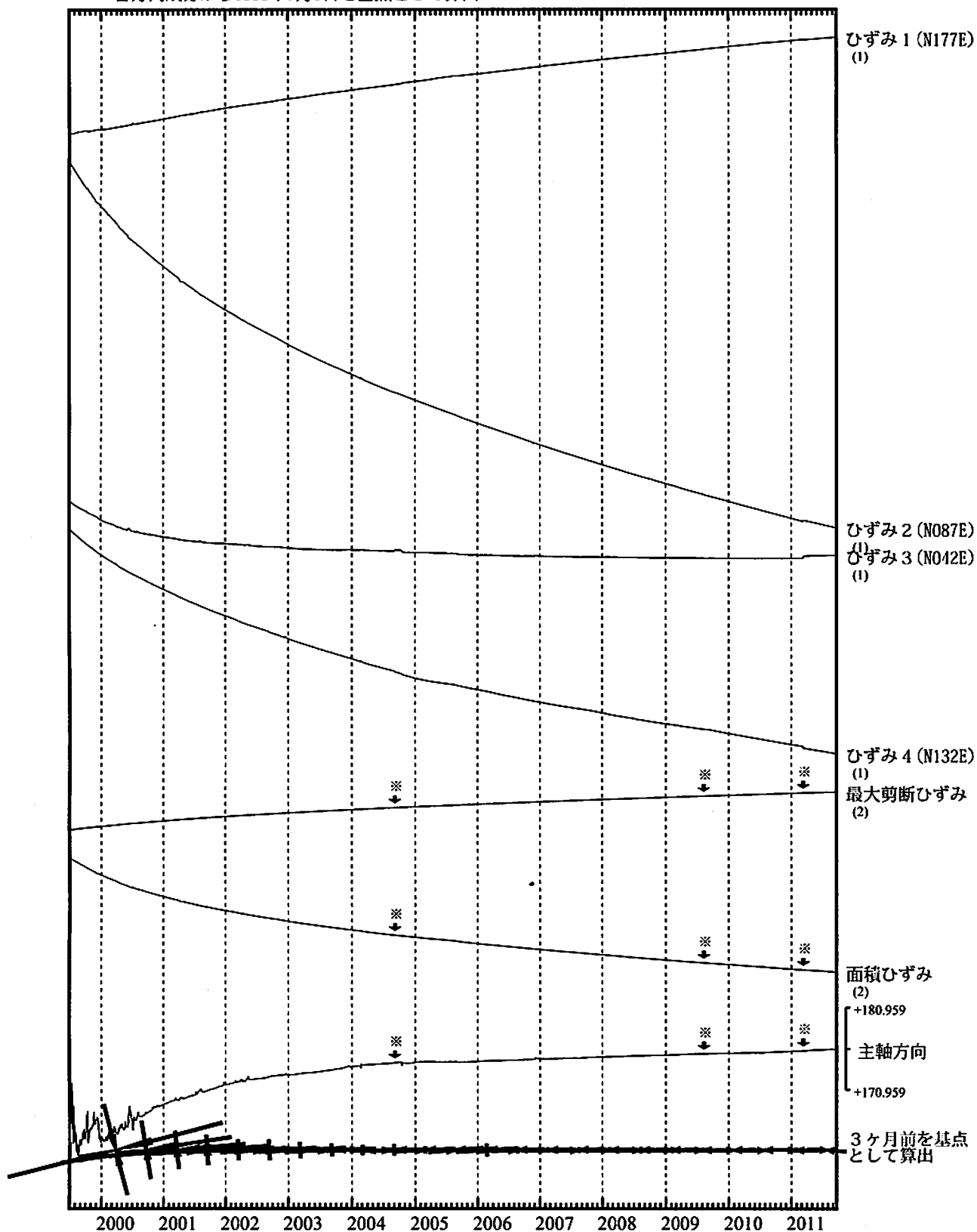


C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

掛川富部ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain (1)
20000 nstrain (2)



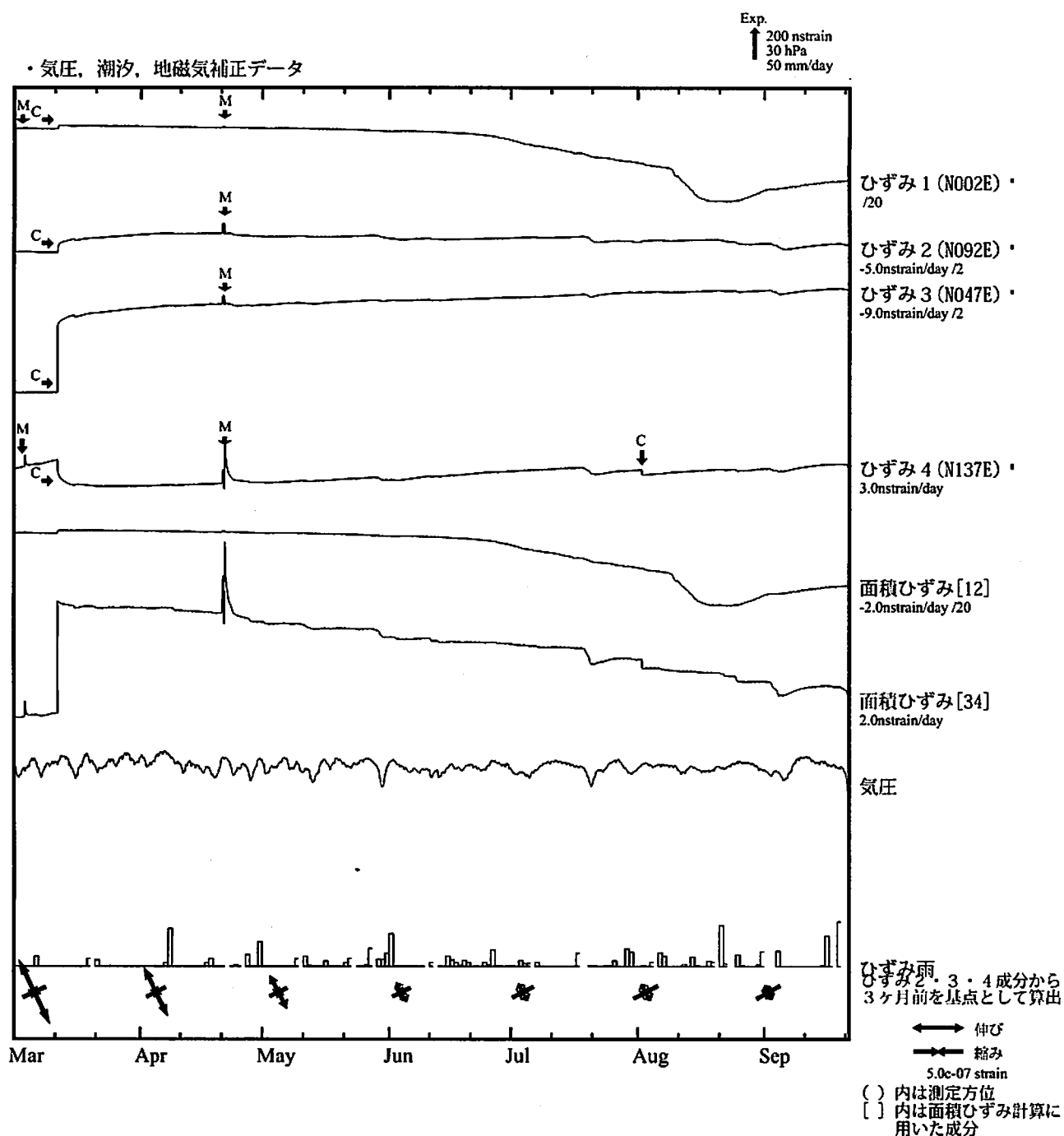
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

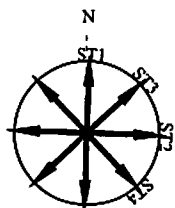
気象庁作成

浜松春野（はまつはるの） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

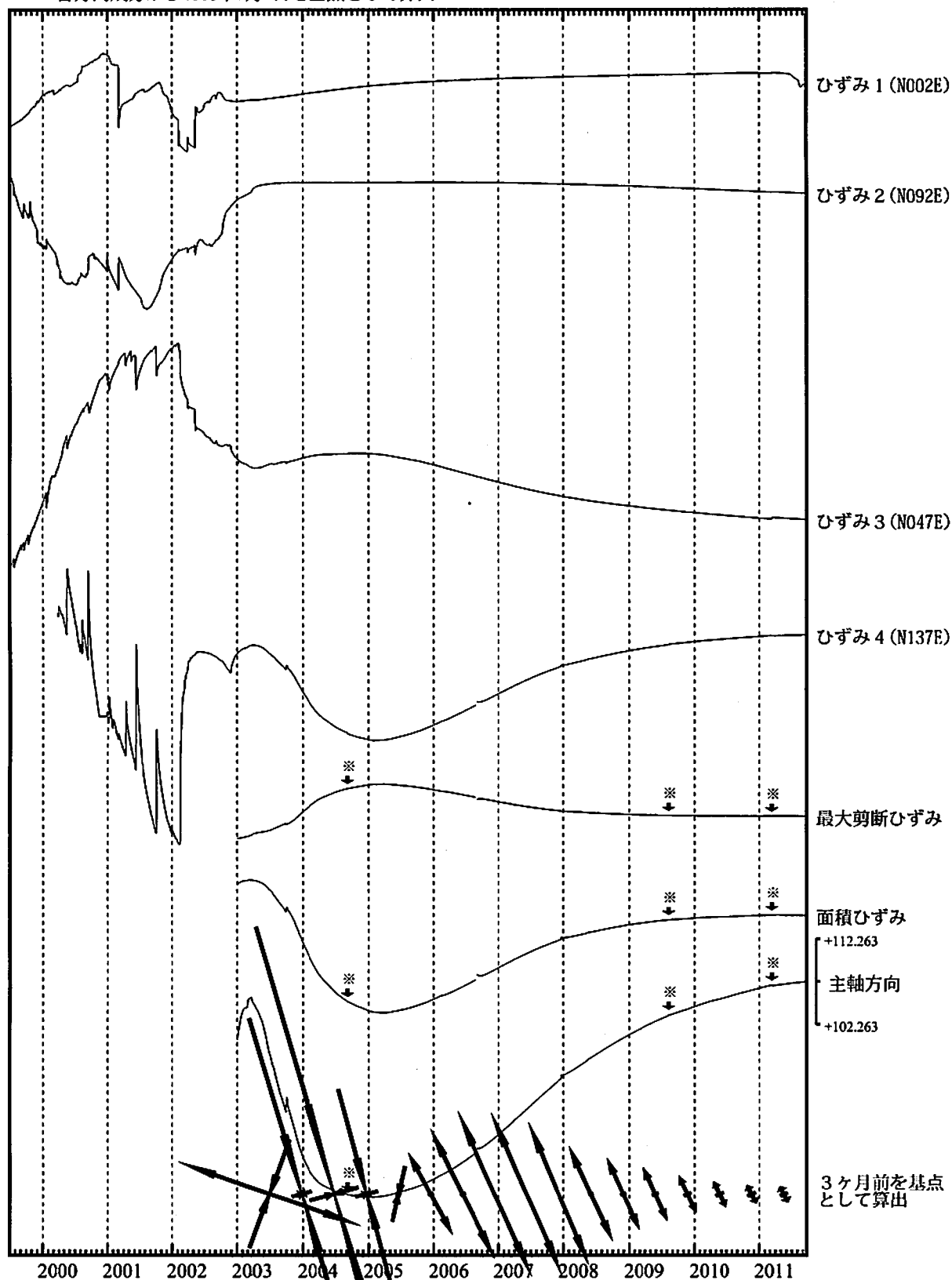


C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

浜松春野ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ2、3、4の
各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 20000 nstrain

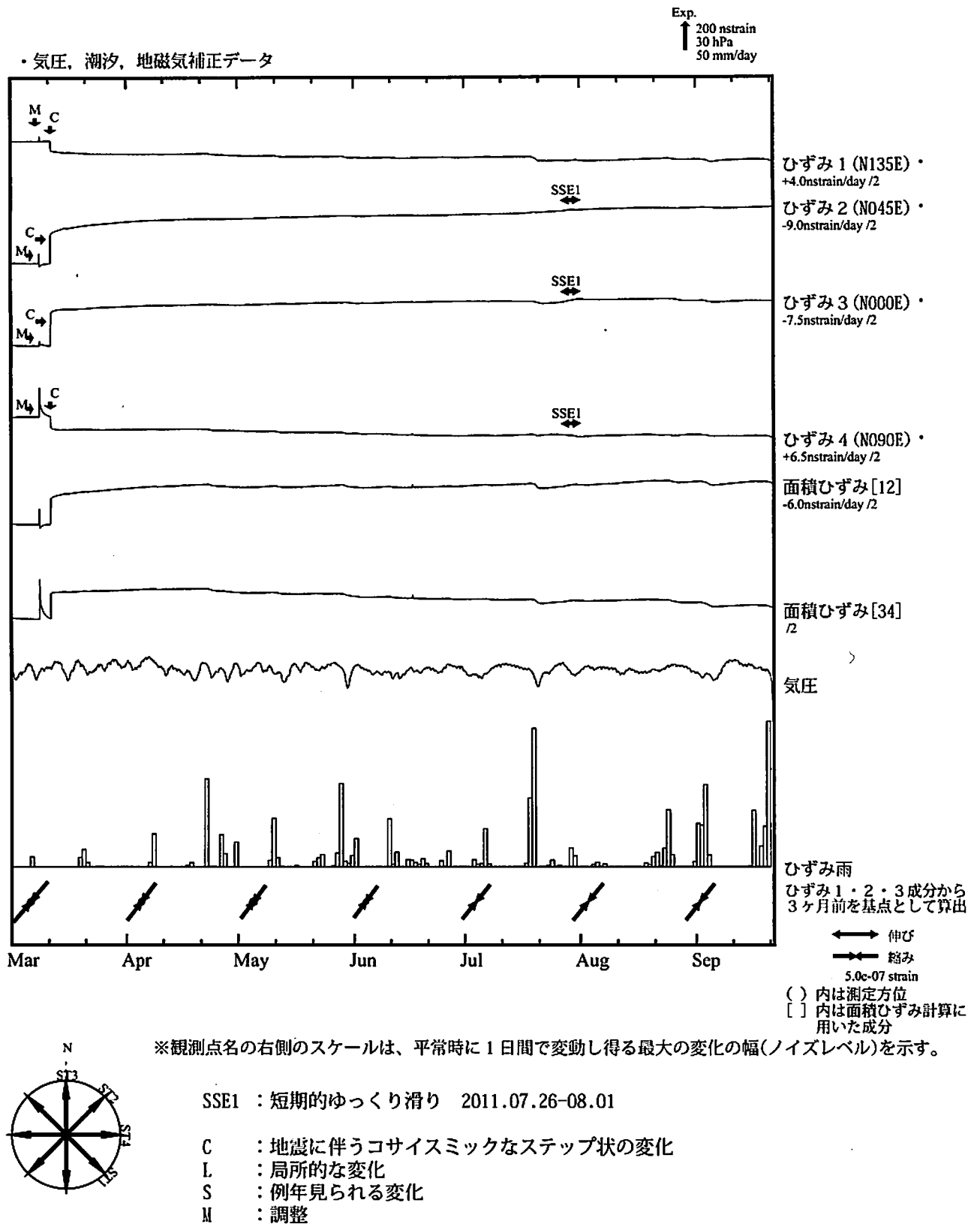


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
2.0e-06 strain

気象庁作成

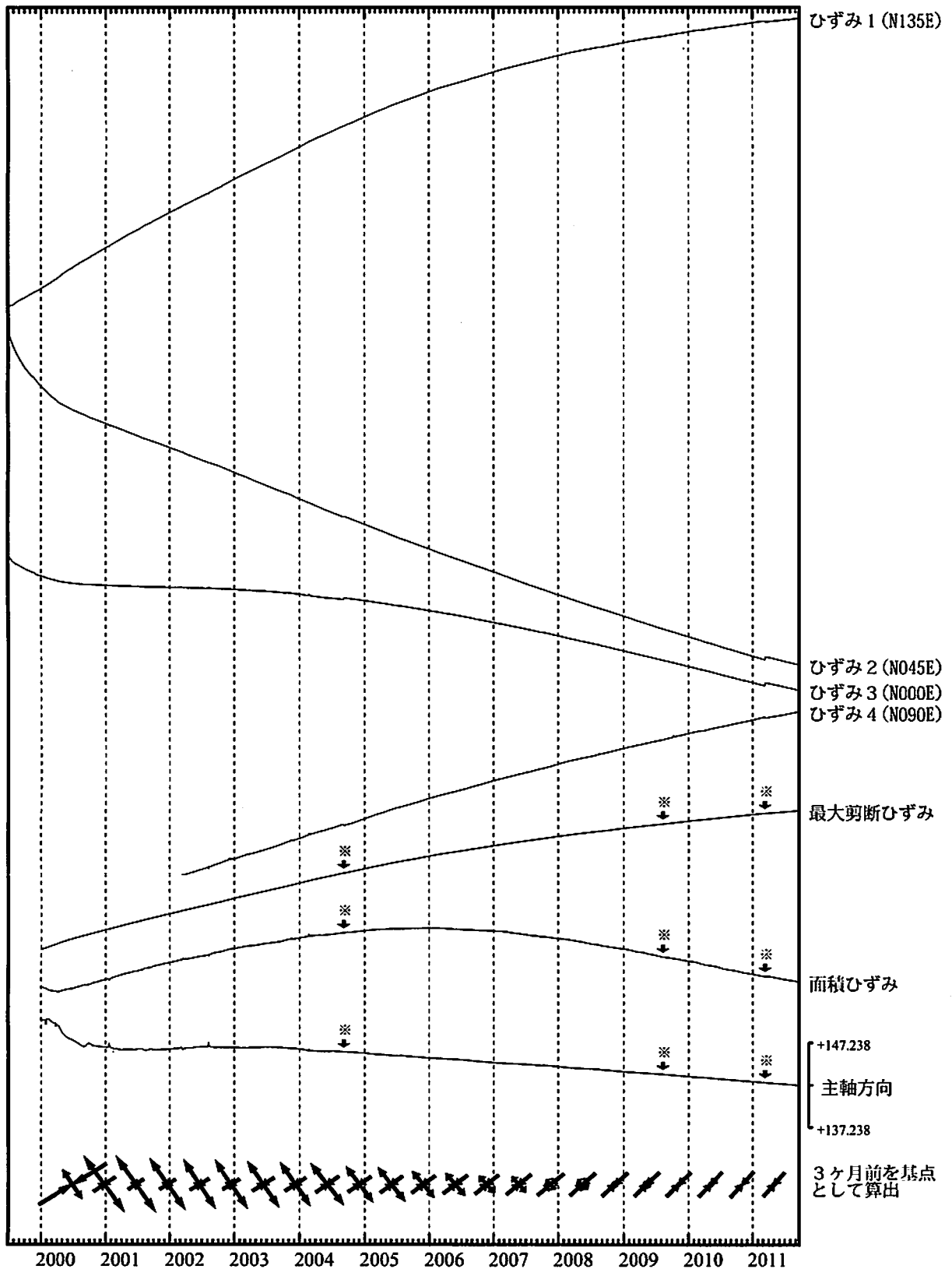
浜松佐久間（はまつさくま）ひずみ変化 時間値



浜松佐久間ひずみ変化（日値）

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

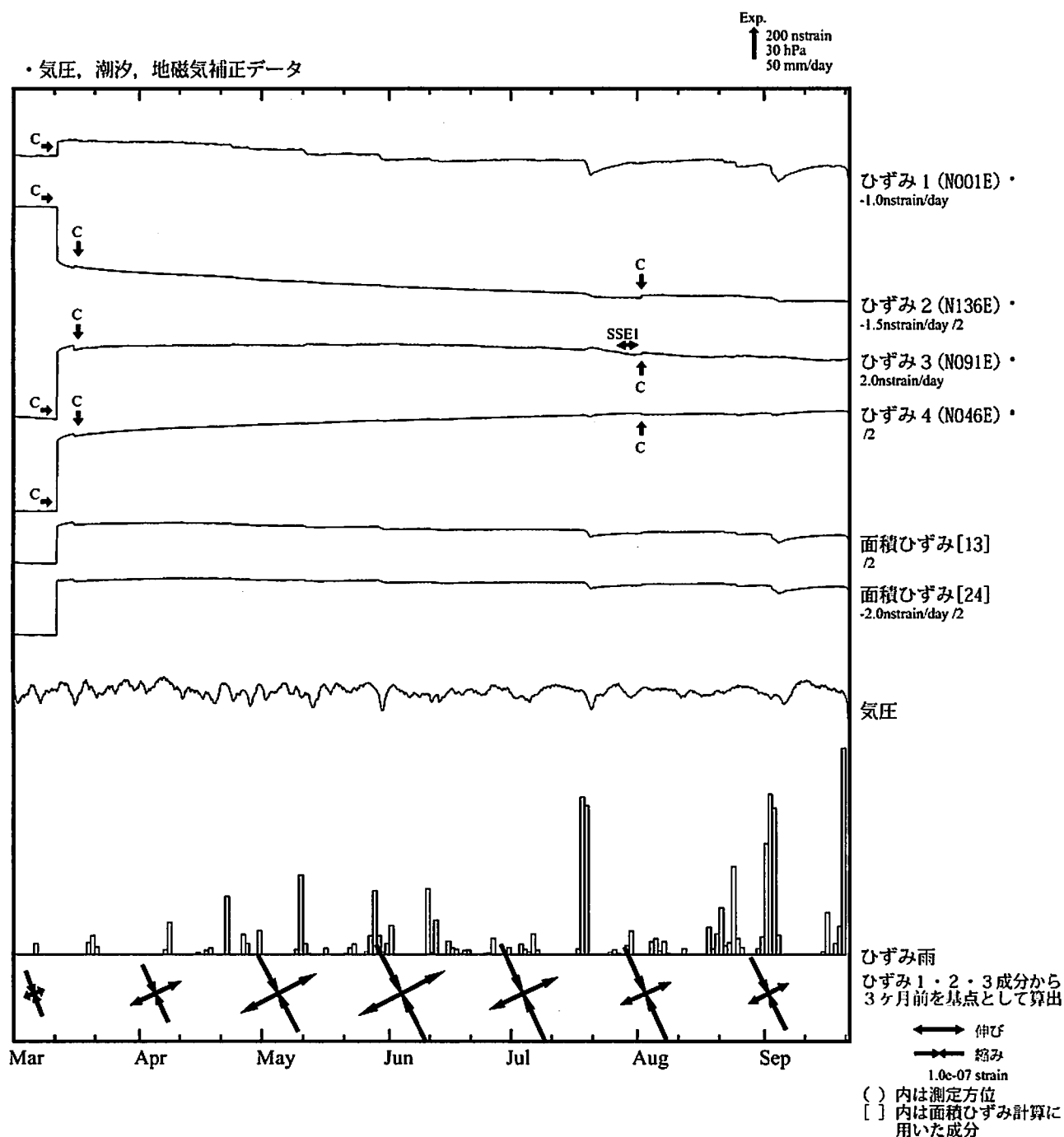


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

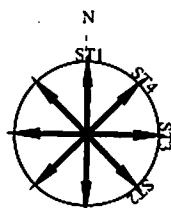
←→ 伸び
←→ 縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

川根本町東藤川（かわねほんちょうひがしふじかわ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



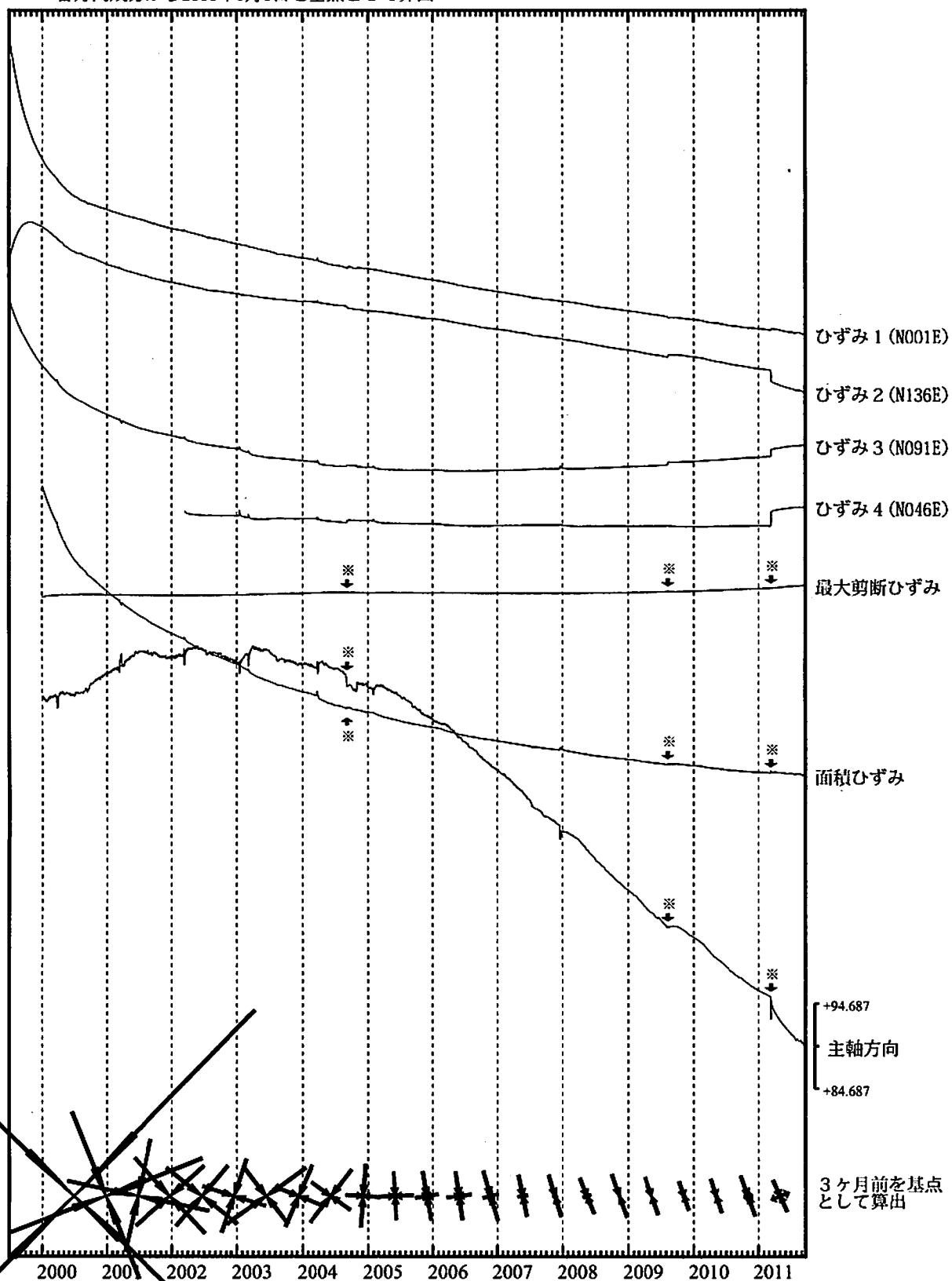
SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01

C : 地震に伴うコサイミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

川根本町東藤川ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみおよび面積ひずみはひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 2000 nstrain

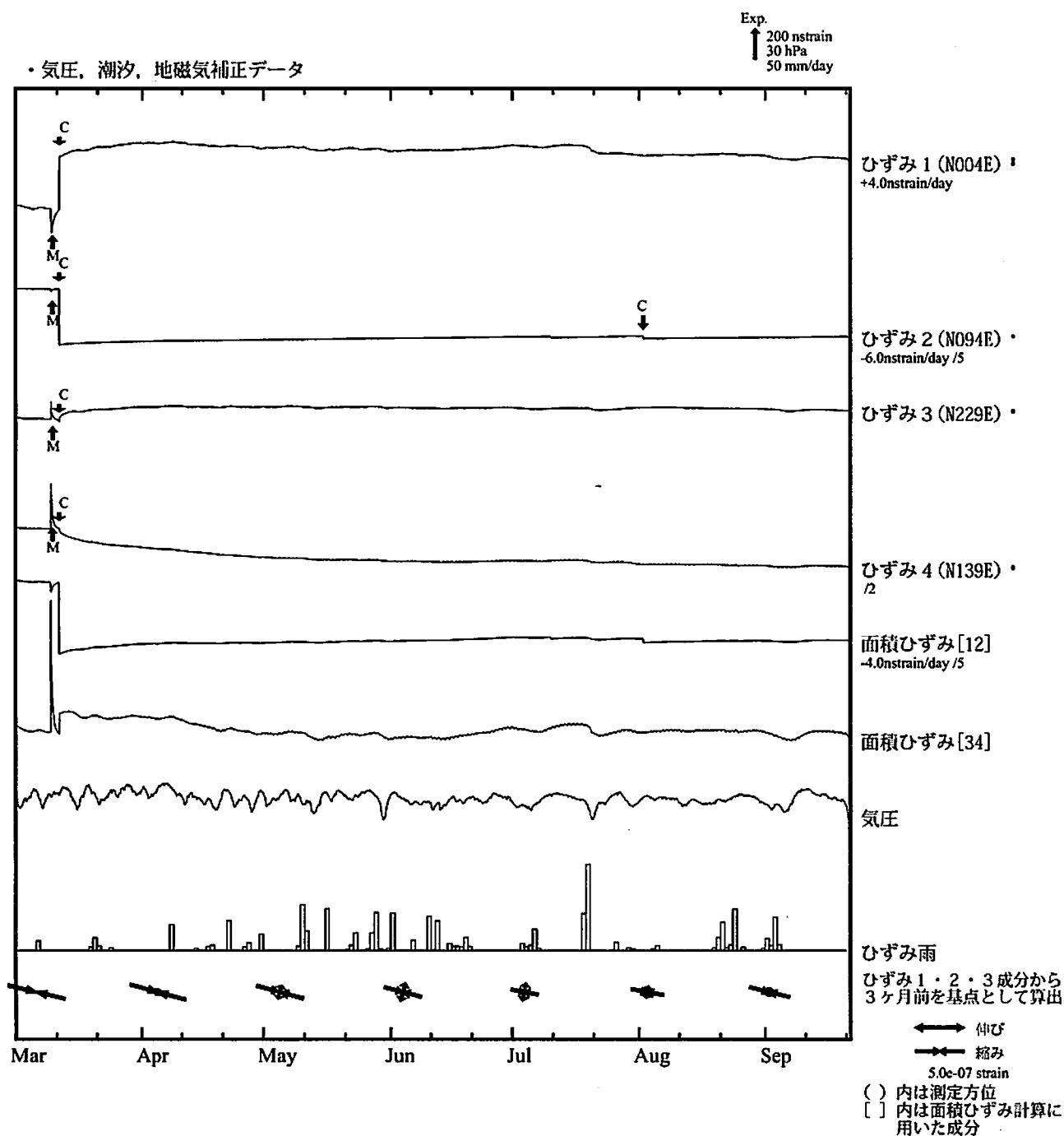


* 最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

伸び
縮み
2.0e-07 strain

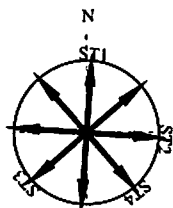
気象庁作成

浜松宮口（はまつみやぐち） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

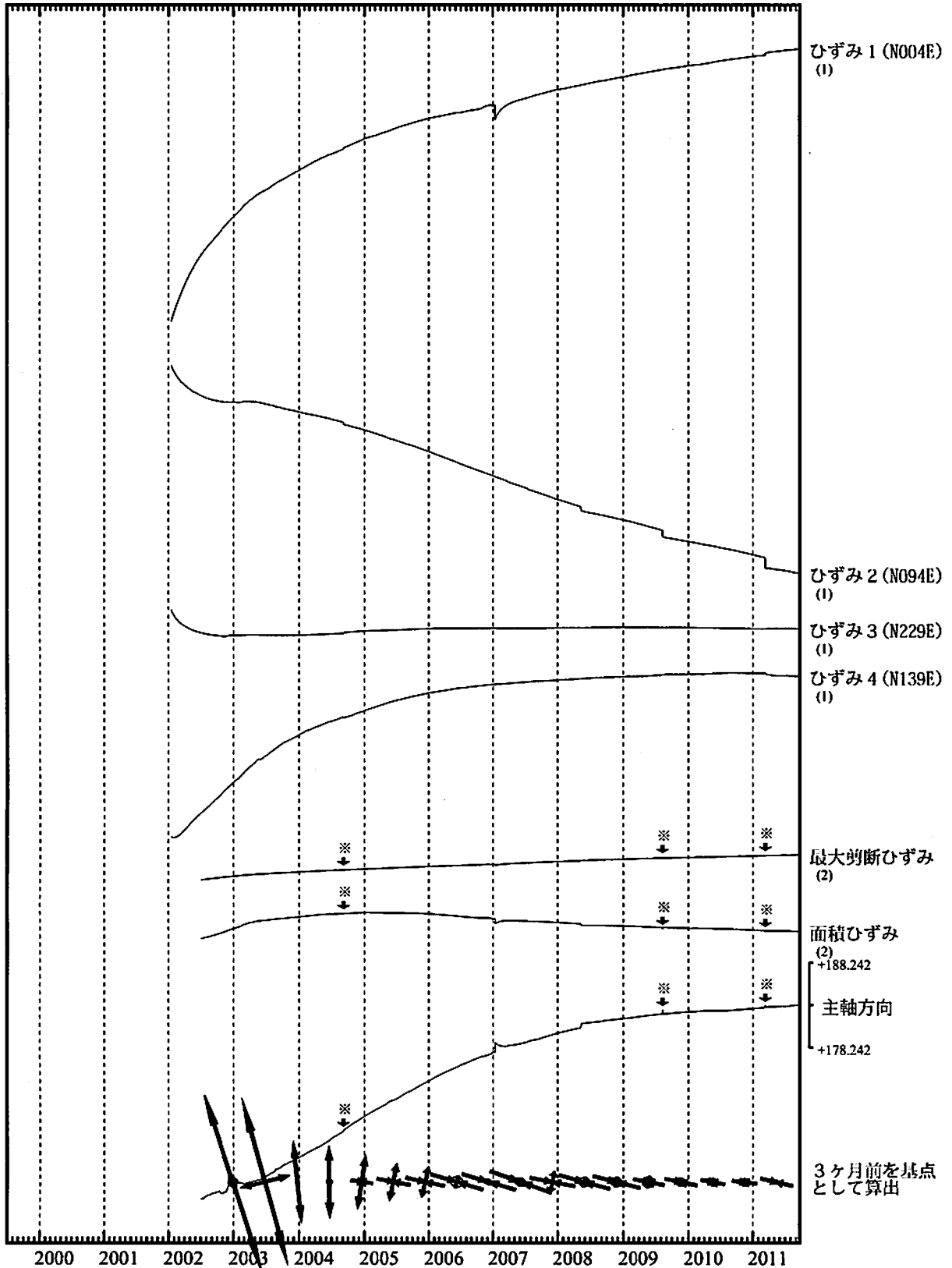


- C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

浜松宮口ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain (1)
↑ 20000 nstrain (2)



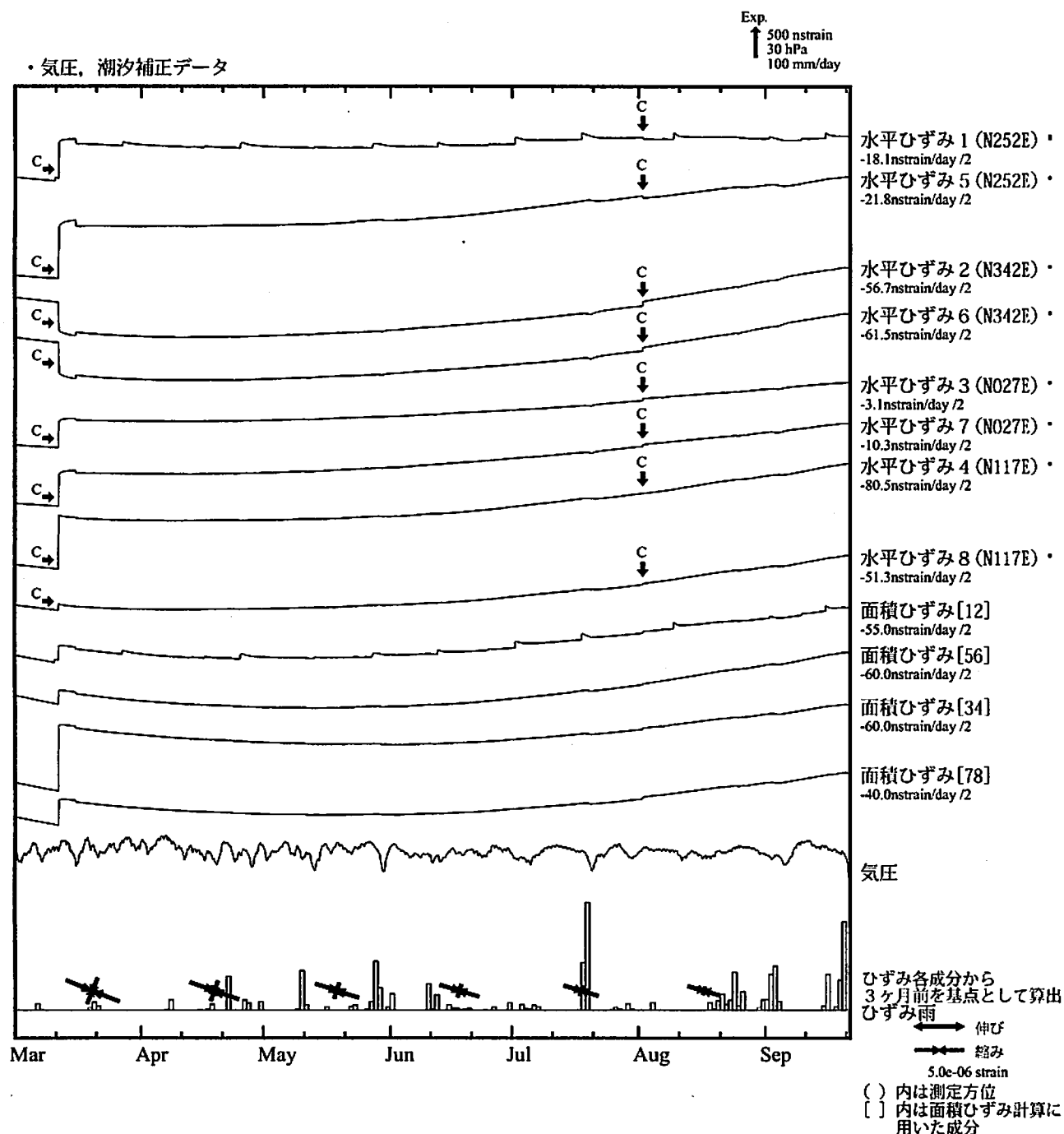
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

←→ 伸び
→← 縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

静岡落合（しずおかおちあい） ひずみ変化 時間値



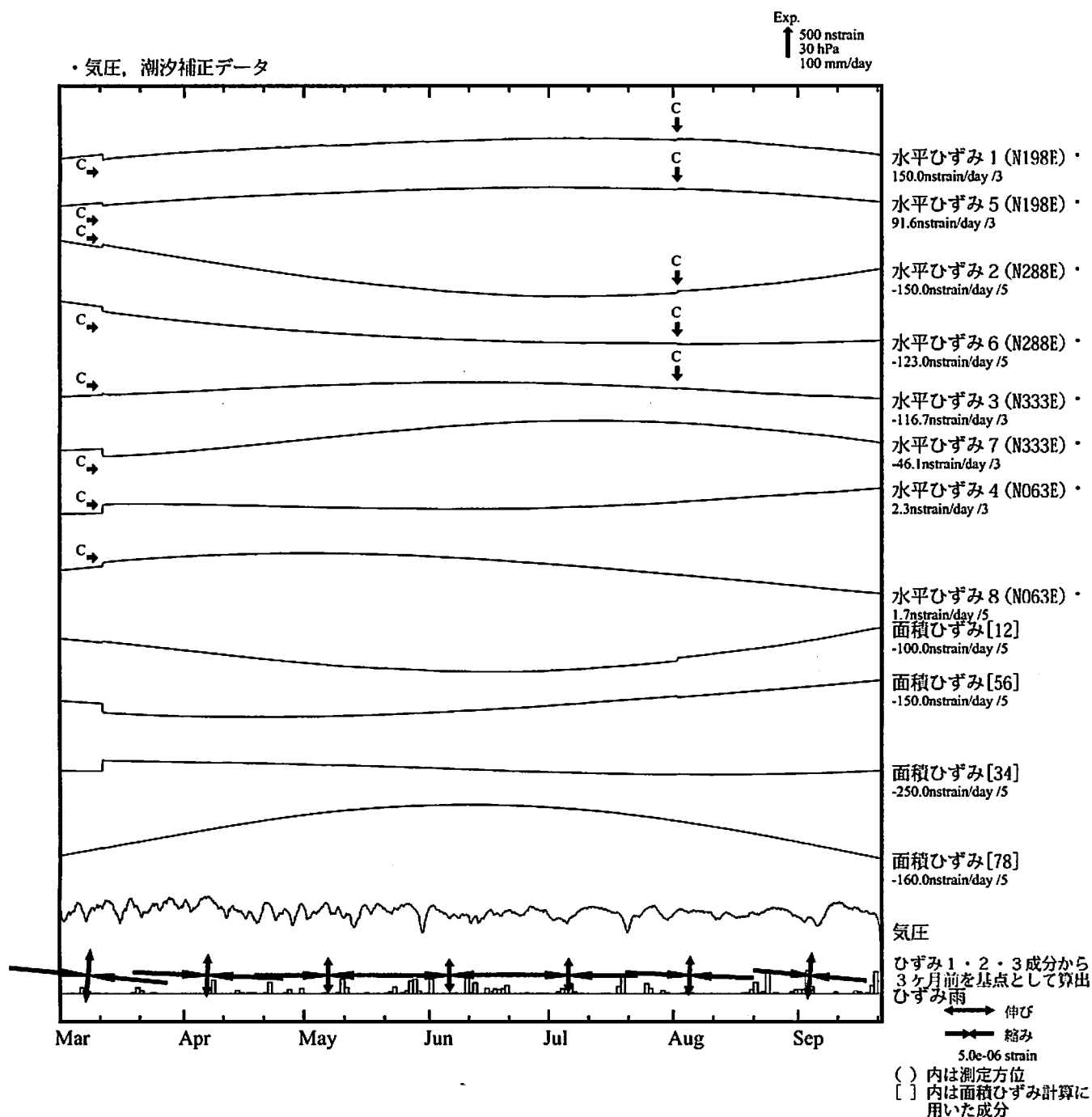
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。



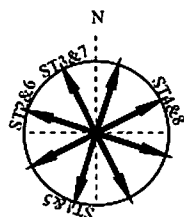
- C : 地震に伴うコサイミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

掛川高天神（かけがわたかてんじん） ひずみ変化 時間値



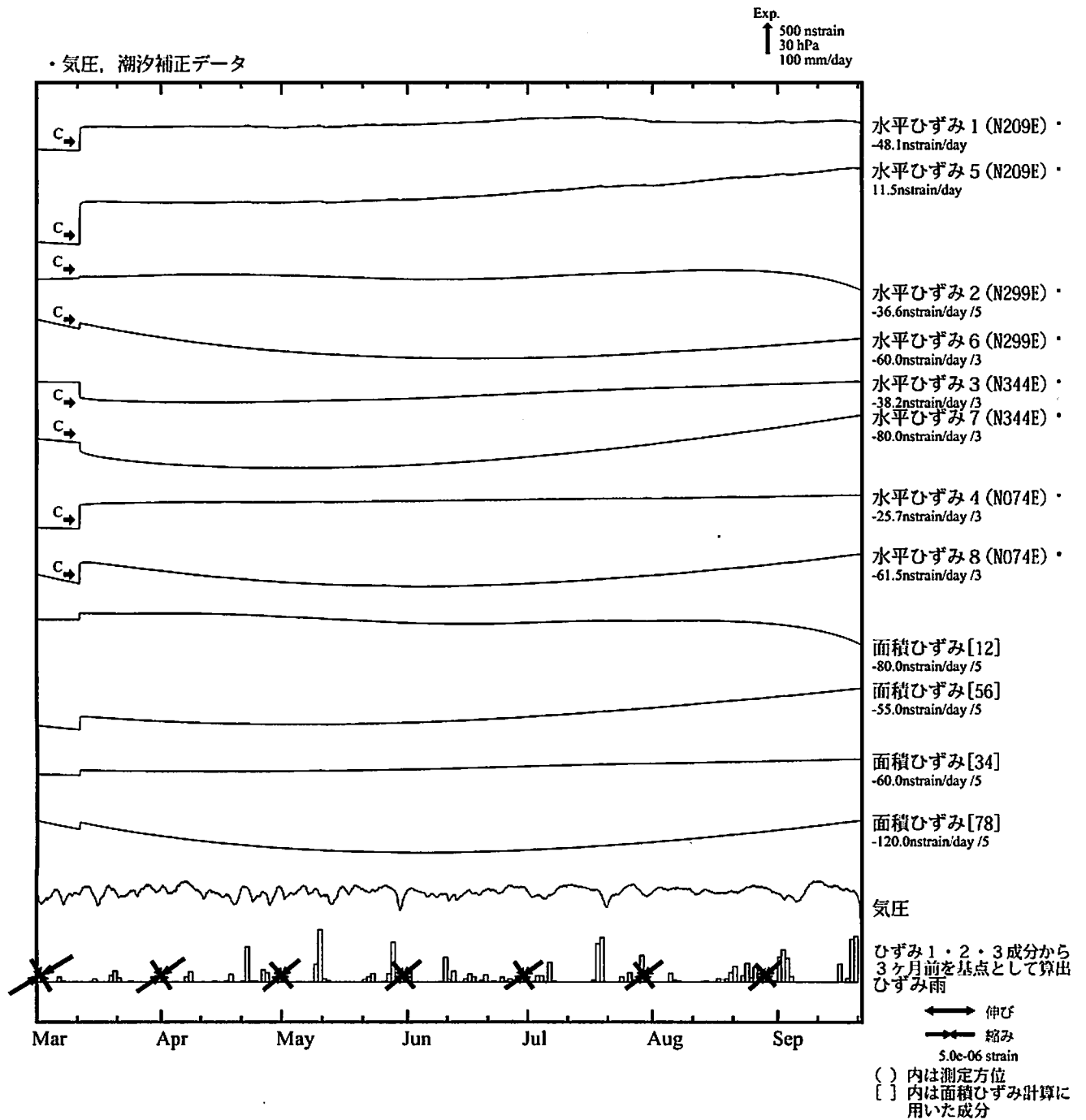
※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。



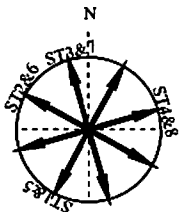
- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

売木岩倉（うるぎいわくら）ひずみ変化 時間値



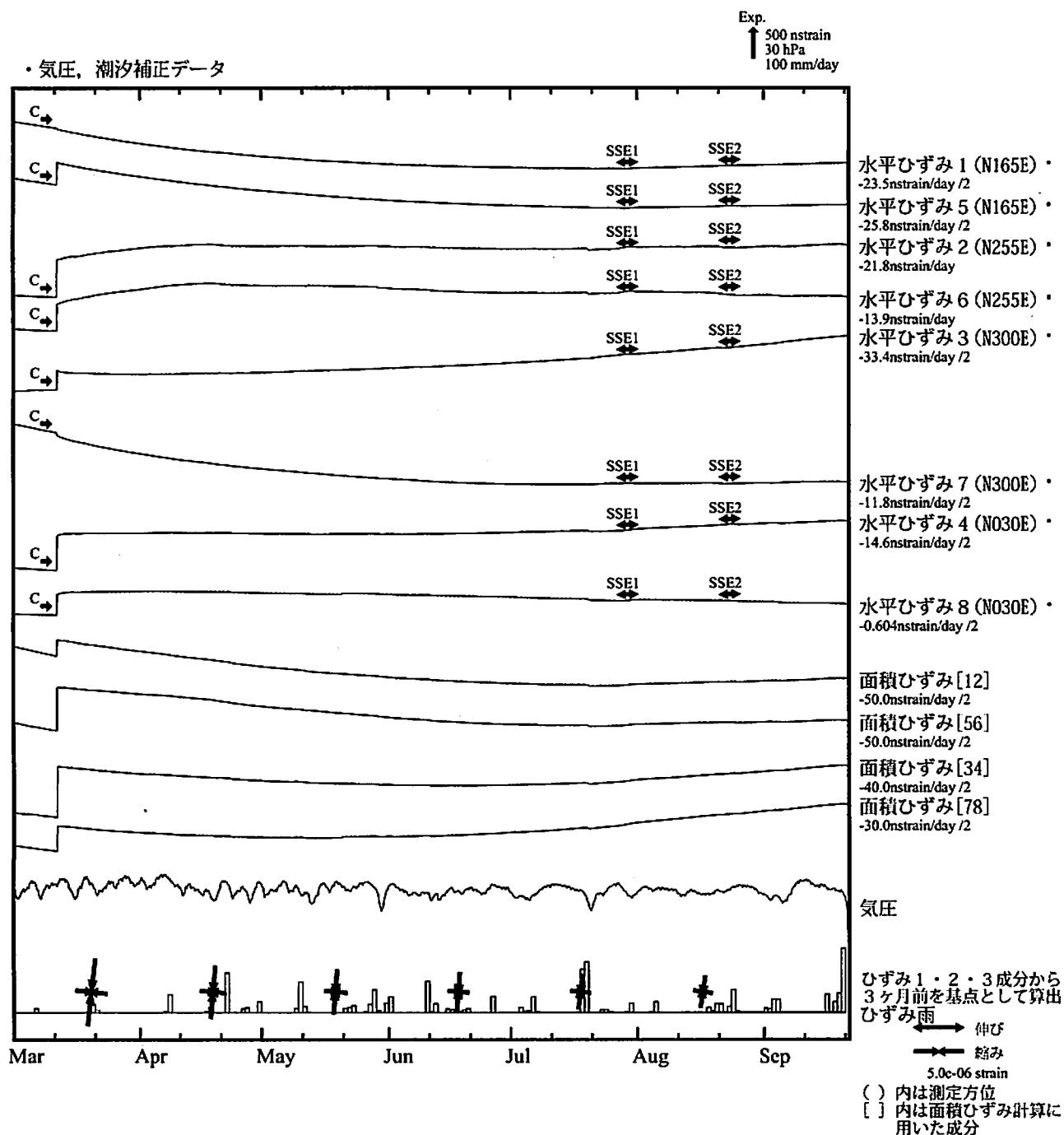
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

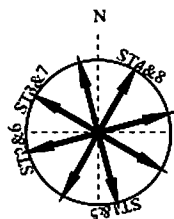


- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

新城浅谷（しんしろあさや） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



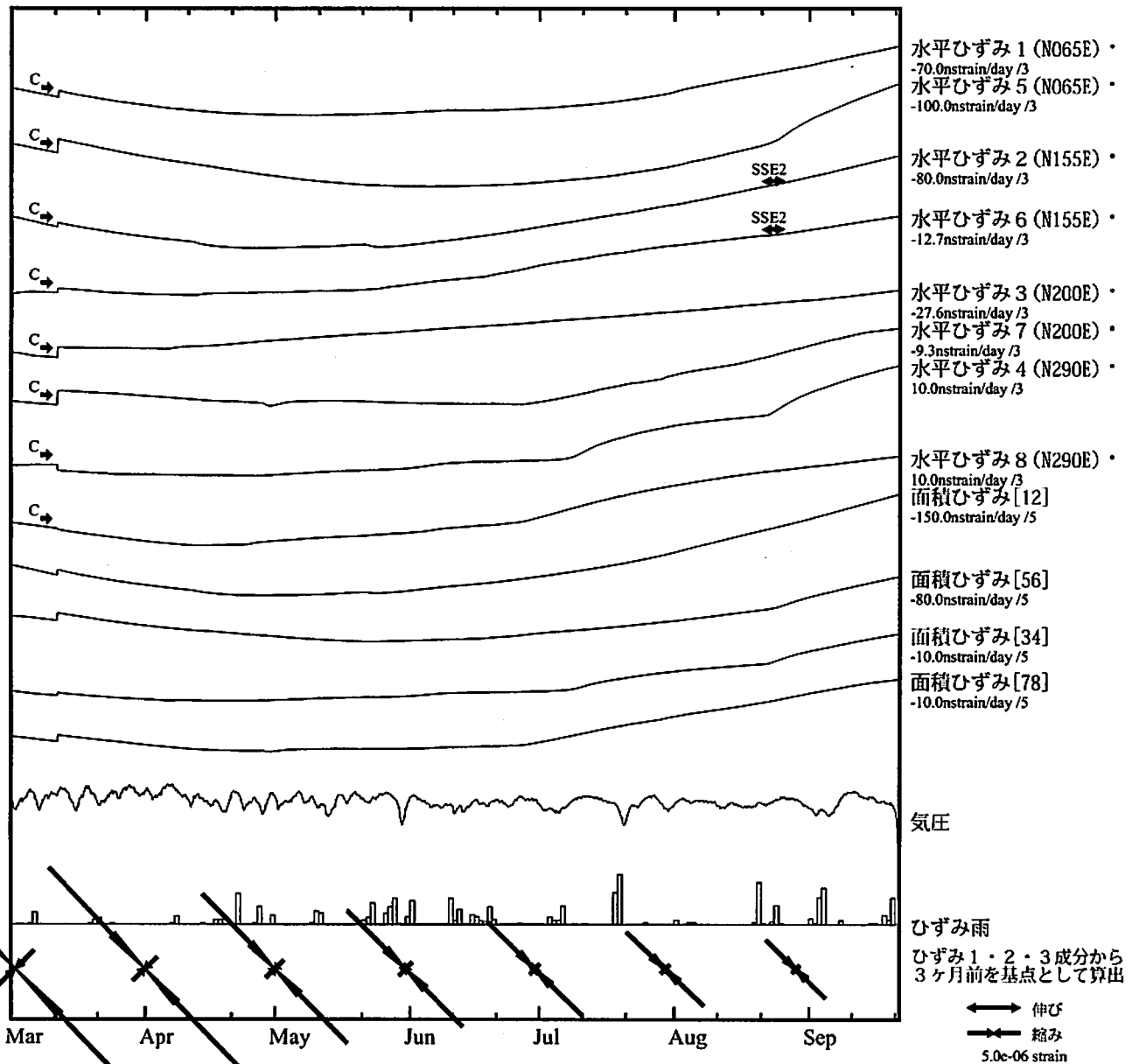
SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01
SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2011.08.20-08.22

C : 地震に伴うコサイミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

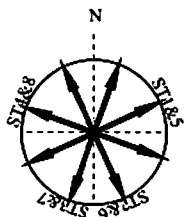
田原高松（たはらたかまつ） ひずみ変化 時間値

・気圧、潮汐補正データ

Exp.
↑ 500 nstrain
30 hPa
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2011.08.20-08.22

C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
I : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

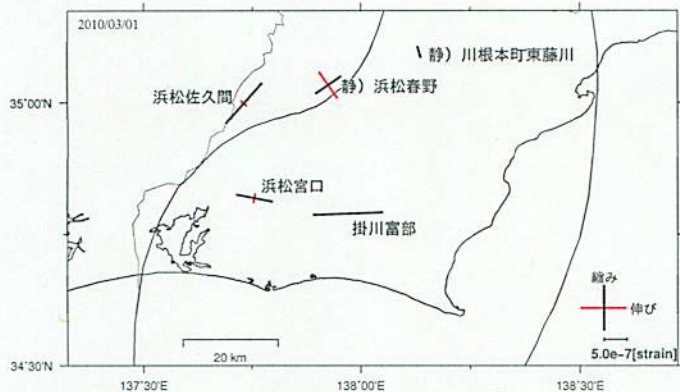
気象庁作成

多成分ひずみ計データ

ひずみ1・2・3成分(浜松春野は、2・3・4成分)から90日前を基準として算出

2010.03.01~2011.09.21

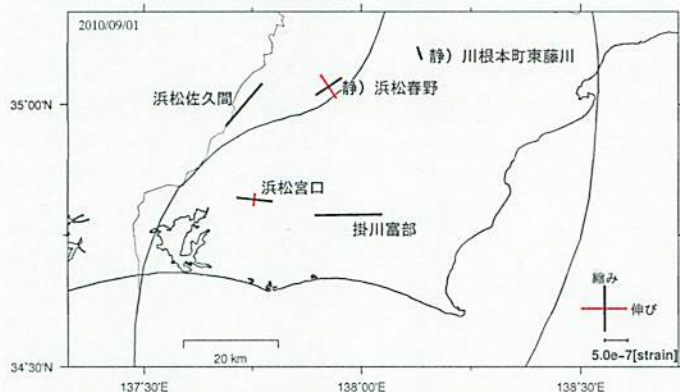
2010/03/01



2010/06/01



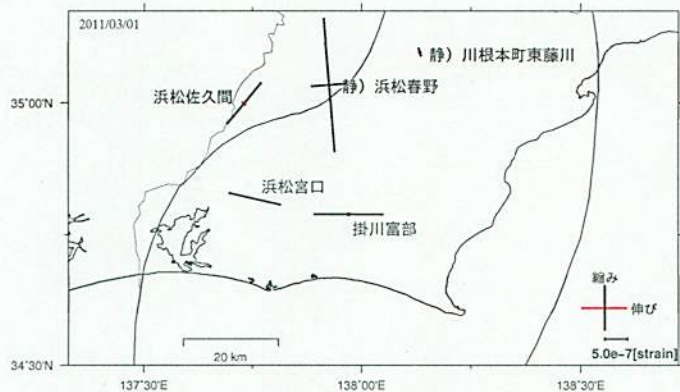
2010/09/01



2010/12/01



2011/03/01



2011/06/01



2011/09/01



2011/09/21

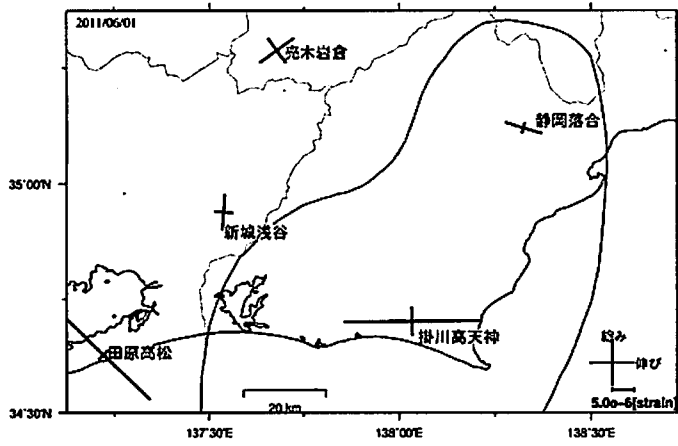


多成分ひずみ計データ 新設点

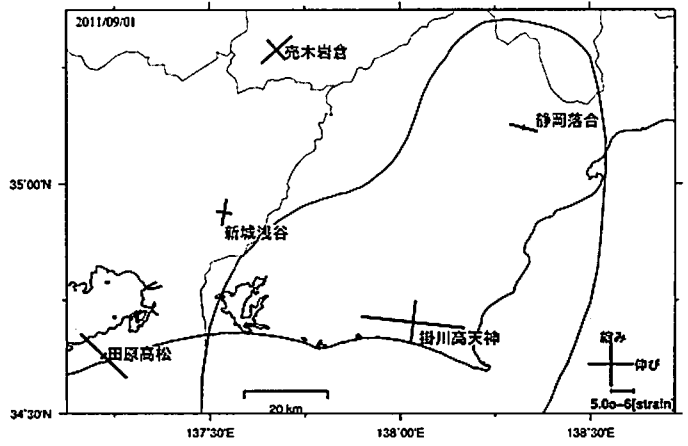
ひずみ1・2・3成分から90日前を基準として算出

2011.06.01～2011.09.21

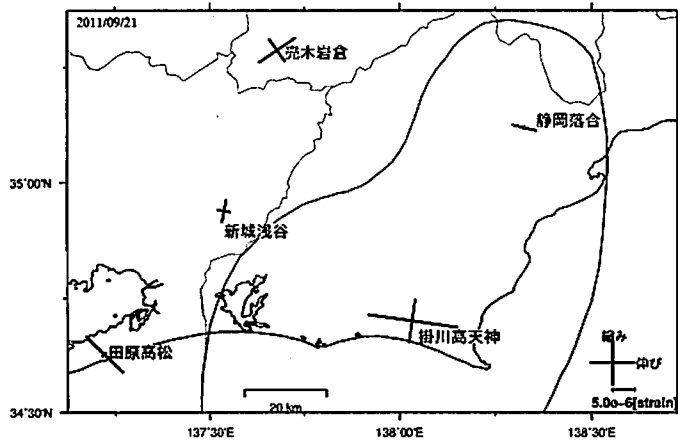
2011/06/01



2011/09/01



2011/09/21



東海地域の短期的ゆっくりすべりの監視

2011.08.22～2011.09.22

今期間、気象庁が監視している東海地方の各体積ひずみ計、多成分ひずみ計で短期的ゆっくりすべりが原因とみられる明瞭な変化は観測されていない。

東海周辺ひずみ変化1

10E-07 strain
60 mm/Year
10 count/Year
< 2011/ 8/22 0:00 - 2011/ 9/22 0:00 >
気圧、潮汐、降水 (体積ひずみ)、磁気 (多成分ひずみ) 補正データ

田原福江
蒲郡清田

掛川富部
1～4

浜松春野
2～4

浜松佐久間
1～4

川根本町東藤川
1～4

浜松宮口
1～4

低周波地震回数
蒲郡清田雨

東海周辺ひずみ変化2

2.0E-07 strain
30 mm/Year
< 2011/ 8/22 0:00 - 2011/ 9/22 0:00 >
気圧、潮汐補正データ

静岡落合
5～8

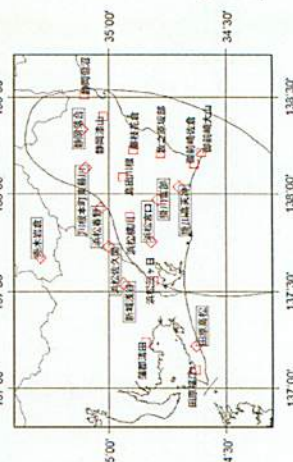
掛川高天神
5～8

売木岩倉
5～8

新城浅谷
5～8

田原高松
1～3, 8

田原高松雨



□ 体積ひずみ観測点
◇ 多成分ひずみ観測点

※浜松春野・川根本町東藤川は静岡県整備

気象庁作成